

ITU-R WP5D
第9回会合報告書

第1.0版

平成23年3月24日

日 本 代 表 団

ITU-R WP5D 第9回(中国、重慶)会合報告書 目次

1. はじめに	1
2. 会議構成	2
3. 主要結果	3
3.1 全体の主要結果	3
3.2 各WG等の主要結果	3
4. 所感及び今後の課題	7
5. 各WG等における主要論議	8
5.1 WG GENERAL ASPECTS	8
5.1.1 SWG IMT HANDBOOK	10
5.1.2 SWG IMT UPDATE	11
5.2 WG TECHNOLOGY ASPECTS	12
5.2.1 SWG IMT SPECIFICATIONS	15
5.2.2 SWG M.1580 & M.1581	17
5.2.3 SWG RADIO ASPECTS	18
5.2.4 SWG EVALUATION	20
5.2.5 SWG COORDINATION	21
5.2.5.1 DG COORDINATION	22
5.3 WG SPECTRUM ASPECTS	24
5.3.1 SWG SHARING STUDIES	28
5.3.1.1 DG UHF SHARING	35
5.3.1.2 DG REVISION M.2039	37
5.3.1.3 DG IMT MITIGATION	38
5.3.1.4 DG ANTENNA ISOLATION	43
5.3.2 SWG FREQUENCY ARRANGEMENTS	47
5.3.2.1 DG 3.5GHZ	49
5.4 AH WORKPLAN	50
5.5 AH VOCABULARY	53
6. Region 3 非公式会合	54
7. 今後の予定等	56
7.1 WP5D 及び関連会合の今後の開催予定	56
7.2 次会合に向けての日本のアクション事項	56
7.2.1 WG GENERAL ASPECTS 関係	56
7.2.2 WG TECHNOLOGY ASPECTS 関係	56
7.2.3 WG SPECTRUM ASPECTS 関係	56
付属資料1 参加国・機関と寄与文書数	59
付属資料2 ITU-R WP5D 第9回会合日本代表団名簿	63
付属資料3 日本寄書等の審議結果	65
付属資料4 入力文書一覧	69

付属資料5 出力文書一覧	75
付属資料6 各 WG の当面のスケジュール	79
参考資料1 IMT-Advanced 無線インタフェース勧告の開発スケジュール	81

1. はじめに

IMT(IMT-2000 と IMT-Advanced を集散的に称するルートネーム)の地上系コンポーネントの更なる開発を目指す”Future development of the terrestrial component of IMT”を所掌とする ITU-R SG5(Study Group 5) WP5D(Working Party 5D)の第9回会合が、2010年10月13日～20日に中国の重慶市において開催されたので、その結果について報告する。

前回の WP5D 第8回会合(2010年6月9日～16日、ベトナムのダナンにて開催)では、モバイル市場に関する新勧告/レポート草案に向けた作業、IMT-2000 ハンドブックの作成に関する作業、IMT-2000 無線インタフェースの詳細勧告第10版(M.1457-10)への改訂作業、IMT-Advanced 無線インタフェースの選定プロセスにおけるステップ4、5、6(評価作業)に対応した作業、IMT-Advanced 無線インタフェースの詳細仕様に関する新勧告草案 M.[IMT.RSPEC]の作成に関する作業、IMT-2000 の不要輻射に関する勧告 M.1580 及び M.1581 の第4版に向けた改訂作業、新レポート草案 M.[IMT.RADIO]に関する作業文書の更新作業、IMT 周波数アレンジメント勧告(M.1036-3)の改訂に向けた作業文書の更新、3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告案 M.[IMT Mitigation]の更新、IMT-2000 インタフェースの共用検討パラメータに関するレポート(M.2039)の改訂に向けた作業文書の更新、IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート草案 M.[ANT ISO]の作業文書更新等が行われた。

今回の WP5D 第9回会合では、前回会合に引き続き、主な検討・作業として、IMT のためのグローバルな広帯域無線サービス及び市場の解析と評価に関する作業文書 M.[IMT.UPDATE]及び IMT のグローバルな動向に関するハンドブック[IMT.HANDBOOK]に関する検討、IMT システムを検討するためのワークショップの進め方についての検討、IMT-Advanced 無線インタフェースに関しては、選定プロセスにおけるステップ6から8に対応した作業、及び新レポート草案 M.[IMT.RADIO]の策定作業並びに詳細仕様に関する新勧告草案 M.[IMT.RSPEC]に向けた作業文書の更新作業、勧告 M.1580 及び M.1581 の第4版に向けた改訂作業、コグニティブ無線システムの新レポート草案 M.[IMT.CRS]に向けた作業文書の更新作業を実施するとともに、周波数アレンジメント勧告(M.1036-3)の改訂作業、新勧告草案 M.[IMT.MITIGATION]に向けた作業文書の更新、レポート(M.2039)の改訂作業、新レポート草案 M.[ANT ISO] に向けた作業文書の更新等が行われた。

今回の会合には、23ヶ国及び29の機関から合計201名の参加(付属資料1参照)があり、日本代表团としては22名が参加した(付属資料2参照)。

入力文書は82件であり、このうち日本から入力した寄書は9件(日中韓による共同寄書3件を含む)(付属資料3、4参照)であった。なお、前回会合からキャリアフォワードされた文書が13件あった。

本会合における出力文書(TEMP文書)は合計60件であった(付属資料5参照)。

また、本会合において、以下の2件の文書が採択され、SG5 会合に上程されることとなった。

- ・ 新報告案 ITU-R M.[IMT.RADIO]
“THE OUTCOME OF THE EVALUATION, CONSENSUS BUILDING AND DECISION OF THE IMT-ADVANCED PROCESS (STEPS 4-7), INCLUDING CHARACTERISTICS OF IMT-ADVANCED RADIO INTERFACES” [5D/TEMP/405R2]
- ・ 報告改訂案 ITU-R M.2039-1
“CHARACTERISTICS OF TERRESTRIAL IMT-2000 SYSTEMS FOR FREQUENCY SHARING/INTERFERENCE ANALYSES” [5D/TEMP/448]

2. 会議構成

各 WG 等の担当項目と議長を表 1 に示す。

日本は各 WG(Working Group)、SWG(Sub Working Group)、AH(Ad Hoc)及び DG(Drafting Group)に積極的に参加し、会議の進展に貢献した。

表 1 各 WG 等の担当項目と議長

Group	担当項目	議長
WP5D	ITU-R WP5D 全体	S. BLUST(米)
WG GEN(GENERAL ASPECTS)	IMT 関連の全般的事項	K. J. WEE(韓)代理 S. BERTUZZO(加)
SWG-IMT HANDBOOK	IMT のハンドブック[IMT.HANDBOOK]の作成及び ITU-D SG2 との連携	E. EHRLICH(WiMAX フォーラム)
SWG-IMT UPDATE	2010 年~2020 年頃の IMT 全般のビューー 関連 の 新 レポ ー ト 草 案 M.[IMT.UPDATE]	U. LÖWENSTEIN(独)
WG SPEC(SPECTRUM ASPECTS)	スペクトラム関連	A. JAMIESON(ニュージーランド)
SWG-SHARING STUDIES	周波数共用研究	M. KRAEMER(独)
DG Antenna Isolation	IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート案	S. MAGNASSON(エリクソン)
DG IMT Mitigation	IMT と FSS 間の共用改善技術の新勧告草案	J. LEWIS(サムスン)
DG UHF Sharing Study	UHF 帯共用検討用 IMT 特性パラメータ	L. MARTI(仏)
DG Revision M.2039	地上系 IMT-2000 の共用検討用特性パラメータの勧告(M.2039)の改定案	J. P. MILLET(仏)
SWG-FREQUENCY ARRANGEMENTS	周波数アレンジメント勧告(M.1036-3)の改訂案	Y. ZHU(中)
DG 3.5GHz	3.5GHz アレンジメント案	A. SANDERS(米)
WG TECH(TECHNOLOGY ASPECTS)	無線伝送技術関連	Y. ZHU(中)
SWG-IMT SPECIFICATIONS	既存勧告の維持改訂管理(IMT-2000 無線伝送技術勧告(M.1457))、及び、新勧告草案 M.[IMT.RSPEC]の開発	L. SUN(中)
SWG-M.1580 and 1581	不要輻射	N. P. MAGNANI(伊)
SWG-RADIO ASPECTS	無線関連技術(新レポート草案 M.[IMT.RADIO]、M.[IMT.CRS]の開発他)	U. LÖWENSTEIN(独)
DG CRS	IMT 特化の M.[IMT.CRS]案作成	M. GRANT(米)
SWG-EVALUATION	無線インタフェース技術評価作業	S. WARD(米)
SWG-COORDINATION	IMT-Advanced の開発ステップ管理のコーディネート作業	H. WANG(中)
DG COORDINATION	ステップ 6 と 7 完了関係の提案元へのリエゾン案及び同回草案作成	本多美雄(日)
AH VOCABULARY	用語関連	R. MARKS (IEEE)
AH WORKPLAN	WP5D 全体の作業計画等調整	H. MENNENGA(独)
		H. OHLSEN(スウェーデン)

尚、SWG-EVALUATION は今回の会合では開催されなかった。

3. 主要結果

3.1 全体の主要結果

- ・ IMT のためのグローバルな広帯域無線サービス及び市場の解析と評価に関する作業文書[IMT.UPDATE]は、レポートとすることで合意した。
- ・ IMT のグローバルな動向に関するハンドブック[IMT.HANDBOOK]の章構成を決定し、作業計画をアップデートした(WP5D 第 16 回会合の完成時期に変更なし)。
- ・ 将来の IMT システムを検討するためのワークショップは、Region ごとにラポータを立て、コレスポンスグループを設立して意見集約を行うことで合意した。
- ・ IMT-Advanced 無線インタフェースの選定プロセスでは 6 つの技術提案全てが要求条件を満たしているとの合意に達し、ステップ 6 の作業を完了した。
- ・ 6 つの技術提案を 2 グループに収斂させ、2 つの無線インタフェースを詳細仕様勧告草案 M.[IMT.RSPEC]に盛り込むことで合意し、ステップ 7 の作業を完了した。
- ・ IMT-Advanced 無線インタフェース選定プロセスに関する今会合の結論を Circular Letter(5/LCCE/2 の Addendum 4)及びリエゾン文書で連絡することとした。
- ・ 2 つの無線インタフェースの名称を “LTE-Advanced”及び”WirelessMAN-Advanced”とすることで合意した。
- ・ IMT-Advanced 陸上無線インタフェースの評価から合意形成における選定プロセスの結論と特性に関する新レポート草案 M.[IMT.RADIO]の策定作業を行い、新レポート草案を完成・採択した。
- ・ IMT-Advanced 無線インタフェースの詳細仕様に関する新勧告草案 M.[IMT.RSPEC]に向けた作業文書を更新した。
- ・ IMT-2000 無線インタフェースの不要輻射に関する勧告 (M.1580-3/M.1581-3)の改訂は、今会合で最終化の予定であったが、IMT に特定されていない周波数帯域が改訂草案内に含まれているとの理由で合意に至らず、WG に差し戻しとなった。
- ・ IMT に特化したコグニティブ無線システムの新レポート草案 M.[IMT.CRS]に向けた作業文書を更新した。
- ・ IMT の周波数アレンジメント勧告 (M.1036-3)の改訂に向けた作業文書の更新を行い、勧告改訂草案とすることで合意した。
- ・ 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告草案 M.[IMT.MITIGATION]に向けた作業文書の更新を行い、新勧告草案とすることと完成時期を次回会合に変更することで合意した。
- ・ IMT-2000 インタフェースの共用パラメータに関するレポート (M.2039)の改訂作業を推進し、レポート改訂草案を完成・採択した。
- ・ IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート草案 M.[ANT ISO] に向けた作業文書の更新を行い、新レポート草案とすることで合意した。
- ・ IMT-2000 無線インタフェースの詳細仕様勧告 (M.1457)の第 11 版に向けた改訂は、WP5D 第 11 回会合から第 13 回会合において改訂作業を行うスケジュールに合意した。

3.2 各WG等の主要結果

(1) WG GENERAL ASPECTS

- ・ 今会合では、前回の第 8 回会合から持ち越しとなった作業文書 M.[IMT.UPDATE]の他、1 件の新規リエゾン文書と 9 件の新規入力文書、ならびに、IMT.UPDATE に向けたワークショップの検討を行った。
- ・ M.[IMT.UPDATE]については、本文書の改訂作業に先立ち、まず、本文書を勧告ではなくレポートとすることで合意された。今会合では、日中韓共同寄書として、同作業文書を改訂する上での方針と同作業文書の節構成を提案し、概ね同意された。また、日本寄書として入力した内容のほとんどが作業文書に記載された。なお、

この作業文書は次回会合に持ち越された。

- ・ WP5D が主導で作成する“HANDBOOK on GLOBAL TREND in IMT (M.[IMT.HANDBOOK])”に着手し、章構成を確定した。また、ITU-D ならびに ITU-T と協働で作成している“Supplement 1 Handbook – Deployment of IMT-2000 Systems”の改訂を行った。これらの文書を ITU-T と ITU-D の関連グループに対して、作業状況を示すと共に、ワークプランと“Supplement 1 Handbook – Deployment of IMT-2000 Systems”の改訂文書を送付するため、リエゾン文書を作成し、発出することとなった。
- ・ IMT.UPDATE に関する情報収集と情報共有の場を設けるためのワークショップに関しては、会合の開催場所や開催時期についてさまざまな意見が出されたが、最終的に、地域 (Region) ごとにレポートを立てるとともに、コレスポネンスグループを設立し、ワークショップ開催に関する集約を図る、ということが合意された。次回の WP5D 会合でコレスポネンスグループからの集約結果が入力される見込みである。

(2) WG TECHNOLOGY ASPECTS

- ・ IMT-Advanced 無線インタフェース選定に関しては、Step 6 (評価結果のアセスメント)及び Step 7(コンセンサス形成)を完了し、3GPP 技術 (LTE-Advanced)及び IEEE 技術 (WirelessMAN-Advanced)の 2 つを IMT-Advanced の陸上無線インタフェースに選定した。
- ・ LTE-Advanced の GCS Proponent を“ARIB, ATIS, CCSA, ETSI, TTA and TTC on behalf of 3GPP”、WirelessMAN-Advanced の GCS Proponent を“IEEE”に決定した。
- ・ 以上の結論を反映させて、Draft New Report ITU-R M.[IMT.RADIO]を完成し、WG-TECH Plenary 及び WP5D Plenary で承認した。本 DN Report は本年 11 月に開催される SG5 会合に承認を求め上程される。
- ・ IMT-Advanced 無線インタフェースの選定プロセスに関する今回会合の結果を、RIT/SRIT 提案者及び GCS Proponent に連絡する Liaison を作成し、発出した。
- ・ 又、ITU メンバに対して IMT-Advanced 無線インタフェースの選定プロセスに関する今回会合の結果を報告する回章 5/LCCE/2 Addendum 4 の原案を作成、合意した。本回章は SG5 終了次第、宛先に外部団体を含め発出される。
- ・ IMT-Advanced の詳細無線インタフェース新勧告 M.[IMT.RSPEC]は今回、日本、カナダ、IEEE 等の入力を検討し、作業文書を更新して次回会合に Carry Forward した。本新勧告案は次回会合で詳細仕様部記載の Transposing Organization の Reference を除き完成させる予定である。
- ・ IMT-2000 の無線インタフェース勧告 M.1457 第 11 版に向けての改訂に関しては、第 11 回会合から第 13 回会合で検討、作成するスケジュールに合意し、外部団体に対してその旨を連絡する Liaison を作成、発出した。
- ・ M.[IMT.RSPEC]の Update に関する手順に関しては米国提案を基に討議を行い、作業文書を更新して次回会合に Carry Forward した。本文書も次回会合で完成させ、IMT-ADV 文書化する予定である。
- ・ IMT-2000 無線インタフェースの不要輻射に関する勧告 M.1580 及び M.1581 に関しては、各々第 4 版に向けた改訂原案を完成し、WG-TECH Plenary では承認されたが、WP5D Plenary において露が IMT に特定されていない周波数帯、特に露が衛星で使用している周波数帯(L-Band)に関する記載が含まれているため承認に反対(Objection)し、WG-TECH に差し戻しとなった。
- ・ Cognitive Radio Systems に関する新 Report M.[IMT.CRS]に関しては、日本等からの入力を反映させて作業文書を更新し、次回会合に Carry Forward した。又、WP5A に対して WP5A で開発中の CRS に関する新 Report M.[LMS.CRS]のスケジュールを確認する Liaison を作成、発出した。
- ・ IMT-2000 端末の Global Circulation に関する勧告 ITU-R M.1579 に対しては、今回独から改訂を促す入力があり次回会合以降に討議を行うこととした。

(3) WG SPECTRUM ASPECTS

周波数アレンジメント関連

- ・ 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改訂に向けた作業文書の更新を行い、勧告改訂暫定草案 (Preliminary Draft Revision of Recommendation) に格上げし、キャリアフォワードした (5D/TEMP/407Rev.2)。なお、懸案となっていた周波数アレンジメントのフレキシビリティに関する扱いについては、妥協が図られ、勧告改訂案への記載方法について概ね合意した。作業計画には変更はなく、勧告改訂案の完成時期は第 10 回会合 (2011 年 3 月) のままとした (5D/TEMP/408)。
- ・ 698-960MHz 帯の周波数アレンジメント策定に関わる作業文書 [IMT.700] については、直接的な入力文書はなかったが、引き続き、第 7 回会合の議長報告に添付された作業文書 (5D/679 Attachment 4.13) をキャリアフォワードすることを確認した。

共用検討関連

- ・ 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告案 M.[IMT.MITIGATION] の作成に向けた作業文書の更新を行い、新勧告暫定草案 (Preliminary Draft New Recommendation) に格上げし、キャリアフォワードした (5D/TEMP/445)。本作業文書には、日本からの提案内容 (5D/833 および会合中の修正提案) が反映された。なお、本作業の状況を伝えるリエゾン文書を WP4A に発出した (5D/TEMP/447Rev.1)。作業計画を変更し、完成目標は第 10 回会合 (2011 年 3 月) とした (5D/TEMP/449)。WP5A と WP4A における 3.4-4.2GHz 帯の BWA と FSS の共用検討に関する新レポート草案に対するいくつかの修正案を示し、関連する WP5D での作業の状況を伝えるリエゾン文書を WP5A に発出した (5D/TEMP/446)。
- ・ レポート M.2039 (IMT-2000 インタフェースの共用検討パラメータ) 改訂暫定草案について、外部団体からの入力文書に基づいて更新を行い、文書のステータスをレポート改訂草案 (Draft Revision of Report) に格上げし、次回 SG5 会合で承認を求めるとした (5D/TEMP/448)。
- ・ IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート案 M.[ANT ISO] に向けた作業文書の更新を行い、新レポート暫定草案 (Preliminary Draft New Report) に格上げし、キャリアフォワードした (5D/TEMP/438)。本作業の状況を伝えるリエゾン文書を WP1A 及び WP5A (ITU-T SG5 へも情報提供) に発出した (5D/TEMP/439)。作業計画に変更はなく、完成目標は第 10 回会合 (2011 年 3 月) のままとした (TEMP/449)。
- ・ 決議 224 (WRC-07 改) に基づく UHF 帯の共用検討について、作業文書の更新を行い、キャリアフォワードした (5D/TEMP/430)。本作業に関連し、WP3J/3M/3K、WP5A、WP5B、WP5C、WP6A に本作業の状況を伝えるとともに、パラメータ等の確認および情報提供を求めるとともに、次回 WP5D 会合への入力を求めるリエゾン文書を外部団体へ発出した (5D/TEMP/437)。作業計画は次回 WP5D 会合の作業内容について若干変更したが、完成目標は第 12 回会合 (2011 年 10 月) のままとした (5D/TEMP/449)。
- ・ WP1A で行われている ISM 機器からの干渉の影響についての検討に関連し、WP1A から関係する WP に対して、それぞれの無線通信業務の保護基準について情報提供を求めるとともに、次回 WP5D 第 10 回会合において議論する旨を回答するリエゾン文書を、WP1A へ発出した (5D/TEMP/431)。また、第 10 回会合で発出するリエゾン文書の雛形を作成し、次回 WP5D 会合へキャリアフォワードした (5D/TEMP/443)。
- ・ ITU-T SG5 からのリエゾン文書に基づいて、WP5D 第 7 回会合で、複数の無線モジュールを含む単一端末デバイス内の EMC 問題については ITU-R の所掌とのリエゾン回答文書を発出したが、本 WP5D 会合で再度議

論し、単一デバイス内の EMC 問題については、ITU-R の検討対象外であるとの見解を伝える ITU-R SG5 から ITU-T SG5 へのリエゾン回答案を添付して、リエゾン文書として WP5A へ発出した(5D/TEMP/444)。

(4) AH WORKPLAN

- ・ WP5D の全般的ワークプランの最新化が行われた。
- ・ 次回 WP5D 第 10 回会合はスウェーデンから招聘された。尚、開催地とスケジュールは現在調整中とのことで、12月末頃に出るサーキュラーレターで正式な開催案内を行うとアナウンスされた。

(5) AH VOCABULARY

- ・ IMT に特化した新レポートを作成する計画だったが、既存の IMT-2000 用語の勧告 M.1224 の用語を全て含めた形で勧告を改定することが適当との結論となり、作業文書の作成を開始し次回会合へキャリアフォワード(TEMP/424R1)した。勧告改定作業の完了予定は WP5D 第 11 回会合を予定している。
- ・ 勧告改定に向けて外部団体に情報提供を求めるリエゾン文書を作成(TEMP/423R1)、Closing Plenary での討議の結果 IEEE、3GPP、その他の外部団体への 3 つのリエゾン文書に分けることし発出されることとなった。

4. 所感及び今後の課題

- ・ 新勧告草案 M.[IMT.RSPEC]を WP5D 第 10 回会合で最終化するためには、今会合で完成することが必須であった。「IMT-Advanced 陸上無線インタフェースの評価から合意形成における選定プロセスの結論と特性に関する新レポート草案 M.[IMT.RADIO]」については、会合直前の CJK IMT WG 会合での日中韓の調整とそのアウトプットである共同提案が大きく貢献していると認識している。本件に継続的に関係された方々に深く感謝する。
- ・ IMT のためのグローバルな広帯域無線サービス及び市場の解析と評価に関する新レポート草案 M.[IMT.UPDATE]の完成時期は約 1 年後とまだ先であるが、WRC-12 への対処とも密接に関連するので、関係国・機関との協力・連携を遅滞なく進めることが重要である。
- ・ 将来の IMT システムを検討するためのワークショップについては、積極推進派の WG-GEN 議長が不参加だったことで、名称を“Workshop towards IMT.UPDATE”とすることに合意できたが、具体的な開催場所や時期の明確化は、コレスポネンスグループでの議論に先送りにされた形になったのは残念であった。ワークショップの開催準備期間を勘案すると、今後のスケジュールは結構タイトであると考えており、コレスポネンスグループでの議論と成果が極めて重要であると認識している。
- ・ 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告案 M.[IMT.MITIGATION]については、今会合で新勧告草案を完成し 11 月の SG5 会合に承認を求めて上程することを目指したが、完成度に疑問を呈する国があったことから作業文書の新勧告草案に格上げするに留まったことは誠に残念であったが、欧州との連携を再確認できたことは重要であると認識している。今後とも、関係者の継続的な貢献に期待している。
- ・ 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改訂草案の完成時期は次回 WP5D 第 10 回会合であるので、現在進行中の国内での審議状況を踏まえて、適切かつ円滑に対応する必要がある。
- ・ 新勧告草案 M.[IMT.RSPEC]の WP5D 第 10 回会合での完成に向けて、技術の名称を含めていくつかの課題がまだくすぶっているようなので、3GPP 技術と IEEE 技術の両技術を同時に提案している唯一のプロポーネントとして、両技術についてバランスがとれた勧告の作成を目指すための努力を引き続き行う必要がある。

5. 各WG等における主要論議

5. 1 WG GENERALASPECTS

- (1) 議長(代理): Mr. Serge (カナダ)
- (2) 主要メンバー: 日本代表团(越後、佐藤(孝)、小西、他)、中国、韓国、米国、カナダ、ドイツ、英国、イタリア、フランス、AT&T、Ericsson、Nokia、WiMAX Forum、KDDI、他、全 50 名程度
- (3) 入力文書: 5D/804 (ITU-T Q.13/13 Rapporteur Group)、5D/818 (Canada)、5D/849 (WiMAX Forum)、5D/819 (Canada)、5D/823 (China Mobile)、5D/825 (DATANG/ZTE/HUAWEI)、5D/828 (Japan)、5D/844 (Brazil)、5D/846 (Korea)、5D/847 (China, Japan, Korea)
- (4) 出力文書: 5D/TEMP/463 (WG General Aspects 会合報告書)、
5D/TEMP/441R2 (Workshop)、
5D/TEMP/416R2 (Supplement 1 Handbook の改訂に関する ITU-D SG2 へのリエゾン文書)、
5D/TEMP/415R2 (ITU D SG2 と ITU-T Q13/13 Rapporteur Group への IMT.HANDBOOK に関するリエゾン文書)、
5D/TEMP/419R1 (Supplement 1 Handbook の改訂文書)、
5D/TEMP/418 (IMT.HANDBOOK の作業文書)、
5D/TEMP/417R1 (IMT.HANDBOOK のワークプラン改訂版)、
5D/TEMP/455R1 (IMT.UPDATE の作業文書)、
5D/TEMP/450 (IMT.UPDATE のワークプラン改訂版)

(5) 審議概要:

(5-1) 経緯と所掌

本 WG では、将来のサービスやマーケットの予測をはじめ、Question ITU-R 229-2/5 (IMT 地上コンポーネントの将来の開発) の内容の中で、WP5D 内の他の WG が未検討の内容を検討対象とする。第 6 回会合にて、WG-Developing Aspects が本 WG に吸収されたことから、WG-Developing Aspects で扱っていた ITU-D との連携業務や IMT-2000 Handbook 関連の業務についても本 WG で扱っている。

(5-2) 体制

下記の二つの SWG の体制で審議を行った。

Group	Chairman	Topic
SWG HANDBOOK	Mr. Ed Ehrlich (加)	<ul style="list-style-type: none">● 新レポート草案 M.[IMT.HANDBOOK] の開発● Supplement 1 Handbook – Deployment of IMT-2000 systems – Migration to IMT-Systems の改訂検討
SWG IMT UPDATE	Mr. Uwe Lowenstein (独)	<ul style="list-style-type: none">● 新レポート草案 M.[IMT.UPDATE] の開発

(5-3) 審議概要と主要結果

1) HANDBOOK 関連:

- “Supplement 1 Handbook – Deployment of IMT-2000 systems – Migration to IMT-Systems” の改訂文書を作成した。M.[IMT.UPDATE] の文書作成に着手し、作業文書を作成した。
- M.[IMT.HANDBOOK] の作成に着手した。章構成のみをまとめた作業文書を作成し、次回会合で継続検討することとした。また、M.[IMT.HANDBOOK] のワークプランを改訂した。
- 上記の出力結果を元に、ITU-D SG2 に対し、“Supplement 1 Handbook – Deployment of IMT-2000

systems – Migration to IMT-Systems”の改訂を示すリエゾン文書を作成し、発出することとなった。また、ITU-D SG2 と ITU-T Q13/13 ラポータグループに対して、“HANDBOOK on GLOBAL TRENDS in IMT (M.[IMT.HANDBOOK])” の着手を示すリエゾン文書を作成し、発出することとなった。

- 詳細は、5.1.1 節を参照されたい。

2) IMT.UPDATE 関連:

- 前回の第 8 回会合から継続検討となった作業文書 M.[IMT.UPDATE]の改訂作業を進めた。まず、本文書の方向性を議論し、勧告ではなくレポートとすることで合意された。この他、今会合では、日中韓共同寄書として、同作業文書を改訂する上での方針と同作業文書の節構成を提案し、概ね同意された。また、日本寄書として入力した内容のほとんどが作業文書に記載された。なお、この作業文書は次回会合に持ち越された。
- また、M.[IMT.UPDATE]のワークプランを改訂した。
- 詳細は、5.1.2 節を参照されたい。

3) ワークショップ関連:

- 会合の開催場所や開催時期についてさまざまな意見が出されたが、最終的に、地域(Region)ごとにレポートを立て、コレスポネンスグループを設立し、ワークショップ開催に関する集約を図る、ということが合意された。ちなみに、コレスポネンスグループへの参加者として以下の方が登録されたことが紹介された。

➤ Region 1:

- ◇ Mr. Horst Mennenga – Germany
- ◇ Mr. Rauno Ruismaki – Nokia (Rapporteur)
- ◇ Mr. Cengiz Evci – Alcatel-Lucent France

➤ Region 2:

- ◇ Mr. Reza Arefi – INTEL (Rapporteur)
- ◇ Mr. Chris Pearson – 4G Americas

➤ Region 3:

- ◇ Mr. Euntaek Lim – Korea
- ◇ Mr. Kohei Satoh – Japan
- ◇ Mr. Hu Wang – China

なお、日本を含む Region 3 のレポートは未定であるが、ARIB・佐藤氏がコレスポネンスグループのレポートとなる見込みである。

- 次回の WP5D 会合でコレスポネンスグループからの集約結果が入力される見込みである。

(6) 今後の課題:

次回会合に持ち越しとなった文書とその関連の勧告文書や Report 文書について日本国内で検討し、我が国にとって不利となる拙速な結論や方向性が導かれぬよう、必要に応じて寄書入力を含む貢献を行う。具体的には以下のとおりである。

- ・ M.[IMT.UPDATE]関連:これまでの会合と同様、関係各国と協力しながら M.[IMT.UPDATE]の完成に向けて寄書入力を行う。
- ・ ワークショップ関連:日本国内での意見を集約し、コレスポネンスグループを通じて、日本の意見を入力する。
- ・ Handbook 関連:M.[IMT.HANDBOOK]の作成に向けて、日本国内での意見を集約し、必要に応じて寄書入力を行う。

5. 1. 1 SWG IMT HANDBOOK

- (1) 議長: Edward Ehrlich (WiMAX Forum)
- (2) 主要メンバー: 加、中、韓、米、フィンランド、Ericsson、KDDI、他各国&各セクターメンバー、
日本代表団(佐藤(一)、菅田、小西、桂川)、計 20 名程度
- (3) 入力文書: 5D/819(Canada) (Proposed Editorial Amendments to the Draft Revision of “Migration to IMT-2000 Systems” Supplement 1 Handbook – Deployment of IMT-2000 systems)
5D/849(WiMax Forum) (Development Of The Handbook on Global Trends in IMT)
5D/804(ITU-T Q.13/13 Rapporteur Group)
- (4) 出力文書: 5D/TEMP/415 (LS to ITU-D SG2 and ITU-T SG13 : Progress Update - Development of Handbook on Global Trends in IMT)
5D/TEMP/416R1 (LS to ITU-D SG 2 :Revision to Supplement 1 Handbook - Deployment of IMT-2000 Systems - Migration to IMT-Systems)
5D/TEMP/417R1 (Detailed Work Plan On Global Trends in IMT [IMT.HANDBOOK])
5D/TEMP/418 (Working Document Towards A Handbook On Global Trends in IMT - IMT.[HANDBOOK])
5D/TEMP/419R1 (Draft Revision to Supplement 1 Handbook – Deployment of IMT-2000 Systems – Migration to IMT-Systems)

(5) 審議概要:

(5-1) 経緯と所掌

- 本 General Aspects / Sub Working Group IMT HANDBOOK は今回 WP5D 第 9 回会合から新しく発足した。
- 本 SWG の主要な作業内容は以下の 2 通の作成である:
 - (1) Handbook on Global Trends in IMT (以下、M.[IMT.HANDBOOK]) の作成
 - (2) Supplement 1 Handbook – Deployment of IMT-2000 Systems – Migration to IMT-Systems (以下、Supplement 1) の改定
- また、これら 2 通について、ITU-D SG2 のハンドブックである「Guidelines for Smooth Transition to IMT-2000 for developing countries and Supplement(s) (以下、GST)」との間の作業の調整も行う。

(5-2) 審議概要と主要結果

- M.[IMT.HANDBOOK]の作成については、5D/849 で章構成の提案が行われ、提案中の[]の箇所を削除した上で合意し、5D/TEMP/418 とした。また、workplan についても 5D/849 での提案をもとに 5D/TEMP/417R1 に改定した。

Supplement 1 の改定については、5D/819 をもとに Editorial な修正が行われた。前回第 8 回会合で韓国から入力された箇所に含まれる「IEEE802.16m」の扱いについて、韓国=カナダ間で調整が持たれ「WirelessMAN-Advanced」を用いた文章に修正された、また、日本からの、本文中の「Spectrum Cap」の定義の明確化が必要ではないかという懸念に関して議論された。以上の様な議論を盛り込んだ作業文書 5D/TEMP/419R1 を作成した。

M.[IMT.HANDBOOK]の作業進捗についてのリエゾン文書、5D/TEMP/415、及び、Supplement 1 の改定作業進捗についてのリエゾン文書、5D/TEMP/416R1 を作成した。

(6) 今後の課題:

- M.[IMT.HANDBOOK]の作成に向けて日本国内での意見を集約し、必要であれば寄書入力を行う。

5. 1. 2 SWG IMT UPDATE

(1) 議長: Mr. Uwe Loewenstein (独)

(2) 主要メンバー: 日本代表団(佐藤(孝)、佐藤(一)、桂川、菅田、小西)、中国、韓国、米国、カナダ、ドイツ、英国、イタリア、フランス、Ericsson、Nokia、WiMAX Forum、KDDI、他、全 50 名程度

(3) 入力文書: 5D/818 (Canada)、5D/823 (China Mobile)、5D/825 (DATANG/ZTE/HUAWEI)、5D/828 (Japan)、5D/844 (Brazil)、5D/846 (Korea)、5D/847 (China, Japan, Korea)

(4) 出力文書: 5D/TEMP/454(本 SWG の会合報告書)、
5D/TEMP/455R1(IMT.UPDATE の作業文書)、
5D/TEMP/450(IMT.UPDATE のワークプラン改訂版)

(5) 審議概要:

(5-1) 経緯と所掌

本 SWG では、IMT-Advanced システム後のマーケット予測やトラフィック予測の結果をまとめる、M.[IMT.UPDATE]の検討・開発を所掌とする。なお、本 SWG は第 8 回会合で設立が決定された。

(5-2) 審議概要と主要結果

- 前回の第 8 回会合から継続検討となった作業文書 M.[IMT.UPDATE]の改訂作業を進めた。まず、本文書の方向性を議論し、勧告ではなくレポートとすることで合意された。

今会合では、日中韓共同寄書として、同作業文書を改訂する上での方針と同作業文書の節構成を提案した。前会合から持ち越しとなっている作業文書や他国からの入力文書を元に、節構成の検討が行われた。この結果、日中韓共同寄書の内容が概ね同意された。

続いて、日本寄書を含む各国やセクターメンバーから入力寄書を作業文書にマージする作業が行われた。前会合から持ち越しとなっている作業文書内の文章の再配置に加え、今会合での入力寄書をマージしたため、一部重複した記述や不明瞭な記載があるが、これらについては次回会合で解決を図ることとした。

なお、M.[IMT.UPDATE]の完成時期を第 12 回会合としているため、残すところ 3 回の会合となっていることから、継続して各国・各セクターメンバーからの寄書入力が求められた。

この他、M.[IMT.UPDATE]のワークプランを改訂した。改訂内容は、SWG 議長や Editor(仏の Cengiz Evci 氏)の追記、ワークショップ開催延期に伴う修正、である。

(6) 今後の課題:

M.[IMT.UPDATE]関連:これまでの会合と同様、関係各国と協力しながら M.[IMT.UPDATE]の完成に向けて寄書入力を行う。

5. 2 WG Technology Aspects

- (1) 議長: Lixin Sun(中国)
- (2) 主要メンバ: 日本代表団(越後、佐藤(孝)、橋本、本多、鬼頭、広池、木幡、新、藤井、田中、丹野、菅田、小西、林、佐藤(一)、岩根、北、西原、桂川、小松、吉井、石川)、中国、韓国、米国、英国、カナダ、独、イタリア、フランス、ロシア、インド、DoCoMo, KDDI, IEEE, WiMAX Forum、Intel、Qualcomm, Ericsson 他、全 150 名程度
- (3) 入力文書
 - (3-1a) RSPC 勧告 M.1457 Update
5D/798 (ESTI), 5D/807 (US),
 - (3-1b) M.[IMT.RSPEC]
5D/806 (US), 5D/813 (IEEE), 5D/817 (Canada), 5D/831 (日本)
 - (3-2) 不要輻射勧告 M.1580/M.1581
5D/801 (BR/TIA), 5D/850(WiMAX Forum), 5D/856 (ALF, ZTE, Telefonica, Ericsson, NEC, Telecom Italia, Samsung, Qualcomm, NTT DoCoMo, Motorola, Hitachi, Datang, AT&T)
 - (3-3a) M.[IMT.RADIO]
5D/808 (US), 5D/816 (Canada), 5D/834 (日中韓), 5D/867 (BR/IEEE & ARIB/ATIS/CCSA/ETSI/TTA/TTC)
 - (3-3b) M.[IMT.CRS]
5D/810,811 (US), 5D/826 (中国), 5D/829 (日本), 5D/843 (Brazil, France), 5D/854 (Italy, France)
 - (3-3c) Radio Aspects 関連その他
5D/837 (Germany)
 - (3-4) EVAL 関連
無し
 - (3-5) Coordination 関連
5D/830 (日本), 5D/842 (WP5D Chair & Vice Chair)
 - (3-6) その他
5D/822 (日中韓: 会合の進め方), 5D/786,787 (ITU-T SG15: Ubiquitous 関連), 5D/788 (ITU-T SG15: ANTS), 5D/794 (WP4C: 衛星 IMT-Advanced 関連), 5D/796 (ITU-T SG16: WAS.QoS), 5D/797 (SG4: 衛星 IMT-Advanced 関連), 5D/802 (ITU-T SG17: X.oacm), 5D/824 (CMCC: TD-LTE 情報)
- (4) 出力文書: 5D/TEMP/404 (Conclusion of Step 7),
5D/TEMP/405r2 (DN Report M.[IMT.RADIO]),
5D/TEMP/406 (Liaison to EO Re: M.1457-11) ,
5D/TEMP/409 (Liaison to WP5A Re: M.[IMT.CRS])
5D/TEMP/410r1 (M.[IMT.CRS] Working Document)
5D/TEMP/412r2 (Draft Circular Letter 5/LCCE/2 Addendum 4)
5D/TEMP/413r1 (Liaison to RIT/SRIT & GCS Proponent Re:Step 4-7 conclusion)
5D/TEMP/414 (DG-Coordination Meeting Report)
5D/TEMP/420 (M.1579 Micro workplan)
5D/TEMP/421 (M.[IMT.CRS] Micro workplan)

5D/TEMP/422	(SWG-Radio Aspects Meeting Report)
5D/TEMP/427	(M.[IMT.RSPEC] Update Procedure Working Document)
5D/TEMP/428	(M.[IMT.RSPEC] Working Document))
5D/TEMP/429	(M.[IMT.RSPEC]Workplan)
5D/TEMP/440	(SWG-Coordination meeting report)
5D/TEMP/442	(SWG-IMT Specifications Meeting Report)
5D/TEMP/451r1	(PDNR M.1580-4)
5D/TEMP/452r1	(PDNR M.1581-4)
5D/TEMP/453	(SWG-M.1580 Meeting Report)
5D/TEMP/459r1	(Liaison to WP5A Re: Ubiquitous)
5D/TEMP/461v2	(WG-TECH Meeting Report)

(5) 審議概要:

(5-1) 所掌と経緯

本 WG は、IMT-2000 の無線インタフェースに関する技術仕様の改訂、IMT-Advanced の無線技術の検討を所掌としている。

本会合の検討課題は、RSPC 勧告 M.1457 の改訂検討、不要輻射勧告 M.1580/M.1581 改訂検討、IMT-Advanced 無線インタフェースの選定作業及び M.[IMT.RSPEC], M.[IMT.RADIO], M.[IMT.CRS]に関する検討であった。

(5-2) 体制

下記の 5 つの SWG という体制で審議を行った。

Group	Chairman	Topic
SWG IMT Specifications	Mr. Nicola Pio Magnani (伊)	RSPC勧告M.1457の第11版に向けた改訂スケジュール検討 M.[IMT.RSPEC]の開発
SWG M.1580/81	Mr. Uwe Lowenstein (独)	不要輻射勧告M.1580/81の第4版に向けた改訂原案検討
SWG Radio Aspects	Mr. Marc Grant (米)	M.[IMT.RADIO]及びIMT.CRSに関する検討
DG-CRS	Mr. Stephen Ward (米)	IMT.CRSの検討
SWG EVAL	Mr. Hu Wang (中)	IMT-Advanced無線インタフェース提案のアセスメント
SWG Coordination	Mr. Yoshio Honda (日)	IMT-Advanced無線インタフェースの選定・合意形成
DG-CRS	Mr. Roger Marks (米)	IMT-Advanced無線インタフェースの選定・合意形成に関するLiaison及び回章補遺検討

(5-3) 審議概要と主要結果

- 1) IMT-Advanced 無線インタフェース提案のアセスメント関連 : WG-TECH の Opening Plenary において、SWG-EVAL 議長より前回国会議事録を参照してアセスメントの報告を行い、提案された 6 つの RIT/SRIT 全てが 4 つの試験条件下において IMT-Advanced 無線インタフェース要求条件(Spectrum, Service, Technology)を満たすと結論を承認した。これにより Step 6 (アセスメント作業)は完了し、6 つの RIT/SRIT は全て Step 7 の検討対象とすることに合意した。
- 2) Coordination / Consensus Building 関連 : WG-TECH の Opening Plenary において合意された日中韓寄

書 5D/822 に基づいた作業方法で検討を実施した。まず、Step 7 に進んだ 6 つの無線インタフェース全ては Step 7 で要求する 3 つの試験環境を満足していることを確認し、Consensus Building を実施した。Consensus Building の結果、IMT-ADV/5 で提案された RIT (日本)及び IMT-ADV/7 で提案された RIT (TTA) は IMT-ADV/4 で提案された RIT (IEEE)と技術的に同一であることから 1 つの Group に、IMT-ADV/6 で提案された SRIT (日本)は IMT-ADV/8 で提案された SRIT (3GPP Proponents)と、IMT-ADV/9 で提案された RIT (中国)は IMT-ADV/8 で提案された SRIT の TDD RIT Component と技術的に同一であることから 1 つの Group に収斂させることに合意し、2 つの無線インタフェースを IMT-Advanced 陸上無線インタフェースとして Step 8 (Standardization Phase)を行うことを決定、Step 7 を完了した。又、本結論を 5D/TEMP/404 に纏め他の SWG に連絡した。

又、今回合会の結論を 6 つの無線インタフェース(RIT/SRIT)提案者及び GCS Proponents に連絡する Liaison を 5D/TEMP/413r1 に作成・承認し、発出した。本 Liaison には IMT-Advanced の詳細無線インタフェース勧告 M.[IMT.RSPEC]に向けた作業文書及び DN Report M.[IMT.RADIO]が添付されている。又、ITU メンバに Step 7 迄の結果を報告する回章補遺 4 (5/LCCE/2 Addendum 4)を 5D/TEMP/412r1 に作成・承認した。本補遺は 11 月開催予定の SG5 終了後に外部団体を含めた宛先に発出される予定である。

- 3) IMT.RADIO 関連 : IMT-Advanced 選定プロセスの Step 4 (無線インタフェース評価)から Step 7 (合意形成)までを纏めた新 Report M.[IMT.RADIO]に関しては Step 6 及び Step 7 の完了・結果を受け検討を開始した。今回米国から 5D/808, カナダから 5D/816 及び日中韓から 5D/834 の具体的な修正提案入力があり、文書の最終化作業を実施した。本 Report の Title は日中韓の提案に基づいて“The outcome of the evaluation, consensus building and decision of the IMT-Advanced process (steps 4-7), including characteristics of IMT-Advanced radio interfaces”と読者に内容が連想しやすいものに変更されている。又、5D/867 により RIT/SRIT 提案者から GCS Proponents に関する連絡があり、その内容も反映させた。尚、無線インタフェースの名称は IMT-ADV/8 を代表として収斂した 3GPP Technology 側を“LTE-Advanced”、IMT-ADV/4 を代表として収斂した IEEE Technology 側を“WirelessMAN-Advanced”とすることに合意し、記載を行った。

本 Report 案は 5D/TEMP/405r2 として完成し、WG-TECH Interim Plenary 及び WP5D Plenary で承認され、11 月に開催予定の SG5 に承認を求めて上程される。

- 4) RSPC 勧告 M.1457 Update: 勧告 M.1457 の第 11 版に向けた改訂スケジュールについては米国寄書 5D/807 をもとに検討を行い、RA 及び WRC 開催年には通常 WP5D 会合が 2 回しか開催されないことを勘案して 2011 年 7 月予定の第 11 回会合から 2012 年 4 月予定の第 13 回会合にて改訂原案を検討するスケジュールに合意した。又、本スケジュール案を関連外部団体に連絡する Liaison を 5D/TEMP/406 に作成・承認し、発出した。外部団体がもし本スケジュールに対して不都合がある場合には次回会合での連絡を求めている。
- 5) M.[IMT.RSPEC]: IMT-Advanced の詳細無線インタフェース勧告 M.[IMT.RSPEC]に関しては、今回カナダから 5D/817 として文章の修正、IEEE から 5D/813 として勧告ページ数の削減案、日本から 5D/831 として文章の修正案とページ数削減候補案の入力があり、作業文書の検討を実施した。作業文書の検討においては、WP4A (5D/794)及び SG4 (5D/797)から連絡された衛星 IMT-Advanced 検討開始の情報を勘案して Title に“Terrestrial”を追加することに合意した。又、Step 7 及び M.[IMT.RADIO]の結果を受け、Annex A を“LTE-Advanced”に、Annex B を“WirelessMAN-Advanced”に割り当てることを決定した。ページ数削減に関しては、本新勧告の性格が IMT-2000 の詳細無線インタフェース勧告 ITU-R M.1457 と類似していることから、RA での承認時に M.1457 と同様な詳細 Spec の記載 Format の方が理解を得やすいとの意見が多数を占め、詳細 Spec 部のページ数削減検討は次版以降に延期し、Overview Section のページ数を 10 ページ程度とするガイドラインのみを合意して作業文書を 5D/TEMP/428 に更新した。本作業文書は Carry

Forwardし、次回会合で Transposing Organization の Hyperlink (詳細 Spec 部)を除き完成させる予定である。

M.[IMT.RSPEC]の Update 手順に関しては、米国寄書 5D/806 をもとに討議を行い、作業文書を 5D/TEMP/427 に更新した。本文書も Carry Forwardし、次回会合において IMT-ADV 文書として完成させる予定である。

- 6) 不要輻射勧告 M.1580/1581: 勧告 M.1580 及び M.1581 に関しては今回 5D/856 により 3GPP メンバから Annex 1 と 3 (CDMA DS/TDD)、5D/801 により 3GPP2 メンバから Annex 2 (CDMA MC)、5D/850 により WiMAX Forum から Annex 6 (OFDMA TDD WMAN)に関する入力があり、改訂原案 (PDNR)を 5D/TEMP/451r1 (M.1580)、5D/TEMP/452r1 (M.1581)に完成した。これら 2 つの勧告改訂原案は WG-TECH Plenary で承認され、WP5D Plenary に諮られたが、WP5D Plenary において露が IMT に特定されていない帯域、特に露において衛星に使用されている周波数帯域(L-Band)が含まれていることを理由として承認に反対(Objection)し、WG-TECH に差し戻して再検討することとなった。
- 7) CRS 関連 : CRS に関しては今回米国(5D/810, 811)、ブラジル・仏 (5D/843)、伊・仏(5D/854)、中国(5D826)及び日本 (5D/829)から寄書入力があり、それらを反映させて作業文書を 5D/TEMP/410r1 に、Micro Workplan を 5D/TEMP/421 に更新した。日本の提案は作業文書の Annex に盛り込まれている。又、WP5A との連携を図るために WP5A 側の Report M.[LMS.CRS]のスケジュールを問い合わせる Liaison を 5D/TEMP/409 に作成し、発出した。
- 8) その他 : 前回 WP5A から届いた Ubiquitous に関する Liaison に対しては、今回 5D/TEMP/459r1 として回答を作成し、発出した。又、CMCC からは TD-LTE をインドが前回会合で提案していた Model で評価した結果が参考として入力された(5D/824)。尚、独から 5D/837 で入力された勧告 M.1579 (Global Circulation)の改訂提案は、次回会合で討議することとなった。
- 9) SG5 に承認を求める文書。

5D/TEMP/405r2 (DN Report M.[IMT.RADIO]),

- 10) Carry forward documents: 今会合では、下記文書を次回会合へ Carry forward することにした。

5D/679 Att. 5.1 (M.1457 Roadmap),

5D/837 (独: M.1579 関連),

5D/TEMP/404 (Conclusion of Step 7),

5D/TEMP/410 (IMT.CRS Working Document),

5D/TEMP/427 (M.[IMT.RSPEC] Update Procedure),

5D/TEMP/428 (M.[IMT.RSPEC] Working Document),

5D/TEMP/451r1 (PDNR M.1580-4),

5D/TEMP/452r1 (PDNR M.1581-4)

- 11) Bookshelf に入れた Document.

無し

5. 2. 1 SWG IMT SPECIFICATIONS

(1) 議長: Nicola Pio Magnani (伊)

(2) 主要メンバ: 日本代表团(越後、佐藤(孝)、本多、鬼頭、木幡、新、田中、小西、林、佐藤(一)、岩根、西原、桂川、吉井、石川)、中国、韓国、米国、英国、カナダ、独、イタリア、フランス、ロシア、インド、DoCoMo, IEEE, WiMAX Forum, Intel, Qualcomm, Ericsson 他全 50 名程度

(3) 入力文書

5D/798 (ESTI), 5D/806,807 (US), 5D/813 (IEEE), 5D/817 (Canada), 5D/831 (日本)

(4) 出力文書

5D/TEMP/406 (Liaison to EO Re: M.1457-11) ,
5D/TEMP/427 (M.[IMT.RSPEC] Update Procedure Working Document)
5D/TEMP/428 (M.[IMT.RSPEC] Working Document))
5D/TEMP/429 (M.[IMT.RSPEC] Workplan)
5D/TEMP/442 (SWG-IMT Specifications Meeting Report)

(5) 審議概要:

(5-1) 所掌と経緯

本 SWG の所掌は、WG-TECH 管轄既存勧告の改訂と維持、TECHNOLOGY に関する他部門との連携、Question に対する検討、及び IMT-Advanced 詳細無線インタフェース勧告の検討である。既存勧告とは、M.1457 (IMT-2000 詳細無線インタフェース仕様)、M.1079 (QoS 要求条件)であり、今回会合では M.1457 改訂スケジュール及び IMT-Advanced 詳細無線インタフェース勧告 M.[IMT.RSPEC]に関する論議が実施された。

(5-2) 審議概要と主要結果

勧告 ITU-R M.1457 の第 11 版に向けた改訂に関しては、5D/798 により ETSI から 5.5 章(TDMA/FDMA)の改訂を計画しており、スケジュールの連絡を求める入力があったため、改訂スケジュールの検討を実施した。米国は 5D/806 に於いて RA 及び WRC の開催年は WP5D 会合数が通常 2 回になること、Hyperlink も含めて SG5 に上程することが好適との理由より 2011 年 7 月予定の第 11 回会合から 2012 年 4 月開催予定の第 13 回会合までの 3 会合で改訂案を検討するスケジュールを提案。検討の結果、本スケジュールでの第 11 版に向けた改訂原案作成に合意した。又、本スケジュールを関連外部団体に連絡する Liaison を 5D/TEMP/406 に作成した。本 Liaison は WG-TECH Plenary、WP5D Plenary において承認され発出された。

IMT-Advanced の詳細無線インタフェース勧告 M.[IMT.RSPEC]に関しては、今回カナダから 5D/817 として文章修正案、IEEE から 5D/813 として勧告総ページ数の削減案、日本から 5D/831 として文章修正案及び勧告総ページ数の削減候補案の入力があり、作業文書の検討を実施した。

まず、勧告の Title に関しては、今回会合で WP4C (5D/794)及び SG4 (5D/797)から IMT-Advanced の衛星 Component の検討を行っているとの連絡があったため、勧告の規定範囲を明確化する意味で“terrestrial”の単語を追加した。又、カナダからの提案により Scope 部に記載があった M.[IMT.RADIO]関連の記述は Noting に移動することに合意した。

尚、日本から Scope 部への追加を提案していた勧告と GCS との関連を明確化する文章は、無線インタフェース毎に GCS を使用する方法とそのまま Spec を記載する方法(DIS)を選択できるため、GCS を使用する無線インタフェース部(Annex)のみに記載することが好適であるとの意見があり、日本もこれに同意した。

又、Annex に関しては、記載を Annex 1,2,...から Annex A,B,...と変更することに合意した。これは将来 Overview の章、詳細仕様の章を参照する場合、従来の M.1457 の呼び方(5.x.1 章, 5.x.2 章等)と同様に本文の章と混乱なく Annex の x.1 章, x.2 章と呼ぶことが可能となり、馴染みやすいとの理由に因るものである。

Considering 部においては、カナダが高速通信のサポートのため広帯域通信が必要であり、Carrier Aggregation が必須であるとの文章追加を提案し、論議となった。結論として Carrier Aggregation が必須との記述には合意が得られず、Single Carrier 若しくは Carrier Aggregation で広帯域通信を行う必要があるとの文書を e-2) として追加した。

又、新 Report 案 M.[IMT.RADIO]の完成を受け、その内容を反映させて Annex A は“LTE-Advanced”、Annex B は“WirelessMAN-Advanced”に割り当てることとし、GCS Proponents 名等の記載も追加した。その他 M.1457

の第4章の内容等も追加した。

勧告総ページ数の削減に関しては、Overviewの章に関して、日本からできるだけ簡素に、IEEEから10ページ以内との提案があり、議論となった。結論としてOverview Sectionのページ数を10ページ程度とするガイドラインを合意し、Editor's Noteとして記載した。

詳細仕様の章に関しては、IEEEから2つの提案、日本からTableを使用するDiscussion Paperが入力され議論となった。IEEE案に関しては、ITU Web Site内に全てのTransposing OrganizationのSpec/標準を置き、そのITU Web pageへのHyperlinkのみを勧告内に記載する方法等が提案されていたが、勧告の性格上当該Web pageは全ての人にアクセス可能である必要があり、SG5カウンセラから不可能ではないが現状ITU Site内にそのようなエリアは無く、又Web Siteとしても6か国語で作成する必要があるとの指摘があった。日本案に関してはATISからTable構成とすることによって失われる情報(詳細なVersion番号、各Transposing Organizationの標準名等)があるとのコメントがあった。

論議の結果、RAでの承認を得る際に、初版のM.[IMT.RSPEC]においては、従来のM.1457と同様な詳細仕様の章構成の方が理解を得やすく、余計な議論を呼ばないとの理由から削減は行わないことに決定し、勧告改訂時に再度検討を行うことに合意した。

上記の変更を加え、M.[IMT.RSPEC]の作業文書を5D/TEMP/428に更新し、次回会合にCarry Forwardした。本新勧告案は次回会合でTransposing OrganizationのReference(詳細仕様部)を除き完成させる予定である。

M.[IMT.RSPEC]のUpdate手順に関しては米国提案(5D/806)を基に討議を行った。基本的な考え方には変更がなく、文章の明確化等の変更を加えて作業文書を5D/TEMP/427に更新した。本文書もCarry Forwardし、次回会合においてIMT-ADV文書として完成させる予定である。

(6) 今後の課題:

- ・ M.[IMT.RSPEC]に関しては、新勧告草案の最終化に向けて必要であれば次回寄書入力を行う。
- ・ ARIB/TTCは”LTE-Advanced”のGCS ProponentとしてLiaisonにて連絡された手順に則り期限までに必要な入力を実施する必要がある。
- ・ “WirelessMAN-Advanced”のTransposing Organizationに関しては、日本としてARIBが加わることを明確化し、GCS ProponentにCirtification Bを要請する必要がある。

5. 2. 2 SWG M.1580 & M.1581

(1) 議長: Mr. Uwe Lowenstein (独)

(2) 主要メンバ: 日本代表団(菅田)、米、加、仏、伊、中、韓、他各国、AT&T、Qualcomm、INTEL、TIA、(約15名)

(3) 入力文書: Update M.1580/81 : 5D/801 (TIA TR-45.5)、5D/850 (WiMAX Forum)
5D/856 (Alcatel-Lucent)

carried forward 文書: 5D/790 CH05-Att.5.13 (作業文書 M.1580-4)、
5D/790 CH05-Att.5.14 (作業文書 M.1581-4)

詳細作業計画 : 5D/790 Chapter 2 Att. 2.9

(4) 出力文書: 5D/TEMP/453 SWG-M.1580 & M.1581 議長報告

5D/TEMP/451rev1 ITU-R 勧告 M.1580 の Rev.4 へ向けた勧告改訂原案

5D/TEMP/452rev1 ITU-R 勧告 M.1581 の Rev.4 へ向けた勧告改訂原案

(5) 審議概要:

(5-1) 経緯と所掌

- ・ 本SWGの所掌は、IMT-2000無線インタフェースの不要輻射に関するITU-R勧告M.1580/M.1581の6つの

Annex における一般的な不要輻射特性に関する更新資料の取り込みを含め、適宜 ITU-R 勧告 M.1580/M.1581 を修正することである。

- ・ 前会合において、外部標準化組織から入力された周波数帯にいくつかのバンドクラスが、M.1580/M.1581 のタイトルに記載されている「地上系」IMT-2000とは異なる周波数帯が含まれていた。M.1457の更新との整合性を考慮すべき、また、どこかの主管庁が当該帯域で IMT-2000 の技術を使用しているかもしれないので注意が要るとのコメントがあった。このような周波数帯としてLバンド、400MHz European PAMR bandがあった。そして、Annex 1、Annex 2、Annex 3、Annex 6に記載のあるこの種の周波数帯域において、IMT 地上コンポーネントに特定されていない帯域については、現状の記載に注記することとした。将来、同様の状況が発生したら、同様のアプローチを採用する意向とした。
- ・ そして、外部の標準化検討団体に WP5D のこの取扱いについて事務連絡文書を送付し周知した。
- ・ 今回、第9回会合において第4版へ向け最終化作業を行ってきたもの。

(5-2) 審議概要と主要結果

- ・ TTA 及び Alcatel-Lucent は、前回までに入力された内容が適切に反映されていること、前回の IMT 以外の周波数帯域について「注」で対応する考え方を了承するもので、それぞれ、会合で紹介され、特段のコメントが出なかった。
- ・ WiMAX Forum からの入力文書は、作業文書に追記する内容だったが、一部の追加内容に要確認の表の記載があったため、提案者に確認を求め、その確認を条件に WG Tech 会合に上げることにした。
- ・ WG Tech では修正に基づき承認された。
- ・ しかし、WP5D 全体会合においてロシアから「IMT に特定されていない周波数帯域、特に衛星で使用されている周波数帯域(L-band, 1626.5-1660.5 / 1525-1559MHz)が含まれているため第4版の承認に反対 (objection)」があり、WG Tech に差し戻しとなった。

(6) 今後の課題:

- ・ 国内無線設備規則との間で不整合が生じることのないように適宜対処する。
- ・ 本件について、ロシアの全体会合における意見では、衛星が使用する周波数帯域を指した発言だったが、その主張は当該両勧告のタイトルが IMT 帯域に関するものなので、衛星帯域だけでなく、IMT に特定されていない帯域、例えば、日本が使用している 1.5GHz 帯についても同様の意見が適用される可能性がある。そうだとすると、1580/1581 の議長との今後の対策に関するオフラインの話では、両勧告の最終化へ向け、一つは、衛星向けの周波数帯を削除すること、もう一つは、IMT 無線技術を使用した不要発射特性ということで、適用する周波数帯を IMT に特定した周波数帯だけでなく、広く適用できるように解釈できる新レポートを作成し、勧告 M1580/M1581 については、ロシアが指摘した内容に沿うように、IMT に特定された周波数帯の無線システムに限定した内容に改訂することが必要となる。この進め方について、次回会合で確認することで間に合うか、次回へ向け事前に SWG 議長と調整して次回会合には、具体的な作業に基づく審議ができるようにするかについて調整が必要である。

5. 2. 3 SWG RADIO ASPECTS

- (1) 議長: Marc Grant(米)
- (2) 主要メンバー: 日本代表団(越後、佐藤(孝)、橋本、本多、鬼頭、広池、木幡、新、藤井、田中、菅田、小西、林、佐藤(一)、岩根、西原、桂川、吉井、石川)、中国、韓国、米国、英国、カナダ、独、フランス、ロシア、イタリア、DoCoMo, KDDI, IEEE, WiMAX Forum, Intel, Qualcomm, Ericsson 他全 100 名程度
- (3) 入力文書: 5D/808,810,811 (US), 5D/816 (Canada), 5D/826 (中国), 5D/829 (日本), 5D/834 (日中韓),

5D/837 (独), 5D/843 (Brazil, France), 5D/854 (Italy, France), 5D/867 (BR/IEEE & ARIB/ATIS/CCSA/ETSI/TTA/TTC)

(4) 出力文書:

5D/TEMP/405r2 (DN Report M.[IMT.RADIO]),
5D/TEMP/409 (Liaison to WP5A Re: M.[IMT.CRS]),
5D/TEMP/410r1 (M.[IMT.CRS] Working Document),
5D/TEMP/420 (M.1579 Micro workplan),
5D/TEMP/421 (M.[IMT.CRS] Micro workplan)
5D/TEMP/422 (SWG-Radio Aspects Meeting Report)

(5) 審議概要:

(5-1) 所掌と経緯

本 SWG の所掌は IMT-Advanced の無線インタフェース、CRS 及び Global Circulation に関わる検討である。

(5-2) 審議概要と主要結果

IMT-Advanced 選定プロセスの Step 4 (無線インタフェース評価)から Step 7 (合意形成)までを纏めた新 Report M.[IMT.RADIO]に関しては、WG-TECH Opening Plenary に於ける Step 6 (アセスメント作業)の完了及び 5D/TEMP/404 で報告された SWG-Coordination における Step 7 の結論を受け、新 Report 案最終化の検討を実施した。

今回合合では、米国から 5D/808, カナダから 5D/816 及び日中韓 5D/834 (日中韓)の具体的な修正提案入力がありそれらを纏めた Consolidated Document を基に議論を進めた。

まず、Report の Title に関しては、日中韓の提案に基づいて“The outcome of the evaluation, consensus building and decision of the IMT-Advanced process (steps 4-7), including characteristics of IMT-Advanced radio interfaces”と、読者に内容が連想しやすいものに変更した。又、Related Document から IMT に特定された周波数以外に関して記載している ITU Report を削除することに合意した。

Step 6 の結果を記載する 5.2 章に関しては、提案された 6 つの RIT/SRIT 全てが 4 つの試験条件下において IMT-Advanced 無線インタフェース要求条件(Spectrum, Service, Technology)を満たすとの結論に基づき作業文書の Square Bracket []を外すことに合意した。

Step 7 の結論を記載する 5.3 章に関しては、6 つの RIT/SRIT を記載した Table を採用すべきとの提案があり、それに加えて 6 つの提案が Step 7 のすべての要求条件を満たしているとの説明を加えるとの意見があったため、日本は Consensus Building を含めて Step 7 であり、5D/TEMP/404 の結論と異なるとして反対。結論として Section を 2 つ、Review of the Step 6 及び Consensus Building に分けて記載することに合意した。

Review of Step 6 を記載する 5.3.1 章では 6 つの RIT/SRIT 提案はすべて 4 つの環境を満足しているため、個々で Step 8 に進める機会を得ていたとの記載とし、Consensus Building を記載する 5.3.2 章は 2 つの Group に収斂したことを記載することで合意した。この 5.3.2 章では特に中国が、提案者が 2 つの Group に収斂することを合意したと表現に関して、「提案者」の文言が入ることに反対し、最終的な表現としては ITU 内での討議の結果 2 つの Group に収斂することを合意したとのニュアンスとなっている。

Step 8 (Standardization Phase)に向けての項目を記載する 6 章は 2 つの Subsection として記載し、まず、無線インタフェース名称を“LTE-Advanced”及び“WirelessMAN-Advanced”とすることを合意した。

又、“LTE-Advanced”の技術は IMT-ADV/8 に代表されること、“WirelessMAN-Advanced”の技術は IMT-ADV/4 に代表されることを 6.1 章に、5D/867 の入力を受けて、詳細無線インタフェース勧告策定の際の“LTE-Advanced”の GCS Proponents を“ARIB, ATIS, CCSA, ETSI, TTA, and TTC on behalf of 3GPP”、“WirelessMAN-Advanced”の GCS Proponents を“IEEE”として規定したことを 6.2 章に記載した。

尚、最終化に向けての Review では、5.1.1/5.1.2 章(Step4 & 5)において、作業文書の表現” The received evaluation reports show that the candidate RIT proposals in IMT-ADV/xxx met the minimum requirements of all required test environments “では、この段階で最少要求条件を満たしていると結論していると読めるため不可とのコメントが米国からあり、議論の結果、”The received evaluation reports indicated that the evaluation groups were of the opinion that the candidate RIT/SRIT proposals in IMT-ADV/xxx met the minimum requirements of all required test environments“の表現に修正した。

これらの修正を加え新 Report M.[IMT.RADIO]草案は 5D/TEMP/405r2 として完成し、WG-TECH Interim Plenary 及び WP5D Plenary で承認した。本 DN Report は 11 月に開催予定の SG5 に承認を求めて上程される。

新 Report M.[IMT.CRS]に向けた作業文書に関しては今回米国(5D/810,811)、ブラジル・仏 (5D/843)、伊・仏(5D/854)、中国(5D826)及び日本 (5D/829)から寄書入力があり、前回会合と同様に Drafting Group を設けて討議を行った。

まず、米国提案 5D/811 に基づいて新 Report M.[LMS.CRS]の開発を行っている WP5A に対する Liaison を検討し、そのスケジュールを問い合わせる Liaison を 5D/TEMP/409 に作成した。本 Liaison は WG-TECH Plenary, WP5D Plenary で承認され、発出された。

又、作業文書に関しては、具体的な修正提案寄書を基に討議を実施した。

日本から 5D/892 で提案した CRS による周波数利用効率向上(Capacity 向上)に関する内容は Report の Annex として盛り込むことに合意した。

その他の提案では、特に中国が Inter-Operator 環境での検討を提案したのに対し、伊・仏は検討を Intra-Operator のみに絞るべきであるとの意見を入力し議論となった。他に Inter-Operator の検討を支持したのは独であり、日本、韓国は Intra-Operator に限る方が好適との立場であったが、検討の初期段階で可能性を狭めるべきではないとの意見で暫定合意に達したため日本としてもその結論を容認した。但し Inter-Operator に関する提案文章の大部分は削除され、図も Square Bracket []付きで作業文書に記載されている。

上記の議論を反映させて作業文書を 5D/TEMP/410r1 に、Micro Workplan を 5D/TEMP/421 に更新した。これらの Document は次回会合に Carry Forward され、さらに検討を進めることとした。

独から 5D/837 で入力された Global Circulation 勧告 M.1579 の改訂提案に関しては次回会合以降で検討を行うことに合意し、Micro Workplan を 5D/TEMP/420 に作成するとともに寄書 5D/837 は次回会合に Carry Forward された。

(6) 今後の課題:

- ・ IMT.CRS に関しては、Inter-Operator scenario に関して国内で対応を協議し、必要であれば寄書入力を検討する。
- ・ 又、日本が提案した内容が記載されている 2 つの Annex の統合可否について検討し、必要であれば寄書入力を行う。
- ・ 今回改訂の提案が出た Global Circulation 勧告に関しては、IMT-Advanced に関する文書の内、詳細無線インタフェース勧告(M.[IMT.RSPEC])以外の文書(不要輻射、Global Circulation, QoS 等)について、IMT-2000 と同一文書内で纏めるか別文書とするかを国内での検討し必要であれば寄書入力する。

5. 2. 4 SWG EVALUATION

(1) 概要:

本 SWG の所掌は、IMT-Advanced の無線インタフェースの評価に関する技術的な課題を解決することである。今会合では、IMT-Advanced 開発プロセスのステップ 6(アセスメント)を完了することが目標であった。

具体的には前回 WP5D 会合で作成した作業文書などに対する意見を議論、集約することであったが、今回、その文書に対する寄書および評価全般に関する寄書が入力されなかったこと、上位の WG TECHNOLOGY ASPECTS において、ステップ 6 の完了が確認されたことにより、本 SWG の目標は達成したため、会合は開催されなかった。

5. 2. 5 SWG COORDINATION

- (1) 議長： 本多 (日本)
- (2) 主要メンバー： 日本代表团(越後団長、佐藤(孝)、佐藤(一)、石川、鬼頭、林、田中、広池、木幡、他)、中村(ドコモ)、中国、韓国、米国、英国、カナダ、IEEE、Intel、Qualcomm、Ericsson、AT&T、全約 50 名程度
- (3) 入力文書： 5D/822(日中韓), 5D/830(日本), 5D/842(WP5D 議長、WP5D 副議長)
- (4) 出力文書： 5D/TEMP/404 (IMT-Advanced 開発プロセスのステップ 7 の結論),
5D/TEMP/412Rev.1 (回章 5/LCCE/2 の補遺4案),
5D/TEMP/413Rev.1 (IMT-Advanced プロセスに関するリエゾン案)
5D/TEMP/440 (SWG Coordination 議長報告)

(5) 審議概要：

(5-1) 所掌と経緯

本 SWG の所掌は、IMT-Advanced 無線インタフェース技術開発プロセス(提案・評価プロセス)のステップ 3(提案の受領および受領確認)、ステップ 5(外部評価グループ活動のレビューと調整)、およびステップ 7(評価結果の考慮、コンセンサス・ビルディングおよび決定)においてコーディネーションを行う WP5D のフォーカル・ポイントとなることである。

(5-2) 審議概要と主要結果

本 SWG 会合は今会期中に 2 回開催された。会合の始めに、WG Technology Aspects でステップ 6 が完了したことを受け、本 SWG の目的は、ステップ 7 を終了させることおよび関連のリエゾンと回章 5/LCCE/2 の補遺の作成であることを確認した。

まずは、ステップ 7 の結論を出すことを提案した日本寄与文書(5D/830)の内容を確認して、これをベースに議長が作成した「IMT-Advanced プロセスのステップ 7 の結論」文書案を議論した。文書案の冒頭で「本文書の結論は、レポート M.[IMT.RADIO]のドラフト作業で使用される」について合意した。なお、「レポート M.[IMT.RADIO]の最終文章表現は、本文書と異なる可能性がある」との一文が追加された。ステップ 7 の結論部分では、「IMT-ADV/6, IMT-ADV/8 および IMT-ADV/9 の RIT/SRIT 提案を 3GPP 技術としてグループ化する」、「IMT-ADV/4, IMT-ADV/5 および IMT-ADV/7 の RIT 提案を IEEE 技術としてグループ化する」、および「3GPP 技術および IEEE 技術の両方を標準化プロセスに含め、ステップ 8 に進める」の内容を、5D/830 に沿って合意した。また 3GPP 技術、IEEE 技術が少なくとも 3 つのテスト環境で要求条件を満たしているのとの記述を追加するかどうかで議論があり、最終的に「3GPP 技術、IEEE 技術はそれぞれ個別に決議 ITU-R 57, resolves 6 e) and f) を、要求されている数のテスト環境で満たしている。この要求条件はレポート ITU-R M.2133 に記載されている」で合意した。さらにステップ 8 の作業として、「3GPP 技術は IMT-ADV/8 ベース」、「IEEE 技術は IMT-ADV/4 ベース」とする内容は、米国および中国から懸念があった。結論として、ステップ 8 とは特定はせずに、「3GPP 技術は IMT-ADV/8 に規定された技術ベースで、IMT-ADV/8 は IMT-ADV/6 および IMT-ADV/9 と技術的に同一である。」、「IEEE 技術は IMT-ADV/4 に規定された技術ベースで、IMT-ADV/4 は IMT-ADV/5 および IMT-ADV/7 と技術的に同一である」との記述に落ち着いた。本文書は、5D/TEMP/404 として纏められ、ステップ 7 を終了するべきとの

報告を WG Technology Aspects の中間会合に対して行った。

ステップ6およびステップ7の結果を外部組織(技術提案者、GCS提案者、評価グループ)に知らせるリエゾン、および同様の内容をITUメンバー等に通知する回章5/LCCE/2の補遺4は、DGを設立して作成することとした。DG議長は、Marks氏(IEEE)が指名された。

DGからの入力として、外部組織へのリエゾン案(5D/TEMP/413)を議論した。まずリエゾンの送付先として、技術提案者、GCS提案者、評価グループ以外にないか議論して、これらの外部組織で問題ないことを確認した。また、ステップ4-7の結論の一部に、「LTE-Advanced技術をステップ8で規定するベースは、IMT-ADV/8であり、これはIMT-ADV/6およびIMT-ADV/9と技術的に同一である。」、「WirelessMAN-Advanced技術をステップ8で規定するベースは、IMT-ADV/4であり、これはIMT-ADV/5およびIMT-ADV/7技術的に同一である。」を追加する提案があった。これらの記述はレポートM.[IMT.RADIO]の6.2章で合意済みであり、異論なくリエゾンに追加することとなった。その他エディトリアルな修正を行い、リエゾンは5D/TEMP/413Rev.1として合意された。さらに回章5/LCCE/2の補遺4の案(5D/TEMP/412)を議論した。リエゾンと同様の記述をM.[IMT.RADIO]の6.2章から追加することを合意した。その他エディトリアルな修正を行い、回章は5D/TEMP/412Rev.1として合意された。なお、WP5D議長より、回章が2010年12月前半頃完成したら、これをリエゾンの受信者にも送付する要請がITU-R事務局にあり、この内容をSWG Coordination議長報告(5D/TEMP/440)に含めることとなった。

(6) 今後の課題:

特になし。

5.2.5.1 DG COORDINATION

- (1) 議長: Roger Marks (IEEE)
- (2) 主要メンバー: 日本代表团(佐藤(孝)、佐藤(一)、石川、鬼頭、林、田中、広池、木幡、本多、他)、中村(ドコモ)、中国、韓国、米国、英国、カナダ、IEEE、Intel、Qualcomm、Ericsson、AT&T、全約30名程度
- (3) 入力文書: 5D/822(日中韓)、5D/842(WP5D議長、WP5D副議長)
- (4) 出力文書: 5D/TEMP/412(回章5/LCCE/2の補遺4案)、
5D/TEMP/413(IMT-Advancedプロセスに関するリエゾン案)
5D/TEMP/414(DG Coordination議長報告)

(5) 審議概要:

(5-1) 所掌と経緯

本DGの所掌は、IMT-Advanced開発プロセスに関連して、外部機関へのリエゾン案、および回章5/LCCE/2の補遺案を作成することである。

(5-2) 審議概要と主要結果

本DG会合は今会期中に2回開催された。リエゾン案については5D/822 Annex1、回章の補遺案については、5D/822 Annex2 および 5D/842 の寄与文書があり、これらをベースに議論を進めた。リエゾン案は、5D/822 Annex1で提案されたステップ6およびステップ7の結果通知に、GCS提案者に対するステップ8の作業依頼(勧告M.[IMT.RSPEC]への入力、Certification Bの提出)を追加する案をDG議長が示した。日本および中国はGCS提案者への依頼は別のリエゾンとした方が好ましいとの意向を示したが、DG議長とオフライン調整の結果、一つのリエゾンとすることで合意した。また回章の補遺4をこのリエゾンに添付することが5D/822 Annex1の提案であ

ったが、回章の補遺 4 が完成するのは 12 月前半が予想され、それまで本リエゾンが遅らすことは勧告 M.[IMT.RSPEC]の作業上好ましくないので、添付しないこととなった。一方 GCS 提案者への情報として、勧告 M.[IMT.RSPEC]の作業文書(5D/TEMP/428)を添付することで合意した。リエゾン中でステップ 4-7 の結果を記述する部分は、すでに合意済みのレポート M.[IMT.RADIO]の内容と整合性をとることで、完成した。リエゾン案は、5D/TEMP/413 として SWG Coordination に報告することとなった。

回章の補遺 4 については、WP5D 議長から 5D/842 をベースに本会合の議論を反映した案が提出された。日中韓も同様の提案(5D/822 Annex2)を行っていたが、WP5D 議長の案が日中韓の考え方を反映していたので、WP5D 議長案をベースに作業を進めることに合意した。ステップ 4-7 の結論を記述した部分(回章の補遺 4 の 3 章)について、レポート M.[IMT.RADIO]をベースに修正を行った。その他の修正を行い、回章の補遺 4 案を 5D/TEMP/412 として SWG Coordination に報告することとなった。

(6) 今後の課題:

特になし。

5. 3 WG Spectrum Aspects

- (1) 議長: Alan Jamieson(ニュージーランド)
- (2) 主要メンバ: 米、加、メキシコ、英、仏、独、露、フィンランド、スウェーデン、中、韓、印、ニュージーランド、クアルコム、アルカテル・ルーセント、エリクソン、ノキア、インテル、WiMAX-F、テレフォニカ、日本代表団(越後、橋本、小松、広池、北、西原、藤井、丹野)、全 100 名程度
- (3) 入力文書: Doc.5D/
 - ①全般: 790(第 8 回会合議長報告、Chapter 2、Chapter 4、Attachments)
 - ②WG Spectrum Aspects:
 - キャリーフォワード文書: 550(独)、619(米)、622(加)、638(WiMAX-F)、643(UMTS-F)、708(加)、749(WiMAX-F)、754(ノキア他)、773(ノキア他)
 - ISM 機器からの干渉関連: 792(WP1A)
 - 共用検討: 838(SG5 議長)、852(Free TV Australia)
 - ②SWG Sharing Studies:
 - 共用検討一般: 795(ITU-T SG9)、821(加)、864(英)
 - UHF 帯共用検討: 799(BR/TIA TR-45)、(838(SG5 議長))、851(WiMAX-F)、855(アルカテル・ルーセント他)、860(テリアソネラ)
 - レポート M.2039 改訂: 800(BR/TIA TR-45)、848(WiMAX-F)、855(アルカテル・ルーセント他)
 - 新レポート案[ANT.ISO]: 827(中)、859(フランステレコム)、861(エリクソン)
 - 新勧告案[IMT.MITIGATION]: 793(WP4A)、809(米)、820(加)、833(日)、853(伊他)、858(仏)、863(SES)
 - ③SWG Frequency Arrangements:
 - 勧告 M.1036 改訂: 805(米)、815(加)、832(日)、835(印)、836(独)、839(英)、840(APT)、841(ニュージーランド)、845(ブラジル)、857(仏)、862(テレフォニカ)
- (4) 出力文書: Doc.5D/TEMP
 - 407Rev.2 周波数アレンジメント勧告 M.1036 改訂暫定草案
 - 408 周波数アレンジメント勧告 M.1036 改訂に係る作業計画
 - 431 ISM 機器からの干渉の影響の検討に関わる WP1A へのリエゾン文書
 - 432 UHF 帯の共用検討の作業に関わる WP3J、3M、3K へのリエゾン文書
 - 433 UHF 帯の共用検討の作業に関わる WP5A へのリエゾン文書
 - 434 UHF 帯の共用検討の作業に関わる WP5B へのリエゾン文書
 - 435 UHF 帯の共用検討の作業に関わる WP5C へのリエゾン文書
 - 436 UHF 帯の共用検討の作業に関わる WP6A へのリエゾン文書
 - 437 UHF 帯の共用検討の作業に関わる外部団体へのリエゾン文書
 - 439 新レポート案[ANT.ISO]の作業に関わる WP1A、5A へのリエゾン文書
 - 444 単一端末デバイス内の EMC 問題に関わる WP5A へのリエゾン文書
 - 446 3400-4200MHz 帯の BWA と FSS の共存検討に関わる WP5A へのリエゾン文書
 - 447Rev.1 新勧告案[IMT.MITIGATION]の作業に関わる WP4A へのリエゾン文書
 - 448 レポート M.2039 改訂草案
 - 449 SWG Sharing Studies の作業計画
 - 462 WG Spectrum Aspects 議長報告
- (5) 審議概要:

(5-1) 所掌と経緯

WG Spectrum Aspects(WG-SPEC)は、IMT の周波数全般に関連する事項についての検討を行うことを所掌とし、周波数アレンジメント勧告の改訂、共用検討関連の検討、リエゾン文書の作成について議論を行った。

(5-2) 体制

第1回 WG 会合において、SWG Sharing Studies と SWG Frequency Arrangements の2つの SWG を設置することが承認された。前回 WP5D 会合に引き続き、SWG-Sharing Studies は M. Kraemer 氏(独)が議長、SWG-Frequency Arrangements は Y. Zhu 氏(中)、及び A. Sanders 女史(米)が共同議長として、それぞれ担当することが承認された。SWG の構成は以下の通り。

SWG 名	SWG 議長・副議長	主なトピック
SWG-Sharing Studies	議長 M. Kraemer氏(独)	共用検討
SWG-Frequency Arrangements	共同議長 Y. Zhu氏(中) A. Sanders女史(米)	勧告M.1036-3の改訂

(5-3) 審議概要と主要結果

第1回会合では、SWG Sharing Studies と SWG Frequency Arrangements の2つの SWG の設置を承認し、SWG に割り振られた文書は各 SWG で審議することにした。また、以下の3項目について議論が行われた。

(1) ISM 機器からの干渉の影響の検討について

WG 議長より、文書 5D/792(WP1A)の説明が行われ、SWG Sharing Studies で対応を検討するよう指示が行われた。

(2) JTG5-6 の検討結果について

橋本 SG5 議長より、文書 5D/838(SG5 議長)の説明が行われた。WG 議長より、本件は UHF 帯共用検討において重要であることがコメントされ、SWG Sharing Studies の作業で当該内容を考慮するように指示が行われた。

(3) 700MHz 帯の IMT 端末の帯域外輻射が TV 放送に与える影響について

Free TV Australia より、文書 5D/852 に基づき、700MHz 帯の IMT 端末の帯域外輻射が TV 放送に与える影響について、M.1036 改訂作業で考慮すべきという提案が行われた。フランスから、IMT 端末と TV 放送の干渉は非常に近距離での干渉シナリオであり、国内問題として扱うべき内容であるため、ITU-R で議論する必要性について疑問であること、WP6A で同様の検討が行われており WP5D でどのようなシナリオを検討するのかとの意見が出された。WG 議長から、国内問題であっても ITU-R として主管庁に対して技術的なガイダンスを与えるような場合には検討を行うケースがあること、一方で干渉検討においては、被干渉側が保護の基準を検討し、与干渉側から送信パラメータを受領して検討するのが通常のやり方であり、今回のケースでは WP6A が主管となって検討すべきであると意見(Qualcomm からも同様な意見)が述べられた。最終的に、本寄与文書はノートされ、WG SPEC の議事録に SG6 を主管として検討してもらうこと、当該検討には WP5D も協力することを記載することとした。

第2回会合(最終)では、まず各 SWG 議長からの報告(SWG Sharing Studies: 5D/TEMP/458、SWG Frequency Arrangements : 5D/TEMP/411)が行われた。以上の報告について、特段質疑はなかった。引き続き、以下の出力文書の審議が行われた。

<審議された出力文書>

TEMP/432 UHF 帯の共用検討の作業に関わる WP3J、3M、3K へのリエゾン文書

- ・ 特段コメントなく、WP5D プレナリに承認を求めることにした。

TEMP/433 UHF 帯の共用検討の作業に関わる WP5A へのリエゾン文書

- ・ 特段コメントなく、WP5D プレナリに承認を求めることにした。

TEMP/434 UHF 帯の共用検討の作業に関わる WP5B へのリエゾン文書

- ・ 特段コメントなく、WP5D プレナリに承認を求めることにした。

TEMP/435 UHF 帯の共用検討の作業に関わる WP5C へのリエゾン文書

- ・ 特段コメントなく、WP5D プレナリに承認を求めることにした。

TEMP/436 UHF 帯の共用検討の作業に関わる WP6A へのリエゾン文書

- ・ 特段コメントなく、WP5D プレナリに承認を求めることにした。

TEMP/437 UHF 帯の共用検討の作業に関わる外部団体へのリエゾン文書

- ・ 特段コメントなく、WP5D プレナリに承認を求めることにした。

TEMP/439 新レポート案[ANT.ISO]の作業に関わる WP1A、5A へのリエゾン文書

- ・ 新レポート案[ANT.ISO]のステータスに関する記述は、WP5D プレナリ会合において確定するため、条件付き承認とした。

TEMP/431 ISM 機器からの干渉の影響の検討に関わる WP1A へのリエゾン文書

- ・ 特段コメントなく、WP5D プレナリに承認を求めることにした。

TEMP/444 単一端末デバイス内の EMC 問題に関わる WP5A へのリエゾン文書

- ・ 特段コメントなく、WP5D プレナリに承認を求めることにした。

TEMP/446 3400-4200MHz 帯の BWA と FSS の共存検討に関わる WP5A へのリエゾン文書

- ・ 特段コメントなく、WP5D プレナリに承認を求めることにした。

TEMP/447 新勧告案[IMT.MITIGATION]の作業に関わる WP4A へのリエゾン文書

- ・ Attachment の文書番号の誤記の修正以外は、特段コメントなく、WP5D プレナリに承認を求めることにした。

TEMP/448 レポート M.2039 改訂草案

- ・ 内容について確認が行われ、WP5D プレナリにおいてレポート改訂草案への格上げについても承認を求めることにした。

TEMP/449 SWG Sharing Studies の作業計画

- ・ SWG 議長より、IMT.MITIGATION の完成時期の変更、および、UHF 帯共用検討のパラメータ等の完成時期の変更の 2 点について説明があり、されに、WG 議長より M.2039 の作業計画についてはレポート改訂草案へ格上げされた時点で削除することが確認され、WP5D 議長報告の第 2 章に添付することにした。

TEMP/408 SWG Frequency Arrangements の作業計画

- ・ Zhu SWG 議長より、M.1036 の作業計画について、WP5D 第 10 回会合は完成予定であることから、リエゾンに関する記述が削除されたことについて説明があり、WP5D 議長報告の第 2 章に添付することにした。

TEMP/407Rev.1 周波数アレンジメント勧告 M.1036 改訂に向けた作業文書

- ・ Zhu SWG 議長より、700MHz 帯周波数アレンジメントの更新など主な点について説明が行われた。
- ・ さらに、Sanders SWG 議長より、SWG 後の編集作業中に 700MHz 帯周波数アレンジメントのノートの修正漏れが見つかったことから、SWG 後の修正点について説明が行われた。具体的には、Annex 2 の Note 5、6 で、AWF 周波数アレンジメントのガードバンドに関する記述。この修正については特段の議論なく承認された。
- ・ WG 議長より、Annex 6 を除いて安定した文書となったこと、Annex 6 について次回会合で議論し、完成を目指すことがコメントされた。

- ・ 米国から、勧告改訂暫定草案への格上げを求める意見が出された。日本から、格上げを行う場合には、700MHz 帯周波数アレンジメントについて現在日本が検討中であることをノートとして記載することを求め、次回会合で寄与文書に基づいて議論を求めることができることを WG 議長報告に記載することにした。以上の議論の後、WP5D プレナリにおいて勧告改訂暫定草案への格上げについて承認を求めることにした。

続いて、次回会合へキャリアフォワードする文書の確認が行われた。

TEMP/430 UHF 帯の共用検討新レポート案[IMT.SHARING.UHF]に向けた作業文書

- ・ 特段コメントなく、キャリアフォワードした。

TEMP/438 新レポート[ANT.ISO]暫定草案

- ・ 新レポート暫定草案への格上げについて承認され、キャリアフォワードした。

TEMP/443 ISM 機器からの干渉の影響の検討に関する WP1A へのリエゾン文書案の概要

- ・ リファレンス等について次回会合で議論することを確認し、キャリアフォワードした。

TEMP/445 新勧告[IMT.MITIGATION]暫定草案

- ・ 新勧告暫定草案への格上げについて承認され、キャリアフォワードした。
- ・ 日本より、本作業における日本の貢献の大きさについて説明し、日本としては本文書が十分検討が尽くされたもの (almost matured) と考えているが、いくつかの主管庁およびセクタメンバから懸念が表明されている状況であることを説明した上で、日本として次回完成に向けて貢献する意志があることを表明し、他の主管庁およびセクタメンバからの貢献も要請した。WG 議長からも次回完成に向けて各主管庁およびセクタメンバに貢献が要請された。

839 3.5GHz 帯周波数アレンジメントに関する提案

- ・ 3.5GHz 帯周波数アレンジメントについては、CEPT で現在検討中である状況を踏まえ、キャリアフォワードした。

TEMP/407Rev.2 周波数アレンジメント勧告 M.1036 改訂暫定草案

- ・ WG 議長から、勧告改訂暫定草案への格上げによりタイトルが修正されるため、Rev.2 とすることが確認され、キャリアフォワードした。

最後に、カナダから、作業文書[IMT.700]については、カナダおよび日本から議長報告で参照し続けるべきであるとの意見を出していることの確認があり、WG 議長が WP5D 第 7 回会合の議長報告 5D/679 Attachment 4.13 が引き続き有効であることを確認した。("Note Attachment 4.13 to 5D/679 still available.")

以上で、WG Spectrum Aspects の審議を終了した。

(6) 今後の課題:

- ・ 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改訂、及び 698-960MHz 帯の周波数アレンジメント策定に関わる作業文書[IMT.700]については、我が国では 3400-3600MHz 帯、及び 698-806MHz 帯の一部を IMT に使用予定であることを踏まえ、以下の点を考慮して、適切に対処していく必要がある。
 - (1) 勧告 M.1036-3 の改訂作業については、次回会合で完成予定であるため、勧告改訂案に記載されている日本の提案内容を含め、最終的な記載内容を検討する必要がある。
 - (2) 作業文書[IMT.700]は、勧告 M.1036-3 の改訂案の完成時期である次回会合に取り扱いを議論することになるため、我が国における 700/900MHz 帯の利用に関わる国内の検討状況に応じて、対応を検討する必要がある。
- ・ 共用検討関連では、以下の点を考慮して、我が国にとって不利となる結論が導かれぬよう、適切に対処

していく必要がある。

- (1) 新勧告案 M.[IMT MITIGATION]の作成に当たっては、我が国の技術的検討内容が作業文書に反映されていることを踏まえ、次回会合で新勧告案が完成されるよう対処していく必要がある。
- (2) 新レポート案 M.[ANT ISO]の作成の作業は、新レポート暫定草案の内容の適切性の確認を行うとともに、我が国にとって不利となる結論が導かれないう、対処していく必要がある。
- (3) UHF 帯における共用検討は、作業文書の内容の適切性の確認を行うとともに、我が国では当該周波数帯の一部を IMT に使用(及び使用予定)であることを踏まえ、我が国にとって不利となる結論が導かれないう、対処していく必要がある。

5. 3. 1 SWG SHARING STUDIES

- (1) 議長: M. Kraemer(独)
- (2) 主要メンバ: 米、加、英、独、仏、露、中、韓、印、豪、ニュージーランド、スウェーデン、フィンランド、ブラジル、他各国、UMTS-F、WiMAX-F、SES World Skies、日本代表団(橋本、佐藤(孝)、広池、新、丹野、藤井、菅田、北、西原、木幡、小松)、約 80 名程度
- (3) 入力文書: Doc.5D/790 Ch.2(WP5D), 792(WP1A), 793(WP4A), 795(ITU-T SG5), 799,800(TIA TR-45.5), 809(米), 820,821(加), 827(中), 833(日), 838(SG5 議長), 848,851(WiMAX フォーラム), 853(仏及び伊), 855(3GPP IMs), 858(仏), 859(フランステレコム), 860(TeliaSonera), 861(エリクソン), 863(SES World Skies), 864(英)
- (4) 出力文書: Doc.5D/TEMP

リエゾン文書:

- 431 ISM 機器の干渉に関する WP1A へのリエゾン文書
- 432 UHF 帯共用検討に関する WP3J,3K,3M へのリエゾン文書
- 433 UHF 帯共用検討に関する WP5A へのリエゾン文書
- 434 UHF 帯共用検討に関する WP5B へのリエゾン文書
- 435 UHF 帯共用検討に関する WP5C へのリエゾン文書
- 436 UHF 帯共用検討に関する WP6A へのリエゾン文書
- 437 UHF 帯共用検討に関する外部機関へのリエゾン文書
- 439 IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート草案[ANT ISOLATION]に関する WP1A 及び WP5A へのリエゾン文書
- 444 単一端末デバイス内の EMC に関する WP5A へのリエゾン文書
- 446 3.4-4.2GHz 帯の BWA と FSS の共用検討、3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告草案[IMT.MITIGATION]に関する WP5A のリエゾン文書
- 447 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告草案[IMT.MITIGATION]に関する WP4A へのリエゾン文書

その他:

- 448 IMT 共用検討パラメータに関するレポート M.2039 の改訂草案
- 430 UHF 帯共用検討レポート草案[IUHF-Sharing]に向けた作業文書
- 438 IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート暫定草案[ANT ISOLATION]
- 443 ISM 機器の干渉に関する WP1A へのリエゾン文書のアウトライン
- 445 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告暫定草案[IMT.MITIGATION]
- 458 SWG Sharing Studies の議長報告

(5) 審議概要:

(5-1) 所掌と経緯

本SWGは、IMT-2000、IMT-Advancedの周波数帯における共用検討、共用検討に用いるパラメータを主な所掌とし、WP5D第2回会合からM. Kraemer氏(独)がSWG議長を務めている。

今会合では、決議224に基づくUHF帯の共用検討、IMT共用検討パラメータに関するレポートM.2039の改訂、3.4-3.6GHz帯の共用改善技術の新勧告草案M.[IMT.MITIGATION]に向けた作業文書とWP4Aへのリエゾン文書、基地局併設等のアンテナ共用に関する新レポート草案M.[ANT.ISOLATION]に向けた作業文書、その他WP1Aからのリエゾン文書への回答等についての審議が行われた。

(5-2) 体制

第1回SWG会合において、下表の通り4つのドラフティンググループを設置することと、DG議長が承認された。

名称	議長	内容
DG UHF SHARING STUDIES	L. Marti 女史(仏)	決議224に基づくUHF帯における移動業務と他業務との共用検討
DG REVISION M.2039	J.P. Millet 氏(仏)	IMT共用検討パラメータに係るレポートM.2039の改訂作業
DG IMT MITIGATION	J. Lewis 氏(サムスン)	3.4-3.6GHz帯のIMTとFSSの共用改善技術に関する新勧告草案の作業文書及びリエゾン文書への対応
DG ANTENNA ISOLATION	S. Magnasson 氏(エリクソン)	IMTを含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート草案の作業文書

(5-3) 審議概要と主要結果

第1回会合では、SWGに割り当てられた文書の紹介と質疑が行われ、上記4つのドラフティンググループの設立が合意され、DG議長が承認された。主な審議内容と結果は以下の通りである。

① UHF帯の共用検討関連(入力文書:5D/799, 838, 851, 855, 860)

5D/799 (TIA TR-45.5): SWG議長が紹介し、特段の質疑なし

5D/838 (SG 5議長): 説明は省略された。

5D/851 (WiMAX フォーラム): クアルコムより、昨日5D/838で指摘されたようにJTG5-6で何が行われたかよく調べるべきと指摘され、SWG議長よりDGへのガイダンスとされた。

5D/855 (3GPP IMs): エリクソンが個別メンバーを代表して紹介し、特段の質疑なし

5D/860 (TeliaSonera): SWG議長より、JTG5-6との何回かのリエゾン交換の中でIMTパラメータを提供したが、JTG5-6では一部異なる値で検討されたので、注意する必要とされた。

② レポートM.2039の改訂関連(入力文書:5D/800, 848, 855)

5D/800 (TIA TR-45.5): SWG議長が紹介し、特段の質疑なし

5D/848 (WiMAX フォーラム): クアルコムより、テーブルに多くの空欄があり問題があると指摘し、SWG議長より将来の改定で情報追加もあると回答した。

•WiMAX フォーラムより、M.1457, M.1580/1581と重複があり、M.1457は定期的な改訂があるので、M.2039も整合させる必要があるとコメント。クアルコムより、CDMA-MCで2003年にTBDだったものがまだTBDのまま、M.1457, M.1580/1581を参照する必要があるとコメント。SWG議長より、①他文書の参

照、②定期的な改訂の方法があるが、p3に他の関連文書があることのテキスト追加、TBD パラメータの削除、等を DG で検討してほしい、とした。

5D/855 (3GPP): エリクソンより 450-470MHz は1GHz未満にまとめたと紹介し、特段の質疑なし

③ IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告草案関連(入力文書:5D/793, 809, 820, 833, 853, 858, 863,

5D/793 (WP 4A): 特段の質疑なし

5D/809 (米): 特段の質疑なし

5D/820 (加): SWG 議長により、提案の通り WP5A にリエゾン文書を出すことが確認された。

5D/833 (日): 小松より紹介し、SWG 議長より Good bases for discussion とされ、詳細は DG で議論するよう要請された。

•ロシアより、誤解をあたえる提案があるが詳細は DG で議論するとした。

5D/853 (仏及び伊): 特段の質疑なし

5D/858 (仏): 特段の質疑なく、DG に渡して適切に作業文書に反映するよう要請された。

5D/863 (SES World Skies): 特段の質疑なし

④ 基地局併設等の ANT IISOLATION 関連 (入力文書:5D/827, 859, 861)

5D/827 (中)、5D/859 (フランステレコム)、5D/861 (エリクソン): いずれも特段の質疑なく、DG に渡して適切に作業文書に反映するよう要請された。

⑤ リエゾン文書、その他 (入力文書:5D/792, 795, 821, 864)

- Protection against ISM interference 5D/792 (WP 1A)

•SWG 議長より、昨日の WG-SEC から SWG に回されたものとし、リエゾン文書で示された脚注 5.138、5.150 の ISM 周波数を明示して IMT に隣接する周波数帯が3つ(450MHz 帯、900MHz 帯、2500MHz 帯)あるがどうするかを問いかけた。英国から 2300-2400MHz も隣接周波数と指摘された。

•ニュージーランドより、IMT の保護は重要でデジタル化への対応は緊急の要請であると指摘し、SWG 議長より M.2039 の最新版を提供するリエゾン文書を作成することが提案され合意された。

•ニュージーランドより、ハーモニクス(高調波)の影響もあるので IMT 周波数を広く捕らえるべき、慎重に検討すべきと指摘し、SWG 議長は議長報告で次会合に輸入文書を募ることを記載し、リエゾン文書案を作成してキャリーオーバーすることにより WP1A が WP5D の状況が分かるようにすることを提案した。ニュージーランドがリエゾンの出し方に懸念を示し、今会合で WP5D が検討中であることを伝えるリエゾンを出し、次回に正式な検討結果を伝えるリエゾンを出すこととした。リエゾン案はオフラインで作成するとされた。

- IMT impact on cable systems 5D/795 (ITU-T SG 9)

•SWG 議長が紹介し、既に WP5D の見解は示してあるとし、ノートされた。

- EMC disturbance within a single device 5D/821 (加)

•Jose.Costa (WP5D contact person) が説明し、SWG 議長から同一端末デバイス内の干渉は ITU-R の所掌外とのリエゾンを WP5A と連携して作成すること(今会合でリエゾン案を作って来月の WP5A 会合に送り、WP5A で確認して ITU-T に出すこと)が提案され、異議無く合意された。リエゾン案はカナダがオフラインで作成することになった。

- Radar adjacent band selectivity 5D/864 (UK)

•ニュージーランドが、これは英国の国内マターであり、ITU が扱うべき国際間マターでないとし、米国も情報提供に感謝するが WP5D の所掌外、WP5B の所掌と指摘した。SWG 議長は、WP5D としては本文書をノートすることとし、関心のある主管庁が直接英国にコンタクトするよう求めた。英国も議長提案に同意した。

•仏より、CEPT でも同様な課題を議論しており WP5B と情報交換する予定であると紹介された。

- インドから 2500-2690MHz 帯に関心があるとコメントされた。

第 2 回会合では、各 DG からの進捗報告を受けると共に、SWG Sharing Studies からの出力文書案 (Sharepoint 内の作業文書:SWG Sharing 1~10)の審議が行われた。主な審議内容と結果は以下の通りである。

DG 議長からの報告:

(i) DG UHF SHARING STUDIES

- ・3 回開催し、作業文書の更新を行ったこと、特にスコープ、パラメータの扱い、他の WP 及び外部機関/パラメータに関する情報を求めるリエゾンを審議したことが報告された。

(ii) DG REVISION M.2039

- ・1 回開催し、WiMAX フォーラム、3GPP の入力に基づいて作業文書を更新し、承認を求めることが報告された。

(iii) DG IMT MITIGATION

- ・3 回開催し、多くの入力文書に基づいて作業文書を更新し、完成度が高まった(マチュアになった)ので、扱いを後で審議してもらうこと、WP4A 及び WP5A へのリエゾンを作成したことが報告された。

(iv) DG ANTENNA ISOLATIO

- ・3 回開催し、3つの入力文書に基づいて作業文書の更新し、完成度が高まったので新レポート暫定草案 (PDNR)とすること、WP5A 及び、WP1A(ITU-T SG5 ヘコピー)に状況を伝えるリエゾンを作成したことが報告された。

UHF 共用検討関連:

SWG Sharing 1 (Working document) ->5D/TEMP/430

- ・作業文書なので、レビューなしで議長報告に添付することとされた。

SWG Sharing 2 (LS to 3K & 3M) ->5D/TEMP/432

- ・DG-UHF 議長より紹介され、宛先に WP3J を追加、エディトリアルな修正を加え、WG-SPEC に諮ることが合意された。

SWG Sharing 3 (LS to 5A) ->5D/TEMP/433

- ・DG-UHF 議長より DG 後に段落を一つ追加したことが説明され、タイトルを「決議 224 及び研究課題 229/5 に関連する共用検討」に修正し、WG-SPEC に諮ることが合意された。ニュージーランドより、コンタクトに関連するリエゾン文書で同じにすべきと指摘され、SWG 議長とすることになった。

- ・SWG-Sharing 5(5C への LS)の議論の後、SWG-Sharing 5 のテキストの一部を追加し修正した。

SWG Sharing 4 (LS to 5B) ->5D/TEMP/434

- ・DG-UHF 議長より WP5A へのリエゾン文書と一部だけ異なることが説明され、タイトル、コンタクトを変更し、WG-SPEC に諮ることが合意された。JTG5-6 の 5-6/180 のパラメータ確認を要求することが追加された。

SWG Sharing 5 (LS to 5C) ->5D/TEMP/435

- ・DG-UHF 議長より WP5A へのリエゾン文書と一部だけ異なることが説明され、タイトル、コンタクトを変更し、WG-SPEC に諮ることが合意された。

- ・カナダより、WP5C は固定でも高い周波数の P-P,P-M を扱い、無線アクセスのような固定は WP5A が扱っているため WP5A にも送るべきと指摘し、クアルコム の提案により、前記 WP5A へのリエゾン文書を一部修正することになった。

SWG Sharing 6 (LS to 6A) ->5D/TEMP/436

- ・DG-UHF 議長より説明され、WP5D で決定した検討内容の表現を一部修正し、タイトル、コンタクトを変更し、WG-SPEC に諮ることが合意された。

SWG Sharing 7 (LS to EOs) ->5D/TEMP/437

- ・DG-UHF 議長より説明され、ニュージーランドの提案により WP5D で決定したとするテキストへ他の表現に置き換え、タイトル、コンタクトを変更し、次回会合スケジュールを修正し WG-SPEC に諮ることが合意された。
- ・クアルコムより、どの外部機関に送るのが質問され、SWG 議より ITU が持っているリストで関連するシステムを扱っているグループとされたが、オフラインで確認することになった。

基地局併設等の ANT Isolation 関連:

SWG Sharing 8 (Working document) ->5D/TEMP/439

- ・SWG 議長より、作業文書なのでレビューなしで議長報告に添付することとされた。
- ・新レポート暫定草案(PDNR)に格上げすることを SWG としてエンドースし、WG-SEC に報告することとなった。

SWG Sharing 9 (LS to 1A & 5A) ->5D/TEMP/439

- ・DG 議長より作業の現状を報告するリエゾン文書と説明され、新レポート暫定草案(PDNR)に格上げたことと示す部分、次回会合スケジュール部分はカウンセラにフォローしてもらうこととし、WG-SPEC に諮ることが合意された。

ISM バンドにおける干渉関連:

SWG Sharing 10 (LS to WP 1A) ->5D/TEMP/431

- ・SWG 議長より事前に WP1A に送るものと説明され、独の提案で高調波の影響に関するテキストが追加され、WG-SPEC に諮ることが合意された。コンタクトは別途。

SWG Sharing 11 (Outline LS WP 1A) ->5D/TEMP/443

- ・SWG 議長より、議長報告に添付し次回に承認するものと説明され、高調波の影響に関するテキストを追加するとされた。特に、コメントなし。

単一端末デバイス内の EMC 関連:

SWG Sharing 12 (LS to WP 5A) ->5D/TEMP/444

- ・オフラインで作成したカナダより説明され、コンタクトをオフラインでボランティアを募り、いなければ SWG 議長とすることで、WG-SPEC に諮ることが合意された。

IMT 共用検討パラメータに関するレポート M.2039 の改訂関連:

SWG Sharing 16 (Revised Report) ->5D/TEMP/448

- ・SWG 議長より、DG レベルで改訂を終了し改定案(DN Revision)として SG5 へ提出するものと説明された。ページバイページでレビューし、下記の修正を行って WG-SPEC に承認を求めることが合意された。

主なレビュー結果:

- ・モトローラより P8(P15,P24)の Emission bandwidth (-3dB, -20dB, -60dB)に空欄があると指摘され、SWG 議長、DG 議長より、テーブルの構成の都合上であること、参照先があるインタフェースと値が直接記入しているインタフェースがあることが説明され、値の無い欄の行は削除することになった。

- ・P12のマーカの付いたE-UTRAのACLR2の値は3GPPからの情報が誤記と想定されるものと説明された。修正して記載するか3GPP提案とおりに記述する、単に参照とするかが議論され、現時点では3GPP提案通りとし将来の改版で修正することとした。
- ・モトローラより、P21にtbdの欄があると指摘され、他にも含めてtbdは削除することになった。
- ・モトローラより、P34のノート(tt)の2GHzは含まれないことが確認されたとし、削除された。
- ・インテルより、P38右端の「WiMAX mobile」を「mobile WiMAX」が正しいとし、修正された。
- ・米国、インテルの指摘により、P53及びP54のノート3を削除された。
- ・インテルよりP60のTable18は削除すべきと指摘し、SWG議長よりカウンセラへの指示に含まれ、カウンセラに対応してもらうこととした。
- ・SWG議長よりカウンセラへの指示として4章(1.8GHz, 2GHz, 2.3GHz, 2.5GHz)、5章(1GHz以下)の章の順番を修正してもらうとコメントがあった。

IMTとFSSの共用改善技術に関する新勧告草案[IMT.MITIGATION]関連:

SWG Sharing 13 (PDNR) ->5D/TEMP/445

- ・初めにDG議長より、残課題(タイトル/ステータス、タイトルに付した脚注、スコープ内の一部の表現、略語への追加候補、2.1/2.2節の扱い、Attachment1の中心周波数3.9GHzへのノート)がイエローマーカで付されていることが説明された。
- ・SWG議長により、簡単な事項から議論するとし、
 - ①スコープのcontains examples of techniquesをdescribes techniquesに修正
 - ②タイトルに付したSG4との連携を示す脚注は将来カウンセラがケアする
 - ③5つの略語を追加
 - ④中心周波数へのノートは、national requirementをavailable frequency for this experimentにし変更を合意した。
- ・次に、文書のステータス、2.1/2.2節の扱いについて、SWG議長より見解を求められ、下記のような意見が出された。

仏: 今会合での完成を目標に精力的に作業を行った、計画通り完成させるべき。

ASIA-SAT: 作業文書から直接勧告案(DNR)に格上げすることに反対、ITUの手順に従ってまず暫定勧告草案(PDNR)とし、次に勧告案(DNR)にすべき。Attachment2は全く新しい材料であり適応性について検討すべき。第2章の技術を残したとしてもガイドラインにならない。WP4Aは今会合での格上げは時期尚早としている。WP4Aは新材料についてコメントしたいはず。

SES: 入力文書で述べたように、主官庁へのガイドラインにならない。新しい技術は主管庁のレビューが必要。

米: 勧告案(DNR)への格上げに反対。2章の技術のコンテンツは干渉軽減に有効だが、FSSに負担を強いるので勧告には敵さない。2章の技術の名称はITUの用語に無い。2章を全て削除して暫定勧告草案(PDNR)に格上げすることには反対しない。

独: 勧告案(DNR)に格上げすべきでない。

露: 多くが反対しているが同じ見解。米国のアプローチは一つの妥協案。第一段階として第2章なしで承認し、第2段階で新しい技術を含めて改版する方法がある。第一段階ではSG5はSG4に照会しコメントを反映しなければならない。

ニュージーランド(Alan氏): 承認後、直ちに改訂に着手しても改訂には12ヶ月かかる。

サムソン(J.Lewis):メソドロジーに関するS.1556においてSG4が条件付で承認し直後のSG5/WP5Dでコメントを出したのと同様に、SG5が条件付で承認し、2011年中ごろのSG4,WP4Aに照会する方法もある。

SWG議長:その場合、承認に半年かかることになる。格上げにトライする場合でも、何処を削除するか、選択肢が残っている。ASIA-SATの言うように更なる議論が必要。

独:2.1節だけ削除か、2章全体を削除するか、まだ未解決である。

露:2章の技術はコンセプトは有効だが、FSSに負担を強いるなど実現が困難。

米:WP4Aに照会したとしても承認には反対する、国内で衛星事業者にコンサルティングしたところ強い反対だった。露のアプローチはいい方法。

独:2章なしで承認しても次の改訂で同じ内容を含んだら、、、

サムソン(J.Lewis):次回のWP4AはWP5D会合の後。

以上の意見を踏まえ、SWG議長より、

①現状の2章を残しPDNRに格上げし、更なる検討を行ってからWP4Aのレビューを求める。

②2章を全て削除し、条件付で承認し、将来改訂する。

の選択肢があるが、SWG議長として①を提案するとされ、特に反対意見がなかったので①とすることになった。

最後に、露の提案で、日本の実験周波数3.9GHzに付されたノート後半の3400-4200MHzは、3400-3600MHzに修正された。

Sharing 14 (LS to WP 5A) ->5D/TEMP/446

- ・DG議長より経緯と概要が説明され、前の議論に従い、[preliminary]の[]を削除し、新勧告暫定草案(PDNR)を添付すること、コンタクトをJ.Lewis氏とすることで、WG-SPECに諮ることが合意された。
- ・露より、IMT.MITIGATIONを添付しどのようにWP5Aをアシストするかが質問され、SWG議長よりWP5Aの文書にWP5Dの文書、例えばM.1457、が参照されており、WP5AとWP5Dの相互参照に有効であると回答された。

SWG Sharing 15 (LS to WP 4A) ->5D/TEMP/447

- ・DG議長より2.1、2.2節の扱い、文書のステータスについて、SWG-SHARINGの議論により追加・修正すべき事項があると説明され、上記結論に沿ったテキストが追加され、次回会合のスケジュールをオフラインで追加することで、WG-SPECに諮ることが合意された。

ワークプランのレビュー:

SWG Sharing 17 (Workplans) ->5D/TEMP/449

- ・IMT.MITIGATIONの完成を9回から10回に延長すること、第9回会合の内容は第8回の内容をコピーすること、IMT.SHARING.UHFの第10回会合にリエゾン文書に基づいてパラメータを最終化する項目を追加して、WG-SPECに報告することが合意された。

(6) 今後の課題:

- ・3.4-3.6GHz帯のIMTとFSSの共用改善技術に関する新勧告草案 M.[IMT.MITIGATION]、次会合での完成に向けて、積極的に対処することが必要である。基地局併設時等のアンテナ共用に関する新レポート草

案 M.[ANT.ISOLATION]は、次会合で完成予定だが、不適切な内容が含まれないよう、必要に応じて対処することが必要である。

- ・ また、UHF 帯における共用検討については、検討されている周波数の一部が我が国では IMT に使用(及び使用予定)であることを踏まえ、議論の動向を注視し、我が国にとって不利な結論が導かれないう、対処していく必要がある。

5.3.1.1 DG UHF Sharing

(1) 議長: Laura Marti 女史 (仏)

(2) 主要メンバ: 仏、露、Sweden、Finland、米、加、中、韓、他各国、WiMAX-F、Alcatel-Lucent、Ericsson、Samsung、Qualcomm、日本代表団(越後、丹野、小松、藤井、北、西原)、全 50 名程度

(3) 入力文書: Doc.5D/838(SG5 議長)、851(WiMAX-F)、860(テリアソネラ)

(4) 出力文書: 5D/TEMP/

430 UHF 帯の共用検討新レポート案[IMT.SHARING.UHF]に向けた作業文書

432 UHF 帯の共用検討の作業に関わる WP3J、3M、3K へのリエゾン文書

433 UHF 帯の共用検討の作業に関わる WP5A へのリエゾン文書

434 UHF 帯の共用検討の作業に関わる WP5B へのリエゾン文書

435 UHF 帯の共用検討の作業に関わる WP5C へのリエゾン文書

436 UHF 帯の共用検討の作業に関わる WP6A へのリエゾン文書

437 UHF 帯の共用検討の作業に関わる外部団体へのリエゾン文書

(5) 審議概要:

(5-1) 所掌と経緯

本 DG は決議 224(WRC-07 改)に基づく UHF 帯における共用検討の新レポート案[IMT.SHARING.UHF]の作業文書作成のため、SWG Sharing Studies の傘下に設置された。なお、本レポート案作成の詳細作業計画は、WP5D 第 7 回会合において設置された AH SPECTRUM で作成を行ったものである。

本会合には、SG5 議長からの JTG 5-6 の検討結果に関する文書を含む 3 件の寄与文書(5D/838、5D/851、5D/860)が入力された。DG 議長には、フランスの Laura Marti 女史が選出された。

(5-2) 審議概要と主要結果

今会合では DG は 3 回開催され、入力文書に基づく作業文書の更新、関連 WP へのリエゾン文書の送付先及び文書案について討議した。なお、一部のリエゾン文書案および作業計画の更新については、SWG Sharing Studies において直接討議を行った。

1) 新レポート案[IMT.SHARING.UHF]の作業文書の更新

- SG5 議長からの入力文書 5D/838 について、DG 議長より WG Spectrum Aspects プレナリ、SWG Sharing Studies で議論されたように、JTG5-6での検討を考慮し、JTG5-6で検討されたパラメータに配慮すべきことが確認された。
- WiMAX-F から、入力文書 5D/851 の WiMAX パラメータ等の提案に関し、JTG5-6 とのパラメータの一致については再確認して問題がないこと、JTG5-6 の検討との重複については、WiMAX-F では多くの検討がされていて、その中のスコープに合う一部が取り出されたものであることが説明された。フランスから、JTG5-6 と合っていないパラメータがあることが指摘されたが、DG 議長よりレポートのスコープを議論するのが先であるとして、ノートされた。
- テリアソネラから、入力文書 5D/860 に基づいて、JTG5-6 のパラメータや検討方法について確認すべきであ

るとの提案が行われた。ロシアから、JTG5-6 でパラメータや検討方法が十分検討されており、この経験を考慮すべきであるとの意見が示され、Qualcomm からは使っているパラメータや方法が適切かを考える必要があるとの意見が示された。DG 議長から、まずレポートの範囲を明確化するのが重要であるとして、作業文書の範囲を確認する作業に移ることになった。

- Free TV Australia から、JTG5-6 では 790MHz の放送の保護については検討されておらず、検討が必要であるとの意見が出されたが、フランス、Qualcomm が SG6 で検討すべきことであるとして反対した。DG 議長から、移動業務の保護の検討にフォーカスし、放送への影響については他のグループで検討すべきであるとの見解が示された。
- 新レポート案の目的は、IMT が干渉を受ける場合についての検討とすることが確認された。
- 1 章の範囲については、WP5D で検討すべき内容の明確化のための修正について議論された。ロシアからの意見に基づき、JTG5-6 で未検討である TV 放送以外の業務についても検討対象に含められた。ロシアが他の WPs の検討についても情報として記載すべきと主張し、ニュージーランドからは本レポートで検討することのみを書くべきで特定の WPs について書くことは通常行わないと意見されたが、Editor's note を記載して次回議論することとした。エリクソン、Qualcomm から、Sharing study という言葉は適切ではなく、求められているのは Protection criteria であると指摘があり、Coexistence に修正することとした。フランスから、当該帯域内のみが検討対象かどうかについて明確化を求める意見が出されたが、今後議論することとした。範囲の記述については、次回会合でさらに議論することとした。
- 2 章のサービス毎の周波数割り当ての表について、Additional comments の欄について、韓国、中国から Region 3 の移動業務への割り当て状況を説明するために重要であるという意見が出されたのに対し、ロシアからは Radio Regulations と同様の記載することが提案され、Radio Regulations の周波数割り当て表および関連する脚注に置き換えたが、米国から RR の参照で十分であるとの意見が出され、韓国が検討して次回議論すべきであるとして、[]つきとして次回議論することとした。
- 3 章のパラメータ等については、第 1 回の DG 会合で、JTG のパラメータのみを記載することとしたが、エリクソンから IMT が被干渉の場合の検討に必要なパラメータで不足していると指摘があり、そのためのセクションを追加し、次回議論することとした。WP5D から JTG へ送ったりエゾン文書にあるパラメータのうち有益なものがあれば記載することも確認された。ロシアからの指摘で、Other mobile systems のパラメータに関して WP5A にリエゾン文書を送って提示を依頼することにした。TV 放送に関する DVB-T のスペクトルマスクについては、JTG5-6 の議長報告に記載がなかったため、GE06 Final Acts にあるものを記載し、WP6A へリエゾン文書を送って確認を求めることとした。
- 4 章の検討方法および伝搬モデルについては、ロシアから、IMT と TV 放送の項目を明確に分けるように章構成の変更が提案され、オフラインの作業で作業文書に反映された。

2) 関連 WP 等へのリエゾン文書について

- DG 議長から、前回会合で WP6A に対して送付したりエゾン文書では、TV 放送の保護についても検討対象としていたため、本会合で IMT の保護のみが検討対象であることが確認されたことを受けて再度リエゾンを送付することが提案された。
- ロシアからの指摘で、Other mobile systems のパラメータ提示を依頼するため、WP5A にもリエゾン文書を送付することにした。
- TV 放送に関する DVB-T のスペクトルマスクについて確認を求めるため、WP6A にもリエゾン文書を送付することにした。
- エリクソン、テリアソネラから、本リエゾン文書は、外部団体や、WP3K および WP3M(コピーを WP5B)に対しても送付すべきであるとの意見が出された。

- 最終的に、WP5A、WP5B、WP5C、WP6A、WP3J、3K、3M、外部団体に送付することとした。WP6A、WP5B、WP5C へのリエゾン以外は時間の都合で DG での議論が間に合わず、SWG Sharing Studies で議論された。

(6) 今後の課題:

我が国では当該周波数帯の一部を IMT に使用(及び使用予定)であるため、我が国にとって不利となる結論が導かれないよう、対処していく必要がある。

5. 3. 1. 2 DG Revision M.2039

(1) 議長: Mr. J.P.Millet(仏)

(2) 主要メンバー: 米、加、英、独、仏、露、スウェーデン、フィンランド、メキシコ、中、韓、NZ、他各国、フランス-テレコム、エリクソン、クアルコム、インテル、サムスン、WiMAX-フォーラム、アルカテル-ルーセント、モトローラ、テレコム-イタリア、日本代表団(丹野、小松、広池、西原、北)

(3) 入力文書: Doc.5D/800(TIA)、848(W-F)、853(3GPP)

(4) 出力文書: 5D/TEMP

448R1 レポート M.2039 改定案(Closing Plenary で承認、2010 年 11 月 SG5 に提出)

(5) 審議概要:

(5-1) 所掌と経緯

本 DG は IMT-2000 共用検討パラメータレポート M.2039 の改定に関わる作業を所掌とし、第 5 回会合において作業計画を作成され作業を開始した。前回第 8 回においては作業文書の更新と外部団体に向けた情報提供を依頼するリエゾン文書の作成を実施している。

本会合では外部団体に向けた情報提供を要求するリエゾン文書に対して 3 件の寄与文書(5D/800, 704, 741)が入力された。SWG Sharing Studies において SWG 議長の提案により、DG を設置しレポート M.2039 の改定作業を完了させることとなり、DG 議長には第 8 回会合に引き続き Millet 氏が選出された。

(5-2) 審議概要と主要結果

今会合では DG は 1 回のみ開催され、情報提供があった 5D/848、5D/853 の内容を反映させた差作業文書を DG 議長が準備し、DG 内の全ての時間を使ってレビューを実施した。

- タイトルから Preliminary の削除: 反対意見なく反映。
- 1 章(Introduction): フランス-テレコムのコメントを受けて勧告 M.1457 に加えて勧告 M.1580、M.1581I の記載を追加。DG 議長から重複しているとしてテキストの削除提案があったが、独のコメントをうけ Editor's Note のみを削除。
- 3 章(IMT-2000 Interfaces): 5D/853 の入力を反映し、表 2 を修正。中国より IMT 2000 CDMA TDD に対して HSPA、HSPA+ の追加の提案があり、米国より 3GPP からの提案はなかったため懸念があるとコメント、中国は事実として含まれていると反論し、クアルコムは支持、独からは Common name のため自由度があるが注意が必要、正式にはリエゾン文書が必要ではとコメント。討議の結果、一端追加しないこととなったが、中国より 4 章の表 3A、4A では Common Name が追加されているとの指摘を受けて最終的に追加。
- 4 章(Characteristics in the 1 800 MHz, 2 GHz, 2.3 GHz and 2.5 GHz frequency bands)
 - ・DG 議長より表 3A、4A に対して 5D/853 の E-UTRAN に関する入力を中心に反映したとコメントあり、露より E-UTRAN の記載に関して Editorial な修正および第 1 セクションの HSDPA の記載に対してもコメントあり、WiMAX-フォーラムからは新しい技術を記載すべきとコメントあり、DG 議長が該当テキストの削除を提案、削除した。
 - ・表 3A の議論: 中国より "Receiver reference sensitivity" に関して IMT-2000 CDMA TDD において E-UTRAN

の記載が抜けており、FDDと同じ値を使いたいと中国が提案、表 4A に記載があったため 3GPP からの入力漏れとの注釈を記載すべきと中国から提案があったが、独からは SG5 での承認プロセスでは中国提案の注釈では問題になると懸念を示し、単純に値をコピーしているという注釈を追加した。

・表 3B の議論: フランス-テレコムより OFDMA TDD WMAN の Bandwidth 8.75MHz に関して確認があり、Profile の 1 つと WiMAX-フォーラムより回答があり、フットノートを追加した。

・表 4A の議論: 中国より "Access Techniques" に関して修正が必要とコメントあり、フランス-テレコムより "2nd ACLR" の値について CDMA DS, CDMA TDD に対して修正が必要との発言により議論が発散、DG では該当箇所への修正を実施した。

・表 4B の議論: テレコム-イタリアより OFDMA TDD WMAN の "2nd ACLR" に関して 2.5 GHz 以外の周波数帯に適用可能ではとのコメントを受けてフットノートを追加した。

- 5 章(Characteristics in the bands below 1 GHz)

・表 6 の表記に関して中国から表題に CDMA TDD の追加の提案があり議論となったが、独より 3GPP では 1GHz 以下では TDD を現在規定していないとコメント、独のコメント受け修正は実施せず。その他フランス-テレコム、モロウのコメントを受けてテキストの修正を実施した。

- 6 章(Characteristics in the 3 400-3 600 MHz band): WiMAX-フォーラムより WP5A での検討に使った情報であるが WP5D での有益であると補足説明あり。サムソンより表 1a, 1b の表記とテキストの修正提案あり、DG 議長より 6.1 章としているが 1 テクノロジーのため 6 章でよいのではとのコメントがあったが、WiMAX-フォーラムからは今回のケースでは現在の章構成を維持したほうが良いとのコメントがあり修正は実施せず。

・表 1a(表 12 に修正)の議論: フランス-テレコムより "Max. tolerable interference power" の値として -45 dBm が高すぎるのではとのコメントがあり、フランス-テレコムからの追加の質問項目 "Thermal noise density" と合わせて確認すると WiMAX-フォーラムよりコメントあり。

・表 1b(表 13 に修正)の議論: WiMAX-フォーラムより "Channel bandwidth"、"Power Control" 部分への修正提案があり反映、中国より "Feeder loss" が端末側にあるとコメントがあり、WiMAX-フォーラムより関係者に確認するとコメントあった。注釈部分で中国のコメントにより 6 章は 3.4-3.6 GHz の章のため 3.6-4.2 GHz の記載の削除提案があり、WiMAX-フォーラムが了解したため削除。

- その他のエディトリアルなコメント実施、表番号、注釈番号の修正の必要があるとしながらも作業文書のレビューは完了、DG 議長より公開バージョンからのトラックチェンジ文書と DG で討議した作業文書の 2 つを準備予定であり、本 DG で修正した作業文書を Share Point にアップロードするコメントがあり DG を閉会した。

- SWG Sharing Study、WG SPEC、を経てレポート改定案は 5D/TEMP/448R1 として Closing Plenary で修正後承認、カウンセラでの修正点を反映したものが 2010 年 11 月の SG5 に提出することとなった。

(6) 今後の課題:

今回会でレポート M.2039 の改定作業は完了。次回改定時にはレポート内に IMT-Advanced のパラメータの追加に関して検討する必要がある。

5. 3. 1. 3 DG IMT MITIGATION

(1) 議長: John Lewis(サムソン)

(2) 主要メンバ: 米、加、英、独、仏、露、中、韓、ニュージーランド、ブラジル、スウェーデン、フィンランド、他各国、WiMAX フォーラム、インテル、クアルコム、エリクソン、SES World Skies、日本代表団(広池、丹野、新、藤井、北、西山、小松、他)、約 60 名程度

(3) 入力文書: Doc. 5D/793 (WP4A), 809 (米), 820(加), 833(日), 853(仏及び伊), 858(仏), 868(SES World

Skies)

(4) 出力文書:5D/TEMP

- 446 3.4-4.2GHz 帯の BWA と FSS の共用検討、3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告草案[IMT.MITIGATION]に関する WP5A のリエゾン文書
- 447 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告草案[IMT.MITIGATION]に関する WP4A へのリエゾン文書
- 445 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告暫定草案[IMT.MITIGATION]
- 449 SWG Sharing Studies に関する作業計画 (IMT.MITIGATION 部分)

(5) 審議概要:

(5-1) 所掌と経緯

第 6 回ドresden 会合において 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の干渉軽減技術に関する新勧告を作成することが合意され、第 7 回トリノ会合、第 8 回ダナン会合において日本、仏、韓、オランダ、WiMAX フォーラムらの入力文書に基づいて新勧告草案の作業文書を作成、更新すると共に、WP4A に作業状況を伝えるリエゾン文書を送付した。

DG 議長は前回同様 John Lewis 氏(サムソン)が選出され、今会合では入力文書に基づく作業文書の更新及び WP4A 及び WP5A へのリエゾン文書の審議が行われた。

(5-2) 審議概要と主要結果

DG 会合は全体で 3 回開催された。第 1 回会合で各入力文書の提案内容の是非を個別に議論し、DG 議長が議論を反映した作業文書を作成した。コグニティブ無線の扱いについては、多くが削除を提案する中で、維持を提案する国も日本の折衷案を支持する意見も無く、第 1 回 DG 会合であっさり削除が合意された。日本は、週末に DG 議長の作業文書に米国の明確化を求めるノートに対応したテキストを追加した作業文書を作成した。第 2 回会合では、日本が追加した作業文書に基づいてレビューを行い、修正内容の可否、適切な表現への変更等を審議した。主な議論は、第 2 章、2.1 節ビーコン、2.2 節データベースを残すか否かで、結論は出なかった。第 3 回会合では、第 2 回会合の結果の確認と未解決事項の再審議、文書のステータスの議論が行われた。WP4A 及び WP5A へのリエゾン文書については、第 3 回 DG 会合において DG 議長及びカナダが作成したリエゾン文書案を審議した。

第 1 回会合では、入力文書(5D/793 (WP 4A)、809 (米)、833 (日)、853 (仏及び伊)、858 (仏)、868 (SES World Skies))の個別のプレゼンは行わず、各提案内容の是非を確認していった。

スコープ:

- ・日本の提案した追加テキストに対し、露が全ての技術が国境での pfd 制限値の議論に使用できるわけでない、国内の IMT と FSS にしか適用できない技術も含まれるとし、2つの種類の干渉軽減技術があることを示すべきとコメント。当初、DG 議長、米、露らがオフラインでテキストを検討するとしたが、会議途中で露がテキスト案を DG 議長に渡し、スクリーンに表示してオンラインで修正し、米、仏、加、日らのコメントに基づき、pfd 制限値の議論に使用できるものと出来ないものがあることを示すテキストが作成された。
- ・日本の提案した無線通信規則(RR)の詳細テキストの削除は受け入れられた。

Considering 部:

- ・SES から無線通信規則(RR)の規定に関する幾つかを新たな recognizing に移動する提案があったが、日より移動に大きな問題は無いが、勧告 S.1856 に準じたものなので現状維持でよいと指摘し、現状維持とされた。
- ・日本より提案したコグニティブ無線(CRS)、動的周波数リース(DFL)等の将来技術に関する追加は、後述の ANNEX 2 章 Dynamic spectrum access techniques の議論により不要、不採用とされた。

Recommends 部:

- ・初めに米国及び SES の recommends1 の簡素化、仏の pfd 制限値の詳細な記述の追加が議論された。
- ・しかし、露が pfd 制限値の議論に使用できない技術があり、recommends を分割すべきとし、テキスト案を DG 議長に渡し、スクリーンに表示してオンラインで修正した。米、仏、加、日らのコメントに基づき、pfd 制限値の議論の際に使用すべきこと、使用できないものがあることの2つのテキストが作成された。
- ・加が「may」を「should」にすべきと提案にしたが、日・米のコメントで、両方に「」を付し、再度見直すこととなった。ニュージーランド、仏の提案により「主管庁は検討することを要請する。BT1386 参照」とのノートが付けられた。

Acronyms and abbreviations 部:

- ・日本が新たに追加した略語の章だが、米国が CRS, DFL の用語の追加に懸念を示し、CRS 等の扱いの議論の結果に基づいて見直すこととされた。

ANNEX 部:

- ・日本が冒頭部分に提案したテキスト(スコープで追加したものと同じもの)は、スコープの議論の結果に合わせて修正されることとなった。
- ・米国及び SES の 1 章冒頭のテキストを 1 章前に移動する提案は、異議無く合意された。
- ・日本の 1 章冒頭へのアンテナダウンチルディングが FSS 地球局の位置が未知でも適用できるとのテキスト、1.2.2 の WP4A のコメントに基づく FSS 側の負担のテキストは異議無く合意された。
- ・仏の 1.3 サイトシールドイングにおける S.F.1486 を参照した 30~60dB の具体的な効果を含むテキストへの差し替え、写真、図面の詳細を新 Attachment2 とする提案は、米国及び SES の確認のための質問の後、合意された。
- ・その他、米国の ANNEX 全体に渡るエディトリアルな修正は、DG 議長から読み易さを増すものと評価され、特段の異議無く合意された。
- ・コグニティブ無線(CRS)を含む 2 章の扱いについて、米国及び SES は 2 章全体の削除、仏&イタリアはコグニティブ無線(CRS)のみ削除、日本はコグニティブ無線(CRS)を Attachment2(新 Appendix)への移動し他の技術は維持、と提案が分かれていた。米国が、コグニティブ無線(CRS)等を含め効果が明らかになったら勧告を改訂すればよいとし現時点では 2 章全体を含めないことを主張し、特にコグニティブ無線(CRS)を残すべきとの意見、日本の折衷案を指示する意見もなく、2 章全体を削除することで合意された。

Attachment1:

- ・米国の幾つかパラメータ具体的な数値を求める提案、M.2039 との違いを指摘するノート、明確化を求めるノートについて、日本は具体的な数値、明確化のための具体的なテキストを提案する用意があるとし、DG 議長が改定作業文書を作成する際に提供する、とコメントした。

最後に、DG 議長より、本日の議論を踏まえた作業文書の改訂版を作成し、今日中にシェアホルダに入力するので、コメントがあれば直接あるいはメールでコメントして欲しいとした。

注: DG 議長が約束した作業文書は DG 開催後の午後にシャホルダに入力された。日本は、週末に米国(5D/809)で明確化が必要とノートした部分について、更なるテキストの追加・修正を行い、シェアホルダに入力すると共に、DG 議長に対し、第 2 回 DG 会合で日本修正案を審議してもらえよう要請した。

第 2 回会合では、第 1 回 DG 会合の議論を踏まえて修正提案をまとめた作業文書と、日本の主に米国の明確化を求める Editor's Notes に対応して追加・修正したものが説明され、日本の修正案を用いて、

ANNEX 部、Attachment 部、本文の順にレビューが行われた。

ANNEX:

- ・冒頭のテキストで、スコープと同じテキストの追加、日本が提案した明確化のテキストが合意された。

1 Possible mitigation techniques

- ・従来のテキストを冒頭に移動し、特になし

1.1 Sector disable

- ・SESより、5D/863で述べているが、計算値か実験値か分からないとコメントし、仏がM.2109から引用したがM.2109に何処が提案したか覚えていない、DG議長が後半は日本の実験に基づくものと回答。
- ・アルカテル・ルーセントの提案により、最初のテキストで「reduce」するのは「transmitter power」との追加が行われた。
- ・日本が提案したパラメータの明確化のテキストは、特にコメントなし。

1.2 Multi antenna techniques

1.2.1 Adaptive beam forming

- ・米国の提案していた5つの段落の削除に関しては、露からは3段落目のアンテナパターンのヌル化は削除すべき、インテルからは有効な情報で維持すべき、モトローラからは一部削除、等のコメントがあり、3段落目は削除したうえでマークを付して、明日再度レビューすることとした。
- ・SESが、5D/863で述べているが、主管庁へのガイダンスが何であるか分からないとコメントし、DG議長より主管庁はANNEXの技術を検討できるとされ、特段のアクションはなし。

1.2.2 Multiple input, multiple output (MIMO) technique

- ・米国テキストで指摘されたフィードバック方法については、日本から無線リンクを用いたと明確化し、特段のコメントなし。
- ・SESが主管庁へのガイダンスが何であるか分からないとコメントしたが、特段のアクションはなし。

1.3 Site shielding

- ・仏のテキストへの変更は、特にコメントなし
- ・SESが主管庁へのガイダンスが何であるか分からないとコメントしたが、特段のアクションはなし。

1.4 Antenna downtilting

- ・SESが主管庁へのガイダンスが何であるか分からないとコメントし、DG議長がテキスト追加を検討する必要があるとしたが、特にEditor's Note等のアクションはなし。

2 Dynamic spectrum access techniques

- ・米国がビーコン、データベースの実現、アップデートの実現は困難とし2, 2.1, 2.2の削除が希望だが、明日再度議論してもよいとしたが、シーメンスらが実現は可能、将来解決策が見つかるかもしれないと反対、ニュージーランド(Alan氏)は削除の理由が明確でないとし、2.1をハイライトして明日再検討することになった。

2.3 Use of Cognitive Radio System

- ・先週の議論により削除。

Attachment 1

- ・米国コメントによりEditor's Noteに対する日本の追加テキスト、修正は、全てノーコメント。

Attachment 2

- ・従来の動的周波数リース(DFL)を削除し、仏のサイトシールドングの詳細に置き換える提案はノーコメント。

ト。

本文:

タイトル:

- ・日本から、追加した「SG4 との連携に関する脚注」は、SG5 に承認(採択)を求める際のカバーシートに付すべきものと説明した。

Scope:

- ・先週の議論に基づきテキストにノーコメント。

Considering:

- ・変更なし。ノーコメント。

noting:

- ・先週の議論に従い、削除。ノーコメント。

Recommends:

- ・アルカテル・ルーセントの提案により、勧告すべき相手の主管庁は一つでないとし「an Administrations」を「Administrations」とし、また「is invited to consider」を単に「consider」との変更が合意された。
- ・露により、recommends2 の pfd 制限値の検討に使用される技術(AA,BB)は 1.1 と 1.4 であるとされた。

Acronyms and abbreviations:

- ・[DFL]は金曜の議論により削除し、米国の指摘により CRS も削除されることになった。

その他:LS from WP5D to WP5A

- ・5D/820 (加)に基づいてオフラインでカナダが作成した SG4 の BWA レポート(4/138)への修正案(suggested changes)に、ロシア提案により「バンドパスフィルタの追加は追加損失を招く」とのテキストを追加。
- ・日本より、BWA レポート案は SG4 で条件付採択されていると認識、WP5A へのリエゾンに BWA レポートへのエディトリアルな修正だけでなく技術的な内容も含む修正提案を出す目的を質問した。DG 議長より、WP5A は外部団体からのリエゾン返答などを参考に WP4A へのリエゾン文書を作成するが、同時に SG4 議長/カウンセラにも送付し、SG4 議長/カウンセラらが受け入れ可能か判断し、受け入れられない場合、5A/4A の合同会合などで解決を図る、これは S.1856(IMT-PFD)を作成した時の同様な手順、と回答された。
- ・SES より、IMT.MITIGATION の文書も送るのか質問され、DG 議長より 5D/820 のリエゾン文書案に沿って最新版を添付すると回答された。

最後に、DG 議長より文書のステータスについて確認され、私が今会合での完成が目標なので勧告案(DNR)に格上げすべきと提案し、ロシアは SES のコメントのようにこれらの技術をどのように適用するか明確でないと反対した。DG 議長は、[PRELIMINARY] DRAFT NEW RECOMMENDATION ITU R M.[IMT.MITIGATION]として、次回に再度議論するとした。

第 3 回会合では、第 2 回 DG 会合までの議論が反映された作業文書について、私の提案でクリーン版を用意したことが報告され、クリーン版の作業文書と WP4A 及び WP5A へのリエゾン文書が審議された。

作業文書(PDNR Mitigation IMT-FSS):

- ・タイトルの[PRELIMINARY](文書のステータス)に General comment を求めたがノーコメント。

・引き続き、セクション・バイ・セクションでレビューし、ANNEX の 1.4 まで、特段のコメントなし。

2 Dynamic spectrum access techniques

2.1 Usage of beacon (前回イエローマーカでハイライトした部分)

- ・米国が、昨日指摘したように 2.1 は FSS の負担を要し 2.2 は DB の更新が困難、WP4A のリエゾン文書でも完成度が低いと指摘し、ANNEX のイントロダクションのテキスト第 3 段落に FSS 局の位置が既知の場合のみ適用可能と記述、とし 2.1,2.2 の削除を提案した。SES も米国を支持。独(SWG 議長)は、イントロダクションのテキストを参照するのは適当でない、2.1、2.2 の技術は条件付で利用可能、ITU-データベースの FSS 地球局での使用は限られているがデータベースは存在すると維持を提案し、ノキア・シーメンスが支持。露は、いい技術だが実現が困難とコメント。米国は、実現不可能な技術を含むなら暫定勧告草案(PDNR)、勧告案(DNR)への格上げはできないとした。
- ・DG 議長は、①2.1、2.2 を削除して格上げ、②削除して格上げしない、③維持して格上げしない、の選択肢があるとし、独は削除か維持の二つの選択肢が望ましい、終了までに決めてほしいとした。WG-SEC 議長(Alan 氏)にも意見を求めたが、途中から参加したとし議論の状況を確認しただけだった。

Attachment 1:

- ・露が中心周波数 3.9GHz の理由を質問し、日本より実験局のため規則で 3.4-3.6GHz の周波数が使用できなかったこと、周波数が大きく違わないので評価結果は変わらないと回答し、独もイントロダクションに実験と書いていると指摘した。DG 議長の提案により、パラメータ表の下に「1つの国の実験の周波数であること、効果は変わらないことが期待される」とのノートを追加することになった。
- ・その他はノーコメント。

Attachment 2:

- ・参照文献を追加したことが報告され、ノーコメント。

文書のステータス:

- ・再度議論したが、結論が出ず、現状の[PLELIMINARY]を付けた状態で SWG に報告することになった。

WP5A へのリエゾン文書:

- ・DG 議長より、加のリエゾン文書案に、BWA レポートをレビューした結果を追加したことが報告され、特段の意見無く、SWG に諮るになった。

WP4A へのリエゾン文書:

- ・米国の指摘で、WP4A のリエゾン文書にも含まれていた 2.1、2.2 節の扱いについて、SWG での結果を反映させるノートを追加して SWG に諮られることになった。

(6) 今後の課題:

今会合では、当初予定していた新勧告草案の完成は達成できず、新勧告暫定草案として次回にキャリアフォワードされることになった。現在の新勧告暫定草案には我が国の技術的検討内容が反映されており、次回会合での新勧告案の完成にあたっては我が国の提案内容が適切に維持され、確実に完成できるよう、適切に対処することが必要である。

5. 3. 1. 4 DG ANTENNA ISOLATION

(1) 議長: S. Magnasson(エリクソン)

(2) 主要メンバー: 米、加、英、独、仏、露、スウェーデン、フィンランド、メキシコ、中、韓、NZ、他各国、フランス-テレコム、エリクソン、クアルコム、インテル、サムスン、WiMAX-フォーラム、アルカテル-ルーセント、モトローラ、テレコム-イタリア、

日本代表团(丹野、新、藤井、小松、広池、西原、北)

(3) 入力文書 : Doc.5D/827(中)、859(フランス-テレコム)、861(エリクソン)

(4) 出力文書 :5D/TEMP

438 IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート草案[ANT ISO]

439 IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート草案[ANT ISO]に関する WP1A 及び WP5A へのリエゾン文書(ITU-T SG5 へはコピー)

449 SWG Sharing Studies に関する作業計画(Antenna Isolation 部分)

(5) 審議概要 :

(5-1) 所掌と経緯

第 8 回ダナン会合において、中国、フランス-テレコム、エリクソンからの入力文書に基づき、新規レポートに向けた作業文書が更新され、本会合にキャリアフォワードしていた。

本 DG は、SWG-Sharing 第 1 回会合において、新レポートに向けた作業文書を更新することを目的に設立され、DG 議長には前回同様 Sverker Magnasson 氏(エリクソン)が選出された。

(5-2) 審議概要と主要結果

今会合では DG は全 3 回開催され、第 1 回 DG 会合では、入力文書のプレゼンと質疑と作業の方向性の確認、第 2 回 DG 会合では、入力文書に基づいて DG 議長が作成した作業文書の修正案のレビュー、第 3 回 DG 会合では次回 WP 会合での修正必要部分の明確化、リエゾン文書案の審議が行われた。

(第 1 回 DG)

- DG 議長より次回 WP5D 会合で完成させる必要があり作業文書の安定化が必要とコメントを受け、NZ からは本会合中での作業文書の新レポート草案への格上げ提案があった。
- 入力文書に関しては SWG Sharing Studies で簡単な紹介のみであったため、DG 内で再度提案者からの説明、質疑応答が行われ、特にエリクソンからの提案 5D/861 ベースでの作業文書の更新に反対意見がなかったため 5D/861 を中心に議論を行った。
- 5D/827(中国):Rural エリアの鉄塔での測定結果および 9 章(スプリアス、ブロッキング等の一般記載)に対してのテキストの入力提案であり、DG 議長からは測定結果と分析結果の比較があるか、測定結果に関する明確化と質問があり、明確化に関しては中国からランダムな測定結果と回答、分析結果の比較は会合期間中に準備することとなった。質疑応答を経て測定結果に関しては 7 章へ反映することとなり、9 章のテキストの提案は特段反対コメントがなかったため作業文書に反映することとなった。
- 5D/859(フランス-テレコム) :フランス-テレコムから 6 周波数依存に関連した入力の説明があり、DG 議長の有益な情報とのコメントを受けて作業文書へ反映することとなり、6.2 章、7 章への追加提案であったが、測定結果に関しては 8 章(Measurement Result)に追加したいと議長からの提案がありフランス-テレコムは了解した。
- 5D/861(エリクソン):作業文書の明確化、エディトリアルな修正、結論部分の提案しており、DG 第 2 回まで作業文書に反映させることとし、提案文書のレビューを実施した。

(DG 第 1 回 5D/861 の提案文書のレビュー)

- 1 章(Introduction): 人体への影響に関する記載に関して DG 議長のコメントを受け削除。
- 4 章(Typical antenna configuration cases): DG 議長よりフランス-テレコムに確認を求めてレポートでは空間的なアンテナアイソレーションを扱うとのテキスト追加。
- 5.1 章(Basic analytical methods): TIA および 3GPP からの参照部分であるがレポート内で特段利用されていないため削除してはどうかと DG 議長より提案があり、反対意見がなかったため削除。
- 5.1.1 章(Horizontal space isolation calculation): Reference 文書に関して中国語の文献となっているため、DG 議長より Friss Equation の文献を参照してはとの提案あり、インテルより ITU-R SM.337-6 で十分ではと

コメントがあったが、DG 議長よりすべてのケースをカバーできていないと回答。

- 5.1.3 章(Slant space isolation calculation): Slant ケースにおける制約条件がダイポールアンテナの式を利用しているためセクタアンテナを参照できる文献を調査すると DG 議長がコメント。
- 5.2 章(Multiple interfering antennas): 中国提案の複数アンテナ時の分析に関しての修正提案であり、DG 議長および中国がオフラインで議論することとなった。
- 6.1 章(Influence of objects near the antenna): エディトリアルな修正に提案に関しては中国が了解。明確化を求めた部分に関しても中国より回答あり修正。
- 6.2 章(Frequency dependency): フランス-テレコムからの入力 5D/859 を反映すると DG 議長よりコメントあり。
- 6.3 章(Antenna tilting): フランス-テレコムからのコメントを受け 4 章にテキストを反映するとし章を削除。
- 6.5 章(Polarization): フランス-テレコムからの ITU-R の放送側のドキュメントに参照できる文献があるとのコメントを受けてオフラインでテキストを作成することとなった。
- 10 章(summary and conclusion): DG 議長よりダナン会合での議論を基に作成したとコメントがあり、DG 内ではコメントがなかったため各メンバーに次回 DG までの間で確認して欲しいと依頼あり。

(第 2 回 DG)

- 第 1 回 DG およびオフラインでの議論を反映したドキュメント(Ver2)の紹介があり、ハイライトされた主要な変更点を議論したいとコメントがあり、議論を開始した。
- 目次部分として旧 7 章、8 章をマージし 7 章(Antenna Isolation Measurements)としたこと、中国からの入力の一部を本文から Annex C に移動したとコメントあり。
- 3 章(Definition) : Co-location の定義の追加はコメントなく反映、重複していた図 1 をマージ。
- 4.1 章(Antenna isolation of multi-band antennas): フランス-テレコムより intra-band、inter-band isolation 値 25 dB, 28 dB, に関して 3GPP 等の仕様を利用しているため 30 dB への変更提案があり、変更したがアルカテル-ルーセントより Feeder Loss について考慮しないのかと指摘あり。フランス-テレコムからは Feeder Loss 各 1dB 追加し 32dB とラフに計算できると回答。インテルよりここで記載する意味はないかとコメントがあり、フランス-テレコムからは最悪の場合として利用していると回答。アルカテル-ルーセントとの説明の削除提案のコメントを受けノートされた。
- 4.2 章(Antenna isolation of space separated antennas): CCSA の document が完成しているか DG 議長より質問があり、中国より完了しているとコメントがありフットノートを修正。
- 5.1.1 章(Horizontal space isolation calculation): Friis equation に関しては日本からオフラインでのコメントを反映し修正したと DG 議長よりコメントあり。サイドローブに関しては DG 第 1 回で議論したとおり、特定のケースで ITU-R SM. 337-6 を参照できると追加。表 1 の結果に関しては 60 dB のみだったが、30 dB, 45 dB を追加する予定があると DG 議長よりコメントあり。
- 5.1.2 章(Vertical space isolation calculation): 表 2, 図 6 に関しては第 3 回 DG までに確認すると DG 議長よりコメントあり。
- 5.1.3 章(Slant space isolation calculation): SM 337-6 を参照するテキストについてはインテルが準備するとコメントあり。
- 5.2 章(Multiple interfering antennas): オフラインディスカッションの結果を反映していたが、DG 議長よりさらなる明確化の質問がありテキストを修正。
- 6.1.1.2 章(A scenario of two antennas sharing a conductor mast) : DG 議長より中国とオフラインでテキストを議論したいとコメントがあり、中国が了解。
- 6.2 章(Frequency dependency): フランス-テレコムからの入力 5D/859 を反映、特段コメントなし。
- 6.3 章(旧 6.5 章 Polarization): CEPT Report および ITU-R BT.419-3 に関するテキストを追加、追加の提

案があるかと DG 議長よりコメントがあり中国からのエディトリアルなコメントを反映。

- 7.1 章(Measurement Methodology): フランス-テレコム より図 16 に関してより一般的な図に変更する提案あり。インテルより表 6 に関して修正が必要ありとコメントあり、次回 DG までに修正することとなった。
- 7.2 章(Measurement Results) : 参考文献にレポート M.2141(VHF 帯での Isolation)を追加したと DG 議長よりコメントあり。
- 7.2.1 章: WiMAX-フォーラムの測定結果、分析結果と比較で矛盾はないと DG 議長よりコメントあり。
- 7.2.2 章: フランス-テレコムの測定結果を追加。
- 7.2.3 章: 中国の測定結果、分析結果との比較で矛盾がないとしたテキストを追加。
- 7.2.4 章: フランス-テレコムの Inter-band に関わる測定結果、分析結果との比較を追加する必要があるとノート。
- 8 章(旧 9 章 Spurious, blocking and intermodulation effects): 中国提案のテキストを追加。

(第 3 回 DG)

- 第 2 回 DG およびオフラインでの議論を反映した作業文書のレビュー、リエゾン文書の作成を実施した。
- 5 章(Analytical methods for determining antenna isolation): 表 1(horizontal separation)に関して中国からの情報提供で 60 dB に追加して 30, 45 dB の値が追加され、特段コメントなく反映。表 2(Vertical separation), 3(Slant separation)に関して 30, 45 dB の値の追加を実施。
- 5.1.3 章 Slant-Isolation および、6.1.1.2 章 鉄塔がある場合の Isolation に関するテキストの追加を実施。
- 6.3 章 (Polarization)へのテキストの追加、CEPT Report を参照できるかとのノートがあったが特段コメントなくノートを削除、フランス-テレコムから明確化の提案を受けテキストを修正。
- 7.1 章(Measurement Methodology): 図 15 の一般化の修正を実施したが図内のテキストが小さすぎたため修正するとノート、表 6 のタイトルも特定バンドの表記から一般化する形に修正を実施。
- 7.2.2 章: フランス-テレコムの測定結果に分析結果との比較結果のテキストを追加。
- 7.2.3 章: 中国の測定結果と分析結果の比較の図を追加。
- Annex C の明確化のテキストの修正を実施

(9 章 Summary and Couclusion の議論)

- 9 章レポートサマリおよび結論部分に関してパラグラフごとにレビューを実施。中国、日本、サムスンのエディトリアルなコメントを修正。議長ノートとして結果のサマリ Table の削除提案があり、フランス-テレコムが支持し削除となった。

(次回 WP5D に向けた課題の明確化)

- 7.2.4 章: フランス-テレコムの測定結果と分析結果の比較が次回会合に必要なと議長よりコメントがあり、フランス-テレコムからは比較が難しいケースもあるとコメントあり。
- 参考文献に利用されていないものに関しての削除、10 章 用語のセクションに関して追加が必要と DG 議長よりコメントあり。

(作業計画のレビュー)

- 詳細ワークプランをレビューしたが変更はなく、次回会合でレポート完成させるスケジュール予定。

(PDNR への格上げの議論)

- DG では実施できないが、SWG Sharing Studies で提案することを議長よりコメントがあり、反対意見なく SWG で提案することとなった。

(リエゾン文書の討議)

- 前回会合に引き続き WP5A, WP1A, (ITU-T SG5)へ作業の更新を知らせるリエゾン文書を DG 議長が作成。レビューを実施したが、特段コメントなく SWG Sharing Studies で討議されることとなった。

以上で DG 内の議論を終了。

- SWG Sharing Studies、WG SPEC、を経て Closing Plenaryにおいて新レポート草案 TEMP/438 は次回会合へキャリーフォワード、リエゾン文書 TEMP/439 は承認された。

(6) 今後の課題:

レポートの完成時期が次回であり作業文書は新レポート草案に格上げされているが、レポート草案の内容の適切性を確認し、レポート完成に向けて適宜対処する必要がある。

5. 3. 2 SWG FREQUENCY ARRANGEMENTS

(1) 議長: Y. Zhu (中)、A. Sanders (米)

(2) 主要メンバ: 米、加、メキシコ、英、仏、独、露、スウェーデン、フィンランド、中、韓、印、ニュージーランド、クアルコム、エリクソン、ノキア、インテル、WiMAX-F、日本代表団(越後、橋本、小松、広池、北、西原、丹野、藤井)、全 100 名程度

(3) 入力文書: 550(独)、619(米)、622(加)、638(WiMAX-F)、643(UMTS-F)、708(加)、749(WiMAX-F)、754(ノキア等)、773(Nokia 等)、805(米)、815(加)、832(日)、835(印)、836(独)、839(英)、840(APT)、841(ニュージーランド)、845(ブラジル)、857(仏)、862(テレフォニカ)

※__はキャリーフォワード文書

(4) 出力文書: Doc. 5D/TEMP

407Rev.1 周波数アレンジメント勧告 M.1036 改訂に向けた作業文書

408 周波数アレンジメント勧告 M.1036 改訂に係る作業計画

411 SWG Frequency Arrangements 議長報告

(5) 審議概要:

(5-1) 所掌と経緯

WRC-07 において新たな周波数が IMT に特定されるとともに、既存 IMT-2000 帯域も IMT に特定し直されたことにより、周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 を改訂することが WP5D 第 1 回会合で合意され、勧告改訂の作業が実施されている。前回会合に引き続き、Y. Zhu 氏(中)及び A. Sanders 女史(米)が SWG 議長に任命された。

今回の WP5D 会合では、

①周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 改訂案作成のための作業文書の更新

②M.1036-3 改訂案作成の作業計画の見直し

についての議論が行われた。

(5-2) 体制

第 1 回 SWG 会合において、下表の通り1つのドラフティンググループを設置することと、DG 議長が承認された。また、議論が紛糾した Flexible FDD/TDD 関連については、関係者による少人数の非公式会合を行うこととした。

名称	議長	内容
DG 3.5 GHz	Y. Zhu 氏(中)	M.1036-3改訂作業に係る3.5GHz帯周波数アレンジメントの検討

(5-3) 審議概要と主要結果

①周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 改訂案作成のための作業文書の更新

第 1 回 SWG 会合では、入力文書の紹介が行われた後、作業の進め方および DG の設置について議論した。Flexible FDD/TDD 関連の議論が紛糾したため、2.5GHz 帯周波数アレンジメントの C3 および周波数アレンジメ

ントの Note の扱いを議論する少人数の非公式会合を行い、議論の收拾を図ることにした。また、3.5GHz 帯周波数アレンジメントに関する DG を設置することにした。第 1 回 SWG 会合における主な意見は下記の通り。

- ・ WG Spectrum Aspects 議長: Publish されたものはコンセンサスがなければ削除できないこと、2.5-2.6GHz については既にアクションをとっている主管庁もあることから、C3 については削除すべきではない。定義に関する Note 2 については、solely を flexibly にするのが一案。
- ・ 米国: Flexible FDD/TDD の定義は不要で、そのための DG 設置も不要。C3 は Publish されたものであり、一方で Note は寄与文書に基づいて提案されたものであり、扱いは異なる(Note は Note で議論すべき)。
- ・ 英国: C1、C2、C3 のバンドプランは変更すべきではない。
- ・ フランス: C3 と Note の議論はリンクしているので、両方の議論が必要。
- ・ ドイツ: C3 を残しても構わないが、C3 と Note の両方に同じ考え方(コンセンサスがなければ修正できない)を適用すべき。
- ・ カナダ: 勧告の役割から考えて、Flexible FDD/TDD は適当ではない。"Notwithstanding..."の Note は削除すべき。
- ・ ロシア: Flexible というワードを削除するのがシンプル。Flexible FDD/TDD はある国の状況を反映するために作られたのであって、他のバンドには不要であり、フランス、カナダ、ドイツに近い立場。
- ・ スウェーデン: ロシアの Flexible のワード削除を Way forward として支持。
- ・ 日本: 周波数アレンジメントの表をふくめて Published であることを指摘し、妥協案として、Flexible のワードを削除、Note 2 の solely は flexibly に、Note 3 には米国案を採用することを提案。

第 2 回 SWG 会合(最終)では、DG および非公式会合の結果が報告されるとともに、入力文書に基づいて SWG 議長がオフラインで更新した作業文書について議論を行った。

1) DG 3.5 GHz 報告

- ・ Zhu DG 議長より、5D/839(英)の 3.5GHz 帯周波数アレンジメントの提案については、CEPT で検討中であることから、次回会合へキャリアフォワードすることにしたことが報告された。

2) Flexible FDD/TDD 関連非公式会合報告

- ・ Funk 女史(独)より、非公式会合での合意事項(7.1 に「ガイドライン」のサブタイトルを追加、各 Annex の表に 7.1 を参照する Note を追加、C3 は変更なし、"Notwithstanding..."の Note を削除)について報告された。
- ・ なお、Flexible FDD/TDD の定義については、本会合の議論とは切り離して議論することを確認した。

3) 作業文書の更新

- ・ Sanders SWG 議長より、文書 5D/805、815、835、840、841、862 に基づく、議論不要と思われるエディトリアルな修正、および非公式会合で合意された修正を反映した作業文書について説明が行われた。主な修正点は以下の通り。

- ◇ 非公式会合での上記合意事項の反映。
- ◇ 698-960MHz 帯周波数アレンジメントについて、A6(FDD)、A7(TDD)を AWF Common View の周波数アレンジメントに置き換え。A8(FDD&TDD)を AWF の議論に基づいて Conventional duplex に変更。A5 は削除。関連する Note も修正。
- ◇ Flexible FDD/TDD の定義については、米国が現状の記述は一例でしかないこと、今回作業文書を安定化する必要があることから、定義の削除を再度主張し、カナダは次回会合で定義を提案することを主張した。Sanders SWG 議長から、Publish された文書には定義がないこともあり、本会合では作業文書から定義を削除し、次回会合で提案に基づいて議論することが提案され、合意した。

② M.1036-3 改訂案作成の作業計画の見直し

- ・ ニュージーランドから、M.1036-3 改訂については、次回 WP5D 第 10 回会合で完成予定であることから、第 10 回会合の作業計画においてリエゾン文書の検討は不要であるとの指摘があり、作業計画から削除した。

③ その他

- ・ ロシアから、各周波数帯の周波数アレンジメントの表について、一貫性を持たせる必要があるためエディトリアルな修正が必要であると指摘があり、次回会合の修正で考慮することにした。
- ・ Sanders SWG 議長から、次回会合にキャリアフォワードする文書は 5D/839(英)のみであることが確認された。

(6) 今後の課題:

- ・ 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改訂作業については、次回会合で完成予定であるため、勧告改訂案に記載されている日本の提案内容を含め、最終的な記載内容検討する必要がある。

5.3.2.1 DG 3.5GHz

(1) 議長: Y. Zhu(中)

(2) 主要メンバ: 仏、露、Sweden、Finland、米、加、中、韓、他各国、WiMAX-F、Alcatel-Lucent、Ericsson、Samsung、Qualcomm、日本代表団(越後、丹野、小松、藤井、北、西原)、全 50 名程度

(3) 入力文書: Doc.5D/805(米)、832(日)、839(英)

(4) 出力文書: なし

(5) 審議概要:

(5-1) 所掌と経緯

本 DG は M.1036-3 改訂における作業文書の 3.5GHz 帯周波数アレンジメント(Annex 6)の討議のため、SWG Frequency Arrangements の傘下に設置された。本会合には、3 件の寄与文書(5D/805、5D/832、5D/839)が入力された。DG 議長には、中国の Zhu 氏が選出された。

(5-2) 審議概要と主要結果

今会合では DG は 1 回開催され、入力文書に基づく作業文書の更新について討議した。主な議論は下記の通り。

- ・ 文書 5D/805(米)が提案する Note の削除は、エディトリアルなものであり、オフラインで作業することにした。
- ・ 文書 5D/832(日)については、周波数アレンジメント開発の原理原則についての議論であり、具体的な作業文書の修正は提案していないことを確認した。
- ・ 文書 5D/839(英)では、3.5GHz 帯周波数アレンジメントの図について、FDD の上下リンクの境界を示す矢印の意味が不明瞭であること、今回号で作業文書を安定化させる必要があることから、FDD と TDD の混在も含めてフレキシブルな周波数アレンジメントにすること、矢印の意図を説明する Note を削除することを提案したのに対して、ドイツから、まだ作業中であり、CEPT でも議論が行われていて、次回 WP5D 会合では周波数アレンジメントの案が入力される見込みであることから、本会合で修正を加えるのは避けるべきであるとの意見が出され、フランス、フィンランド、スウェーデン、ロシアからも同様の意見が出された。最終的に、英国が次回会合で議論することを了承した。
- ・ 米国から、周波数アレンジメントの例を示す図についても、次回会合では議論が必要であるとの指摘があり、DG 議長から次回最終化することが確認された。

5. 4 AH WORKPLAN

- (1) 議長: Hakan OHLSEN(スウェーデン)
- (2) 主要メンバ: S. Blust(WP5D 議長)、M. Grant(SWG-Radio Aspect 議長)、H. WANG(SWG-EVAL 議長)、N. P. Magnani(SWG--IMT SPECS 議長)、U. LÖWENSTEIN(SWG-IMT. UPDATE 議長)、J. Costa(加)、H. Menenga(AH Vocabulary 議長)、G. John(米)、P. W. Nurse(クワルコム)、R. Marks(IEEE)、E. EHRLICH(SWG-Handbook 議長)、C. Langtry(BR)、他、日本代表团(越後団長、佐藤副団長、小西、本多、石川、林、岩根、佐藤(一)、他)、合計約 30 名

(3) 入力文書:

5D/790 第 2 章(WP5D 議長): 前回会合の WP5D 議長報告第 2 章「WP5D の組織とワークプラン」

(4) 出力文書:

5D/TEMP/456: AH WORKPLAN の会合報告

5D/TEMP/457: WP5D 議長報告第 2 章「WP5D の組織とワークプラン」の最新化版

(5) 審議概要:

(5-1) 所掌と経緯

中長期的作業計画に従って活動する必要があるとされた経緯から、毎回会合ごとに Living Document として各作業グループ間の相互に関連ある作業計画等の調整作業を行うこと、また、WP5D 全体のワークプランを最新化して維持管理している。結果を WP5D 議長報告に第 2 章として添付している。

(5-2) 審議経過

(i) 概要

- ・ 今回会合では、AH-WORKPLAN は 1 回開催された。今回は、前回の議長報告以外に特に新たな寄書入力も無かった。
- ・ 詳細なワークプランやプロセスの検討は既に本アドホックの手を離れて、WG レベルで処理され具体的な作業が進んでいることから、AH-WORKPLAN 議長からはここで扱うワークプランはハイレベルなものであると改めてコメントし、ややもすると起こりがちな詳細な議論は牽制した。

(ii) 主要な審議項目と議論概要

- ・ AH 議長が 5D/790 第 2 章をソースとして作成したワークプランのアップデート版を基に、審議が行われた。
- ・ アタッチメント(以下 Att.と表記)2.5: WG と SWG 議長の一覧表に、SWG-IMT HANDBOOK と SWG-IMT UPDATE を今回追加した(前回はドラフティング・グループとしていたので入っていなかった)。
- ・ Att.2.6(会合スケジュール):
 - 第 10 回会合日程は、既に、前回会合でスウェーデンでの開催で検討を行なっていると報告されていたが、今の時点でも詳細な開催場所は未定であること、また、会期も 3/30~4/6 と次善案として 4/6~4/13 の 2 通りが検討されているとの報告があった。結論は 11 月末には出て、12 月頃のサーキュラーレターで明確にするとのアナウンスがあった。本会合後の最終結果は、下記の「(iv) その他」項に追加記載した。
 - 第 11 回会合は米国が予定され、[]付きを外した。尚、会期も前回アドホック時点から 7/7~14 と 1 日ずらされている(指摘のあった米国の独立記念日の混雑を避けた模様)。
- ・ Att.2.7(Work Programme Plan for IMT):
 - IMT(IMT-2000 と IMT-Advanced)に対象を拡張するために改定する件が議長から提案され、次の第 10 回会合でアップデートすることとした。現在、WG GEN で作業中の[IMT.UPDATE]から採用

するのが良いとコメントされ、次回に寄書を募って作業を進めることとした。尚、過去のアップデートも WG GEN でテキストが作成されて採用した経緯もあって、多分、WG GEN で作成されると思われる。

- Att.2.8(会合毎のオーバーオール成果と作業計画):
 - CRS の成果物の最終化は第 11 回から第 12 回(2011 年 10 月)に先延ばしする変更をした。
 - [IMT.RSPECS]については、第 10 回会合では finalize Recommendation IMT. RSPEC としていたが、前回決定のスケジュールを反映した修正意見が出て、finalize and preliminarily agree に変更した。また、その直後の High level view of work on IMT-Advanced の表は評価とコンセンサス形成のステップを対象に記述していたので、更に、第 10 回会合から第 12 回会合の行を追加した。
 - この表の第 10 回会合では Step8 を一応完了するとし()内に Step8 を記載することにした。
 - 特に、S. Blust が前回会合で決まった詳細スケジュールを再説明し、第 12 回会合で transposing も終わらせることと、それを完成版として SG5 に上げるとのスケジュールを念押しした。更に、この情報は 5D/790 Att.5.9 でタイムラインが記載されているとのノートを追記した。
- Att.2.9(詳細ワークプラン):
 - 詳細ワークプランは各 WG が決定した後、最終日の Closing Plenary で本ワークプランに一覧表として反映された。個々の詳細ワークプランは各 WG の TEMP 文書と会合報告によると注記した。
- Att.2.10(ノートすべきリエゾンと関連作業):
 - 2.10.7 章に Liaison from WP 4C (Source: Doc. 5D/794)、及び 2.10.8 章に Contribution from SG 4 (Source: Doc. 5D/797)を追記した。
- Att.2.11(Schedule for the IMT-Advanced process):
 - IMT.RSPECS の完了と SG5 後の RA のスケジュールについて話が出た。S. Blust は今年の SG5 へ議長報告として経過を報告し、次回の WP5D 第 10 回会合(2011 年 4 月では第 1 章と第 2 章が終わると報告するとした。
 - 表 1 で Step7 が今回完了したと変更を求められたが、WP5D 最終日のプレナリーで正式に決まった後、次回に変更し、今回は以前の文言をキープすることとした。
 - 図 1 のテキストのアップデートプロセスの事項で、G. John から米国提案のテキストが削除されていることに質問をおこなった。
 - N. P. Magnani からは、その案件は SWG IMT-SPECS で検討しており、次回会合で完成する予定であるとコメントがあった。次回にその結果を反映することとした。
 - RA で [IMT.RSPEC]が正式に承認されて初めて第 1 版が発効するので、その RA 後にアップデートプロセスが始まると認識された。
 - Table2 (Overview of Activities/Deliverables/Milestones for the finalization of the Initial Release of Recommendation ITU-R M.[IMT.RSPEC] and to conclude on Step 8)を追加した。また、その表 2 には IMT-ADV/24 を参照の旨のテキストを前文として追加した。
- Att.2.12: 既存および今後のレポートと勧告類の一覧表の見直しを行った。
 - 従来、余りチェックしたことが無かったが、今回、日本からの指摘を発端に見直された。
- Att.2.13 の WP5D に割り当てられた ITU-R の課題については特に意見も無く、従来通りの状態である。

(iii) その他:

- 次回 WP5D 第 10 回会合はスウェーデンから招聘が行われた。2011 年 1 月 6 日付けで開催案内のサーキュラーレター (5/LCCE/22) が発出され、2011 年 4 月 6 日~13 日の会期でスウェーデンの

Are で開催されることとなった。

(5-3) 審議結果

- ・ WP5D 議長報告第 2 章のワークプランが最新化された。

(6) 今後の課題:

- ・ 既に、WP5D での作業はアドホック・ワークプランの手を離れている。IMT-Advanced の無線インタフェース新勧告草案[IMT.SPECS]完成に向けたステップ管理は最終段階にあり、提案者と各 SDO の準備作業が順調に推移するように動向を注視する。また、スペクトラム関係作業の最終化を見守り、更にはワークショップや[IMT.UPDATE]等次期研究会期に向けた動向に注視し、次の会合に備える必要がある。

5. 5 AH VOCABULARY

- (1) 議長: Horst Mennenga (独)
- (2) 主要メンバー: IEEE、露、韓、日本代表団(桂川、木幡、北)、全 8 名
- (3) 入力文書: 5D/814(IEEE)
- (4) 出力文書: 5D/TEMP

423Rev1 外部団体への情報提供を求めるリエゾン文書(Closing Plenary で 3 通に分割)

424Rev1 勧告 M.1224 改定に向けた作業文書

426Rev1 AH VOCABULARY ミーティングレポート

(5) 審議概要:

本 AH は会合期間中 3 回開催され、第 1 回 AH は作業内容に関する議論、第 2 回 AH では作業文書の作成、第 3 回 AH ではリエゾン文書の作成を中心に討議を実施した。議題に関しては、第 1 回 AH は ADM/191 を、第 2、3 回 AH に関しては ADM/191R1 を基に討議を実施した。

入力文書の紹介として IEEE より 5D/814 の紹介と AH 議長が提示した 5D/679 Att.4.9、3GPP TR21.905 に関する確認があり、AH 議長より 5D/679 Att. 4.9 は略語がほとんどであるが勧告 M.1224 と同様に定義、及び略語を含めると回答、3GPP TR21.905 に関しては M.1457 の GCS の一部として提出されている情報と回答。

作業内容の討議を実施し、AH 議長は新レポートを作成、ITU ウェブ上のデータベースに反映させたいとコメントがあったが、露より既存文書は勧告であるのに対し、新たに作成するものがレポートであること、参照する文書が複数にまたがることに懸念があるとコメント、IEEE も支持、コメントを受けて AH 議長が WP5D 議長を含めたカウンセラと討議した結果、勧告 M.1224 に含まれる用語すべてを含めた形で勧告を改訂することが適当との結論となった。

作業文書の作成として既存勧告 M.1224 の 1 章(Introduction)、2 章(Scope)の改訂作業を中心にを行い作業文書(5D/TEMP/424R1)を作成、IEEE からの入力文書 5D/814、WP5D 第 7 回会合での SWG Sharing Studies からの内部リエゾン 5D/679 Att. 4.9 とともに次回会合にキャリアフォワードした。

外部団体に対する情報提供を求めるリエゾン文書として下記を含んだ内容の文書(5D/TEMP/423R1)を作成。

・IEEE: 情報入力に対する謝辞、勧告で含める内容の略語に対する追加の情報依頼

・3GPP: 勧告 M.1457-10 改訂案の GCS の一部として提出されている TR21.905 V9.4.0 に対する更新情報の確認

・その他の外部団体: 勧告 M.1224 改定に向けた情報提供依頼

(Closing Plenary での討議の結果、上記 3 つを分けた 3 通のリエゾン文書に分割することとなった)

作業計画に関しては新レポート作成から、既存勧告 M.1224 の改訂作業への修正を実施、作業完了時期に関しては WP5D 第 11 回会合から変更はなかった。

(6) 今後の課題:

勧告 M.1224 の改訂に向けて各 WG/SWG で作成中の勧告案、レポート案における新規用語や定義のリストアップ作業を検討する。

6. Region 3非公式会合

- (1) 議長: 佐藤(孝)(日本)
- (2) 出席メンバ: L.Wang、H.Wang、Y.Zhu、他 1 名(中国)、D.J.Kim、J.Song、E.Lim、他 1 名(韓国)、越後、木幡、広池(日本)、C.Perera、A.Jamieson(ニュージーランド)、N.Q.Mai、他 1 名(ベトナム)、E. Mohamad(マレーシア)、A.Chandra、B.Bhatia、他 2 名(インド)、J.Lewis (AWF)
- (3) 入力文書 :5D/865(Rev.1)(リージョン 3 ラポータ) Activities related to IMT-2000 and IMT-Advanced in Region 3

(4) 審議概要:

Region 3 参加国から、各国での IMT 等の移動通信システムの検討・導入状況並びに本 WP5D 会合における関心事項について情報を提供してもらい、それらについての質疑応答をする形で議事を進めた。また AWF の活動状況について情報を共有した。議事の状況は以下のとおりである。

①中国:

- 5月から10月の期間、上海万博において TD-LTE の実験システム (Show Case) を展示中である。2.3GHz 帯を使用している。また、チャイナモバイルは北京等幾つかの主要都市で技術トライアルを進めている。
- チャイナユニコムは WCDMA ネットワークを展開中であり 2010 年 9 月時点で約 1 千万加入である。
- 今後 10 年の将来 IMT の検討は CCSA の 3G Working Group で行っている。
- WP5D における周波数アレンジメントの検討結果を重視する。

②日本:

- 2G から 3G への移行が進行中であり、2G サービスは 2012 年 3 月に終了予定である。
- DC-HSDPA (E モバイル)、EVDO マルチキャリア (KDDI)、LTE (ドコモ) の各々の商用サービスが年内に開始される予定である。KDDI による LTE の商用導入時期は 2012~2013 年頃だろう。
- BWA は 2.5GHz 帯の 2 ブロックを割り当てている。BWA には MSS (N-STAR) が隣接しており、ガードバンドを設けている。
- 700/900MHz 帯の周波数割当て/技術的条件の検討は年内に終わる予定である。国際的なハーモナイズを考慮して検討している。

③韓国:

- KCC は今年 7 月に WiBro サービスのために 2.5GHz 帯のバンドプランをアナウンスした。2580-2620MHz が割り当てられ、このバンドは本年 12 月にライセンスされる予定である。KMI (Korea Mobile Internet) 社が免許申請するものと思われる。
- 既存の WiBro サービスは 2.3GHz を使用している。放送サービスと WiBro 間に 15MHz のガードバンドを設けている。
- TTA は本年 9 月に IMT-Advanced の国際ワークショップを開催した。

④ニュージーランド:

- 本年 9 月に NZ 政府は 2013 年 11 月までにデジタル TV への切り替えを完了することをアナウンスした。
- デジタル TV への切り替え後の 694MHz~806MHz は全てモバイル通信に使用される。4G での利用が見込まれる。コンサルテーションプロセスは来年開始される。
- モバイル TV サービスは 2 つのセルラーオペレータが提供中である。

⑤ベトナム:

- MIC は昨年 4 つの 3G ライセンスを交付し、現在 4 オペレータが 3G システムを運用中である。加入者は増

加中である。

- IMT 向けの新周波数として 2.3GHz 帯の TDD バンドと 2.5GHz 帯の TDD 及び FDD バンドを検討した。先週から 5 つのオペレータ(うち 3 つは既存オペレータ、2 つは新規参入オペレータ)が 2.5GHz 帯の FDD バンドを用いたトライアルを始めたところである。使用技術は LTE である。

⑥マレーシア:

- 周波数アレンジメントに関心がある。他国の状況を研究中である。

⑦インド:

- 2.1GHz 帯の 3G 向けスペクトラム(FDD)のオークションを実施し 5 月に終了した。また、2.3GHz 帯 2 ブロック、及び 2.5GHz 帯 1 ブロック(20MHz/ブロック)の BWA 向けスペクトラム(TDD)のオークションを 5 月から 6 月にかけて実施した。いずれもサービスエリアベースのオークションである。
- BWA としての技術はニュートラルで、Duplex のみ規定する。
- IMT アプリケーション用に今後、700MHz 帯、2.3~2.4GHz 帯(追加分)などをオークションする予定である。

⑧AWF:

- AWF は IMT のための 700MHz 帯におけるハーモナイズされた周波数アレンジメントについての共通見解を入力した。APT は ITU のセクタメンバであるため、直接 ITU に寄書入力できる。

また、Region 3 各国間での協力エリアを模索・特定する目的で意見交換を行った。出席メンバからの主な意見は以下の通りであった。

- APT 各国間で周波数管理プログラムについての情報・意見交換や、専門家の交換などを行うことは如何か？(インド)
- 上記提案は APT のマネジメント委員会に提案して議論すべき内容かもしれない。(ニュージーランド)
- 上記提案に関し会議終了後にサマリーを作成して出席者に回覧するので、各国は持ち帰って慎重に検討して欲しい。(議長)

7. 今後の予定等

7. 1 WP5D 及び関連会合の今後の開催予定

WP5D 及び関連の会合の今後の予定は以下のとおりである。

[WP5D の開催予定]

・第 10 回会合	スウェーデン(オーレ)	2011/4/6 ~13
・第 11 回会合	米国(ハワイ)	2011/7/7 ~14
・第 12 回会合	未定	2011/10/12 ~19(仮)

[関連する会合の開催予定]

・WP5A	スイス(ジュネーブ)	2010/11/8 ~17
・SG5	スイス(ジュネーブ)	2010/11/22、23
・WP5A	スイス(ジュネーブ)	2011/6/13 ~22
・SG5	スイス(ジュネーブ)	2011/11/21、22

7. 2 次会合に向けての日本のアクション事項

7. 2. 1 WG GENERAL ASPECTS 関係

- ・ 特になし

7. 2. 2 WG TECHNOLOGY ASPECTS 関係

- ・ IMT-2000 の無線インタフェース勧告 M.1457 の第 11 版に向けての改訂に関しては、日本として特に必要事項はない。
- ・ IMT-Advanced の詳細無線インタフェース勧告 M.[IMT.RSPEC]に関しては、M.[IMT.RSPEC]の最終化に向けて必要であれば次回寄書入力を行う。
- ・ 又、ARIB/TTC は LTE-Advanced の GCS Proponent の一員として他の 3GPP OP と共同して Liaison に記載に則った必要入力を期限までに入力する必要がある。
- ・ WirelessMAN-Advanced の Transposing Organization に関しては、日本として ARIB が加わることを明確化し、GCS Proponent である IEEE に Certification B を要請する必要がある。
- ・ M.[IMT.RSPEC]の Update 手順に関しては、その内容を精査し、必要であれば次回寄書入力を行う。
- ・ 不要輻射勧告 M.1580/M.1581 に関しては、日本として特に特に必要事項はない。
- ・ M.[IMT.CRS]に関しては、Inter-Operator scenario 等に関して国内で対応を協議し、必要であれば寄書入力を検討する。
- ・ 今回改訂の提案が出た Global Circulation 勧告に関しては、IMT-Advancedに関する文書の内、詳細無線インタフェース勧告(M.[IMT.RSPEC])以外の文書(不要輻射、Global Circulation, QoS 等)について、IMT-2000 と同一文書内で纏めるか別文書とするかを国内での検討し必要であれば寄書入力する。

7. 2. 3 WG SPECTRUM ASPECTS 関係

- ・ 周波数アレンジメント勧告 M.1036-3 の改訂、及び 698-960MHz 帯の周波数アレンジメント策定に関わる作業文書[IMT.700]については、我が国では 3400-3600MHz 帯、及び 698-806MHz 帯の一部を IMT に使用予定であることを踏まえ、以下の点を考慮して、適切に対処していく必要がある。
 - (1) 勧告 M.1036-3 の改訂作業については、次回会合で完成予定であるため、勧告改訂案に記載されている日

本の提案内容を含め、最終的な記載内容を検討する必要がある。

(2) 作業文書[IMT.700]は、勧告 M.1036-3 の改訂案の完成時期である次回会合に取り扱いを議論することになるため、我が国における 700/900MHz 帯の利用に関わる国内の検討状況に応じて、対応を検討する必要がある。

・ 共用検討関連では、以下の点を考慮して、我が国にとって不利となる結論が導かれないよう、適切に対処していく必要がある。

(1) 3.4-3.6GHz 帯の IMT と FSS の共用改善技術に関する新勧告案 M.[IMT Mitigation]の作成に当たっては、我が国の技術的検討内容が新勧告暫定草案に反映されていることを踏まえ、次回会合で新勧告案が完成されるよう対処していく必要がある。

(2) IMT を含む陸上移動業務の基地局併設等の共用に関する新レポート案 M.[ANT ISO]の作成の作業は、新レポート暫定草案の内容の適切性の確認を行うとともに、我が国にとって不利となる結論が導かれないよう、対処していく必要がある。

(3) UHF 帯における共用検討は、作業文書の内容の適切性の確認を行うとともに、我が国では当該周波数帯の一部を IMT に使用(及び使用予定)であることを踏まえ、我が国にとって不利となる結論が導かれないよう、対処していく必要がある。

付属資料1 参加国・機関と寄与文書数

参加国	参加者数	寄与文書数
アフガニスタン		
オーストリア	1	
バングラディッシュ		
ブータン		
ブラジル	3	3
カナダ	4	7
コロンビア		
中国	37	5(再掲 3)
フィンランド		
フランス	7	5(再掲 3)
ドイツ	6	2
インド	8	1
インドネシア	4	
イラン		
イタリア	2	2
日本	22	9
ケニア	1	
韓国	13	4(再掲 3)
マレーシア	1	
メキシコ		
モロッコ		
オランダ		
ニュージーランド	2	1
オマーン		
ロシア	3	
サウジアラビア	2	
スウェーデン	1	
タイ	1	
ウガンダ	1	
スイス		
英国	2	2
米国	10	7
ベネズエラ	2	
ベトナム	3	
小計	136	39

参加機関	参加者数	寄与文書数
Asia Satellite Telecommunications	1	
China Mobile	5	2
China Unicom	8(再掲 1)	
テレコムイタリア	2(再掲 2)	
KDDI	1	
NTT ドコモ	1	
SES New Skies	1	
Telefónica S.A.	1	1
TeliaSonera AB	3	1
AT&T	1	
Free TV Australia	1	1
Research in Motion	1	
アルカテル・ルーセント上海ベル	5	
大唐テレコム	9	1
Huawei	1(再掲 1)	1(再掲 1)
ZTE	2	1(再掲 1)
ノキア	3	
Nokia Siemens Networks GmbH & Co. KG	1	
France Télécom Orange		1
Agilent Technologies Inc.		
アルカテル・ルーセント(フランス)	1(再掲 1)	
サムスン	4	
Telefon AB –LM Ericsson	5	1
エリクソン		
Access Partnership Limited		
アルカテル・ルーセント(米国)	1	
インテル(米国)	3	
モトローラ(米国)	1	
Qualcomm	4	
SES WORLD SKIES		1
European Communication Office	1	
ETSI		1
IEEE	1(再掲 1)	2
Asia-Pacific Telecommunity (APT)		1
WiMAX Forum	3(再掲 1)	4
Radiocommunication Bureau	1	
Telecommunication Development Bureau		
ATIS		
3G Americas		
BR Study Group Department		
Chairman, ITU-T SG 13		
Chairman, SG 5		2
Chairmen, SGs 5 and 6		
Chairman, WP 5D		1
Chairman and Vice-Chairman WP 5D		1
Director, BR		5
ITU-D SG2		
ITU-R SG4		1
ITU-R SG5		

参加機関	参加者数	寄与文書数
ITU-T SG2		
ITU-T SG5		
ITU-T SG9		1
ITU-T SG13		
ITU-T SG15		3
ITU-T SG16		1
ITU-T SG17 Management		1
ITU-T Q.13/13 Rapporteur Group		1
Region 1(CEPT) Rapporteur		1
Region 2 Rapporteur		1
Region 3 Rapporteur		1
CITEL Rapporteur		1
WP1A		1
WP4A		1
WP4C		1
WP1B		
WP3M		
WP5A		
WP5B		
WP5C		
WP6A		
JTG5-6		
Convener of Correspondence Group		
Alcatel-Lucent France, ZTE Corporation, Telefónica S.A., Telecom Italia S.p.A., Telefon AB-LM Ericsson, Samsung Electronics Co. Ltd., NTT DoCoMo Inc., NEC Corporation, Hitachi Ltd., DaTang Telecom. Tech. & Ind. Holding Co. Ltd., AT&T Inc., Motorola Inc., Alcatel-Lucent Shanghai Bell, Alcatel-Lucent USA Inc.		1
Alcatel-Lucent France, ZTE Corporation, Telefónica S.A., Telecom Italia S.p.A., Qualcomm Inc., Telefon AB-LM Ericsson, Samsung Electronics Co. Ltd., NTT DoCoMo Inc., NEC Corporation, Hitachi Ltd., DaTang Telecom. Tech. & Ind. Holding Co. Ltd., AT&T Inc., Motorola Inc., Alcatel-Lucent Shanghai Bell, Alcatel-Lucent USA Inc.		1
小計	72	43
合計	208	82

付属資料2 ITU-R WP5D第9回会合日本代表团名簿

区分	氏名	会社名・団体名	所属・役職
団長	越後 和徳	総務省	総合通信基盤局 電波部 移動通信課 新世代移動通信システム推進室長
副団長	佐藤 孝平	(社)電波産業会	常務理事
構成員	北 豊	イー・モバイル(株)	技術本部 設備基盤部 無線企画 G
構成員	西原 剛	イー・モバイル(株)	技術本部 RAN 技術部 RAN 技術 G
構成員	橋本 明	(株)NTTドコモ	無線標準化推進室 室長
構成員	丹野 元博	(株)NTTドコモ	電波部 電波企画担当課長
構成員	新 博行	(株)NTTドコモ	無線アクセス開発部 無線方式担当 担当課長
構成員	田中 晋也	(株)NTTドコモ	研究開発推進部 国際標準化担当 担当課長
構成員	藤井 啓正	(株)NTTドコモ	先進技術研究所
構成員	菅田 明則	KDDI(株)	技術渉外室 電波部 担当部長
構成員	小西 聡	(株)KDDI 研究所	無線通信方式グループ グループリーダー
構成員	桂川 浩	シャープ(株)	研究開発本部 先端映像・通信技術研究所 主任研究員
構成員	小松 裕	ソフトバンクモバイル (株)	モバイルネットワーク本部 ネットワーク統括部 電波部 課長
構成員	本多 美雄	日本エリクソン(株)	技術本部 標準化・レギュレーション担当部長
構成員	鬼頭 英二	日本電気(株)	キャリアネットワーク企画本部 エグゼクティブエキスパート
構成員	吉井 勇	パナソニック(株)	東京R&Dセンター 次世代モバイル開発センター 主任技師
構成員	石川 禎典	(株)日立製作所	通信ネットワーク事業部 主任技師
構成員	林 律雄	富士通(株)	事業管理統括部 標準化推進部
構成員	佐藤 一美	三菱電機(株)	通信システム事業本部通信システムエンジニアリングセンター 戦略 事業推進グループ 担当部長
構成員	岩根 靖	三菱電機(株)	通信システム事業本部通信システムエンジニアリングセンター 戦略 事業推進グループ 専任
構成員	広池 彰	(社)電波産業会	研究開発本部 移動通信グループ 担当部長
構成員	木幡 祐一	(社)電波産業会	研究開発本部 移動通信グループ 主任研究員

付属資料3 日本寄書等の審議結果

項 目	日本寄書等	内 容	結 果
WG-GEN	Doc. 5D/828 (J-1)	<p>WP5D の第 8 回会合において 2020 年位までの将来の「グローバル広帯域無線サービス及びIMT市場についての分析及び評価」に係る新勧告/レポート案へ向けた作業文書が作成され、これを土台として、改訂していくこととされた。</p> <p>また、日中韓で当該改訂作業を進めるために、章構成の改訂及び改訂指針が合意され、今回会合に寄与文書として入力されることになった。</p> <p>このことを受けて、前回会合に日本が入力した寄与文書の内容を改訂章構成に沿って見直しを行い、また、追加の情報を入力して作業文書に含め、作業文書の内容の拡充へ向けることを提案した。</p> <p>議論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当初予定していたワークショップの開催が来年になったことより、そこからの情報が得られないため、第9回、第10回会合における議論の深化が必要。 ・ 作業文書の完成が 2011 年の秋と作業期間が短いことから、検討対象を 2006 年から 2010 年までの間のサービスやトラヒックに係り、将来の IMT に関連するトピックを抽出し、それを踏まえ、トラヒックの増加への対応の必要性を記述する。 ・ 将来のグローバル広帯域無線サービス及び IMT システム、ならびにその市場の想定に資するよう、作業文書の目次構成を「移動通信サービスの現状に関すること」及び「トラヒック予測に関すること」の大きな構成に改訂することを提案する。 <p>提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前述の方針に沿って、前回日本から入力したものを提案する章構成に沿って分類し直す。 ・ 将来予測に関係する、日本の行政の見解、事業者からの報告を追記。 ・ 日本のデータトラヒックの推移情報を追記。 ・ 前回入力情報のうち、今回提案の検討対象の次の段階の議論、例えば、所要周波数帯幅の検討で考慮すべき要素等については、付録として纏め、将来適宜活用できるようにする。 	<p>本寄与文書で提案した日本からの入力情報及び提案が、今回の改訂作業文書 [IMT.UPDATE] に全面的に採用された。</p>

項目	日本寄書等	内容	結果
WG-TECH	Doc. 5D/829 (J-2)	本寄与文書では、IMT システムに関するコグニティブ無線技術 (CRS) を取りまとめる ITU-R 新報告草案 [IMT.CRS] の作業文書に対して、既存 IMT システムが使用する周波数をコグニティブ無線技術を備えた IMT システムが共用した場合の、通信容量評価の理論解析結果、及び数値例に関する内容の追加を提案した。具体的には、現作業文書の 7 章「Performance of IMT systems with CRS capability」に、解析結果及び数値例の概要についての記載を追加し、Annex にその詳細を記載することを提案した。	[IMT.CRS] について各国から入力された寄与文書と共に議論が行なわれ、日本からの追加提案内容は、作業文書に反映させることとなったが、記載内容がケーススタディであることから、本文 7 節への記載は行わず全てを Annex に記載する方向で検討することとなった。
WG-TECH	Doc. 5D/830 (J-3)	本寄与文書は IMT-Advanced 開発プロセスの Step 7 (評価結果の考察、合意形成、及び無線インタフェース決定) について <ul style="list-style-type: none"> - 日本 (IMT-ADV/6)、3GPP (IMT-ADV/8)、中国 (IMT-ADV/9) の提案技術は、3GPP 技術として収斂させるべき - IEEE (IMT-ADV/4)、日本 (IMT-ADV/5)、TTA (IMT-ADV/7) の提案技術は、IEEE 技術として収斂させるべき - 3GPP 技術、及び IEEE 技術を IMT-Advanced 開発プロセスの標準化作業で受け入れることとし、Step 8 の作業へ進める との結論で取りまとめる提案を行った。	本寄与文書は SWG Coordination の議論において、Step 7 の結論を取りまとめるための基本となる文書として取り扱われた。議論の結果、左記の日本からの提案趣旨の通りで Step 7 の結論が文書 TEMP/404 に取りまとめられ、IMT-Advanced 開発プロセスの議論促進に貢献した。
WG-TECH	Doc. 5D/831 (J-4)	本寄与文書は、IMT-Advanced 詳細無線インタフェース勧告 M.[IMT.RSPEC] に関して、 ① 勧告と GCS との関係の記述する文章の追加を提案 ② 勧告の総ページ数削減のための詳細 Spec 部の構成候補案を紹介したものである。	SWG-IMT SPECIFICATIONS において討議され、 ① 勧告と GCS との関係の記述する文章は提案した Scope 部ではなく、各々の詳細無線インタフェースを記述する Annex 部に盛り込むことを合意。 ② 総ページ数削減に関しては新勧告の初版においては IMT-2000 の詳細無線インタフェース勧告と同様な詳細 Spec 部構成のとしたほうが RA での理解を得やすいとの意見が多数を占めたため、第 2 版以降で再度検討することとなった。 以上をもって作業文書を TEMP/428 に更新し、次回会合に Carry Forward した。

項目	日本寄書等	内容	結果
WG-SPEC	Doc. 5D/832 (J-5)	本寄与文書は、M.1036-3 勧告改訂の作業文書の Annex 6(3400-3600MHz 帯の周波数アレンジメント)に、WP5D 第 8 回会合で Editor's note として追加された周波数アレンジメント作成における原則について、日本の意見を述べ、当該原則を満たすように Annex 6 の周波数アレンジメントの作成を行うべきと提案するものである。	本寄与文書は SWG Frequency Arrangements および DG 3.5 GHz で討議され、3.5GHz 帯周波数アレンジメント作成に関する日本の考え方としてノートされた。
WG-SPEC	Doc. 5D/833 (J-6)	本寄与文書は、第 9 回会合で完成度の高い文書の作成を目的とし、WP4A からのリエゾン文書に対する見解を述べ、[] やエディターズ・ノートが付けられた箇所を中心に、作業文書への修正提案を行うものである。 具体的には、本勧告の目的を明確化するためのスコープ、recommends 部へのテキスト、コグニティブ無線の扱いに対する解決案 (Appendix に移動) 等を提案した。	DG 会合におけるベース文書として扱われ、スコープへの追加・削除を含む大部分が作業文書に反映された。また、米国寄与文書(5D/809)で指摘された現作業文書で明確化を求めるノートに対しても現地で追加テキストを提案し、作業文書に繁栄された。コグニティブ無線の扱いに対する解決案は、記述を残したいとする意見もなく、大勢に従って削除された。 結果として、日本の提案内容を含む作業文書が新勧告暫定草案に格上げされ、次回に完成予定とされた。
WG-TECH	Doc. 5D/822 (J-7) 日中韓共同寄書	IMT-Advanced 開発プロセスを予定通り進めるために、ステップ6、7を会合会期の前半で早期に終了することを提案する。 具体的な作業としては以下を提案する。 - 評価レポートをまとめたステップ6のワーキング文書(5D/790 Chapter 5.26)を完成させる。 - WP5D としての評価サマリーを技術提案毎に作成する。 - ステップ7のコンセンサス・ビルディングを行い、これを終了する。 - ステップ7として、勧告化をする RIT/SRIT を決定する。 - WP5D としての評価サマリー等を技術提案者に知らせるリエゾンを作成する。 - IMT-Advanced 無線インタフェース技術の決定を ITU メンバーに通知する、回章 5/LCCE/2 の補遺を作成する。 なお本寄与文書は、日中韓の共同寄与文書である。 Annex1 に外部組織へのリエゾン案、および Annex2 に回章 5/LCCE/2 の補遺案を提案する。	本寄与文書の提案に従って、IMT-Advanced 開発プロセスの活動が行われ、プロセスのコーディネーション、および評価活動に貢献した。 具体的には、ステップ6 および7 終了を確認、その結果を外部組織に知らせるリエゾン、回章 5/LCCE/2 の補遺を作成した。

項 目	日本寄書等	内 容	結 果
WG-TECH	Doc. 5D/834 (J-8) 日中韓共同 寄書	<p>本寄与文書は、第9回 WP5D 会合において、IMT-Advanced 開発プロセスの Step 4～7 技術的な検討状況や、その検討により決定された IMT-Advanced 無線インタフェース技術の特性をまとめた新報告案 ITU-R M.[IMT.RADIO]を完成させるため、日中韓の共同で修正提案を行ったものである。具体的な修正提案として、タイトルの修正、Editor's Note に対するテキスト、Step 7 のまとめ方のテキスト等の提案を行った。</p>	<p>本寄与文書で提案した修正テキストは、新報告案 ITU-R M.[IMT.RADIO]の内容に概ね反映されるとともに、提案通り、当該報告案の作成作業を第9回 WP5D 会合において予定通り完了させることができた。結果として、LTE-Advanced 及び Wireless MAN-Advanced の 2 技術を IMT-Advanced 無線インタフェースとして決定するとの WP5D の結論を得ることができ、IMT-Advanced 開発プロセスの議論促進に貢献した。</p> <p>本報告案は 11 月に開催される、SG5 会合において最終承認を得る予定である。</p>
WG-GEN	Doc. 5D/837 (J-9) 日中韓共同 寄書	<p>WP5D の第8回会合において 2020 年位までの将来の「グローバル広帯域無線サービス及び IMT 市場についての分析及び評価」に関する新勧告/レポート案の作業文書が作成され、今後、改訂していくことが合意され、日中韓共同寄与文書として入力することとした。</p> <p><u>議論</u></p> <p>しかし、改訂に向けた指針や方向性については各国の合意が得られていないと想定され、WP5D での議論が発散し、本文書の作成期限内に完了しない恐れがある。</p> <p>このような懸案を踏まえ、9月8日～9日に開催された第26回 CJK IMT WG 会合にて、日中韓三ヶ国で、本文書の改訂方針と章構成に関する共同提案を行うことを合意した。</p> <p><u>提案</u></p> <p>[IMT.UPDATE]改訂に向けた指針として、以下の内容を提案。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [IMT.UPDATE]の完成時期を第 12 回会合とし、これを厳守する。 ・ このため、[IMT.UPDATE]では、サービスとトラヒックのみに着目し、所要周波数帯域幅については検討の対象外とする。 <p>そして具体的な章構成の改訂を提案。</p>	<p>本寄与文書で提案した、改訂章構成が採用され、改訂へ向けた指針についても承認され、この方向で今後の作業文書の改訂が進められることになった。</p>

付屬資料4 入力文書一覽

Doc.	TITLE	Source
5D/550	Revisions to "Working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3"	carried forward
5D/619	Comments/Revisions to "Working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3"	carried forward
5D/622	Progression of the working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3 - Frequency arrangements for implementation of the terrestrial component of International Mobile Telecommunications (IMT) in the bands identified for IMT in the Radio Regulations (RR)	carried forward
5D/638	Revision to Recommendation ITU-R M.1036-3	carried forward
5D/643	Change proposals to Recommendation ITU-R M.1036 in order to include clear Recommendations on frequency arrangements	carried forward
5D/708	Progression of the working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3 - Frequency arrangements for implementation of the terrestrial component of International Mobile Telecommunications (IMT) in the bands identified for IMT in the Radio Regulations (RRs)	carried forward
5D/749	Input on revision to Recommendation ITU-R M.1036-3	carried forward
5D/754	Paired frequency and unpaired frequency access schemes for IMT networks with regard to spectrum arrangements in Recommendation ITU-R M.1036	carried forward
5D/773	Proposals related to band plan flexibility in Recommendation ITU-R M.1036-3	carried forward
5D/679 Att. 5.1	Report of the seventh meeting of Working Party 5D (Turin, 17-24 February 2010) Note: Chapter 2 is revised	carried forward
5D/681	Naming of IEEE's IMT-Advanced proposal	carried forward
5D/695	Liaison statement to ITU-T Study Group 5 (copy to ITU-T Study Group 9 and ITU-R Working Party 5D) - Proposed new Question in ITU-T Study Group 9	carried forward
5D/697	Liaison statement to ITU-R Working Parties 1A and 5D, ITU-T JCA-NID, ITU-T Study Group 16, ITU T Study Group 17 and External Organizations on "Mobile wireless access systems providing telecommunications for a large number of ubiquitous sensors and/or actuators scattered over wide areas in the land mobile service"	carried forward
5D/786	Liaison statement - Consent of Recommendation ITU-T G.9971 "Requirements of transport functions in IP home networks"	ITU-T SG 15
5D/787	Liaison statement - Response on G.9971 by ITU-R Working Party 5D	ITU-T SG 15
5D/788	Liaison statement - New versions of the access network transport (ANT) standardization overview and work plan	ITU-T SG 15
5D/789	Final list of participants	Director, BR
5D/790	Report of the eighth meeting of Working Party 5D (Da Nang, 9-16 June 2010)	Chairman, WP 5D
5D/791	Additional guidelines for updating the Recommendations listed in Document 5B/465 (copied to Working Parties 5A, 5C and 5D for information)	Chairman, SG 5

5D/792	Liaison statement to Study Groups 4, 5, 6 and 7 and interested Working Parties - Protection of radiocommunication services using digital modulation against interference caused by radiation from industrial, scientific and medical (ISM) equipment	WP 1A
5D/793	Liaison statement to Working Party 5D - Techniques designed to increase the potential for sharing between IMT systems and FSS networks in the 3.4-3.6 GHz band	WP 4A
5D/794	Liaison statement to Working Party 5D - Progress of studies related to the satellite radio interface of IMT-Advanced	WP 4C
5D/795	Reply liaison statement to SG 5 and ITU-R WP 5D on a possible new Question on IMT impact	ITU-T SG 9
5D/796	Reply liaison statement to ITU-R Working Party 5A on performance and availability requirements and objectives for wireless access systems	ITU-T SG 16
5D/797	Note from the Chairman of Study Group 4 to the Chairmen of Study Group 5 and Working Party 5D (copy to Working Parties 4B and 4C) - Satellite component of IMT	SG 4
5D/798	DECT information regarding the update of Recommendation ITU-R M.1457	ETSI
5D/799	Draft new Report on the sharing studies in relation to Resolution 224 in the bands 790-862 and 698-806 MHz	Director, BR
5D/800	Draft revision of Report ITU-R M.2039-1	Director, BR
5D/801	Draft revision of Recommendations ITU-R M.1580-3 and ITU-R M.1581-3	Director, BR
5D/802	Liaison statement on X.oacms - Overall aspects of countering messaging spam in mobile networks	ITU-T SG 17 Management
5D/803	Update on recent activities within CEPT	ITU Region 1 (CEPT) Rapporteur
5D/804	Reply liaison statement on development of a new Handbook on global trends in International Mobile Telecommunications (IMT)	ITU-T Q.13/13 Rapporteur Group
5D/805	Comments/Revisions to "Working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3"	United States of America
5D/806	Proposed edits to the IMT-Advanced update process	United States of America
5D/807	Progression of the work on Recommendation ITU-R M.1457-11	United States of America
5D/808	Progression of the work on IMT.Radio	United States of America
5D/809	Proposed revisions to the working document towards a draft new Recommendation ITU-R M.[IMT.MITIGATION]	United States of America
5D/810	Proposed revisions to the working document towards a draft new Report ITU-R M.[IMT.CRS]	United States of America
5D/811	Proposed draft liaison statement to Working Party 5A related to Working Party 5D's working document towards a draft new Report ITU-R M.[IMT.CRS]	United States of America
5D/812	Update on CITELE PCC.II activities	CITELE Rapporteur
5D/813	Format of references in PDNR ITU-R M.[IMT.RSPEC]	IEEE
5D/814	Vocabulary terms related to IEEE 802.16	IEEE
5D/815	Progression of the working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3 - Frequency arrangements for implementation of the terrestrial component of International Mobile Telecommunications (IMT) in the bands identified for IMT in the Radio Regulations (RRs)	Canada
5D/816	Progression of the preliminary draft new Report ITU-R M.[IMT.RADIO]- Preliminary draft new Report on the outcome of Steps 4-7 of the IMT-Advanced process including characteristics of the radio interfaces of IMT-Advanced [IMT.RADIO]	Canada

5D/817	Progression of the preliminary draft new Recommendation ITU-R M.[IMT.RSPEC] - Working document towards a preliminary draft new Recommendation ITU-R M.[IMT.RSPEC]	Canada
5D/818	Progression of the working document towards a draft new Recommendation/Report ITU-R [IMT.UPDATE] - Analysis and assessment of global broadband wireless services and marketplace for IMT	Canada
5D/819	Proposed editorial amendments to the draft revision of "Migration of IMT-2000 systems" - Supplement 1 Handbook - Deployment of IMT-2000 systems	Canada
5D/820	Proposed liaison statement to Working Party 5A - Studies on compatibility of broadband wireless access (BWA) systems and fixed-satellite service (FSS) networks in the 3 400-4 200 MHz band	Canada
5D/821	Work on electro magnetic compatibility (EMC) disturbances within a single device	Canada
5D/822	Proposal of actions for IMT-Advanced development at the 9 th meeting of Working Party 5D	China (People's Republic of), Korea (Republic of) , Japan
5D/823	IMT Services growth of CMCC	China Mobile Communications Corporation
5D/824	Performance of TD-LTE codebook based precoding in India rural scenario	China Mobile Communications Corporation
5D/825	Proposal to the preliminary draft new Report ITU-R M.[IMT.UPDATE]	DaTang Telecom. Technology & Industry Hod'g Co. Ltd., ZTE Corporation, Huawei Technologies Co. Ltd.
5D/826	Text proposal on preliminary draft new Report (PDNR) of ITU-R.[IMT.CRS] - Cognitive radio systems specific to IMT systems	China (People's Republic of)
5D/827	Proposed measurement examples of the vertical isolation between two antennas and introduction part of spurious, blocking and intermodulation effects	China (People's Republic of)
5D/828	Proposed revision of working document for the draft new Recommendation/Report ITU-R [IMT.UPDATE] - Analysis and assessment of global broadband wireless services and marketplace for IMT	Japan
5D/829	Proposed modifications to working document towards a preliminary draft new Report ITU-R M.[IMT.CRS] - Performance of IMT systems with CRS capability	Japan
5D/830	Proposal on conclusion of Step 7 of IMT-Advanced process	Japan
5D/831	Proposed modifications to the working document towards PDNR M.[IMT.RSPEC]	Japan
5D/832	Considerations on the development of frequency arrangements in the 3 400-3 600 MH band	Japan
5D/833	Proposed modifications to the working document towards a PDNR ITU-R M.[IMT.MITIGATION]	Japan
5D/834	Proposed modifications to preliminary draft new Report ITU-R M.[IMT.RADIO]	China (People's Republic of), Korea (Republic of) , Japan
5D/835	Updated material for inclusion in the revision of Recommendation ITU-R M.1036-3 - Proposed frequency arrangement for UHF band 698-806 MHz	India (Republic of)
5D/836	Revisions to "Working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3" in order to recommend frequency arrangements	Germany (Federal Republic of)

5D/837	Proposal for a revision of Recommendation ITU-R M.1579	Germany (Federal Republic of)
5D/838	The study results of Joint Task Group 5-6 and the related work under Resolution 224 (Rev.WRC-07)	Chairman, SG 5
5D/839	Frequency arrangements and flexibility in "Working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3"	United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland
5D/840	APT common views on harmonised frequency arrangements for IMT in the band 698-806 MHz	Asia-Pacific Telecommunity (APT)
5D/841	Revision of Recommendation ITU-R M.1036 - Proposal for 698-806 MHz UHF frequency arrangement	New Zealand
5D/842	Draft Circular Letter 5/LCCE/2 Add.4	Chairman and Vice-Chairman WP 5D
5D/843	Proposed update of the working document toward the preliminary draft new Report ITU-R M.[IMT.CRS] - Cognitive radio systems specific for IMT systems	Brazil (Federative Republic of), France
5D/844	Proposed preliminary draft new Report ITU-R M.[IMT.UPDATE] - Analysis and assessment of global broadband wireless services and marketplace for IMT	Brazil (Federative Republic of)
5D/845	Considerations on frequency arrangements for the 2 500 MHz to 2 690 MHz band	Brazil (Federative Republic of)
5D/846	Proposed modification on ITU-R preliminary draft new Report [IMT.UPDATE]	Korea (Republic of)
5D/847	Proposed structure for preliminary draft new Report ITU-R M.[IMT.UPDATE]	China (People's Republic of), Korea (Republic of), Japan
5D/848	Response to ITU-R Working Party 5D on "Revision of Report ITU-R M.2039-1"	WiMAX Forum
5D/849	Development of the Handbook on global trends in IMT	WiMAX Forum
5D/850	Response to ITU-R Working Party 5D on "Revisions of Recommendations ITU-R M.1580-3 and ITU-R M.1581-3"	WiMAX Forum
5D/851	Contribution to working document towards a draft new Report on the coexistence studies in relation to Resolution 224 and Question 229/5 in the bands 790-862 and 698-806 MHz	WiMAX Forum
5D/852	Implication of the adoption of a harmonised digital dividend UHF channel plan for Region 3 in the band 698 to 806 MHz	Free TV Australia Ltd.
5D/853	Proposal related to the working document towards a preliminary draft new Recommendation ITU-R M.[IMT.MITIGATION]	Italy , France
5D/854	Proposal related to the working document towards a preliminary draft new Report ITU-R M.[IMT.CRS]	Italy , France
5D/855	Response to ITU-R Working Party 5D on revision of Report ITU-R M.2039-1 and work on UHF sharing studies	Alcatel-Lucent France, ZTE Corporation, Telefónica S.A., Telefon AB - LM Ericsson, Telecom Italia S.p.A., Samsung Electronics Co., Ltd., NTT DoCoMo Inc., NEC Corporation, Motorola Inc., Hitachi Ltd., DaTang Telecom. Technology & Industry Hod'g Co Ltd, AT&T Inc., Alcatel-Lucent Shanghai Bell, Alcatel-Lucent USA Inc.

5D/856	Response to ITU-R WP 5D on revision of Recommendations ITU-R M.1581-3 and ITU-R M.1581-3 (Working document towards Recommendations ITU-R M.1580-4 and ITU-R M.1581-4)	Alcatel-Lucent France, ZTE Corporation, Telefónica S.A., Telefon AB - LM Ericsson, Telecom Italia S.p.A., Samsung Electronics Co., Ltd., Qualcomm Inc., NTT DoCoMo Inc., NEC Corporation, Motorola Inc., Hitachi Ltd., DaTang Telecom. Technology & Industry Hod'g Co Ltd., AT&T Inc., Alcatel-Lucent Shanghai Bell, Alcatel-Lucent USA Inc.
5D/857	Revisions to "Working document towards a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R M.1036-3" in order to recommend frequency arrangements	France
5D/858	Modifications to the working document towards a preliminary draft new Recommendation ITU-R M.[IMT.MITIGATION]	France
5D/859	Antenna isolation and its frequency dependency	France Télécom Orange
5D/860	Clarification of parameters and methodology for sharing studies between MS and ARNS in the UHF band	TeliaSonera AB
5D/861	Update of working document towards a PDNR on isolation for antennas of base stations in the land mobile service including IMT	Telefon AB - LM Ericsson
5D/862	Input material for Recommendation ITU-R M.1036 698-806 MHz UHF frequency arrangement refinement	Telefónica S.A.
5D/863	Proposed revisions to the working document towards a draft new Recommendation ITU-R M.[IMT.MITIGATION]	SES WORLD SKIES
5D/864	Radar adjacent band selectivity	United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland
5D/865	Activities related to IMT-2000 and IMT-Advanced in Region 3	Region 3 Rapporteur
5D/866	Update on standards activities	Region 2 Rapporteur
5D/867	IMT-Advanced Form A submissions received by the Radiocommunication Bureau	Director, BR

付属資料5 出力文書一覧

Doc. 5D/TEMP/	Title	Source	Status
404	CONCLUSION OF STEP 7 OF IMT-ADVANCED DEVELOPMENT PROCES	WG Technology Aspects	1、ヲ、e
405 Rev.2	DRAFT NEW REPORT ITU-R M.[IMT.RADIO] THE OUTCOME OF THE EVALUATION, CONSENSUS BUILDING AND DECISION OF THE IMT-ADVANCED PROCESS (STEPS 4-7), INCLUDING CHARACTERISTICS OF IMT-ADVANCED RADIO INTERFACES	WG Technology Aspects	1、ロ、b
406	LIAISON STATEMENT TO EXTERNAL ORGANIZATIONS ON THE SCHEDULE FOR UPDATING RECOMMENDATION ITU-R M.1457-10 TO REVISION 11	WG Technology Aspects	1、ホ、a
407 Rev.2	PRELIMINARY DRAFT REVISION OF RECOMMENDATION ITU-R M.1036-3 FREQUENCY ARRANGEMENTS FOR IMPLEMENTATION OF THE TERRESTRIAL COMPONENT OF INTERNATIONAL MOBILE TELECOMMUNICATIONS (IMT) IN THE BANDS IDENTIFIED FOR IMT IN THE RADIO REGULATIONS (RR)	WG Spectrum Aspects	1、イ、e
408	DETAILED WORKPLAN FOR REVISION(S) OF RECOMMENDATION ITU-R M.1036-3	AH – Workplan	1、ヌ、e
409	DRAFT LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 5A STATUS OF WORKING DOCUMENT TOWARDS THE PRELIMINARY DRAFT NEW REPORT ITU-R M.[IMT.CRS] COGNITIVE RADIO SYSTEMS SPECIFIC FOR IMT SYSTEMS	WG Technology Aspects	1、ホ、a
410 Rev.1	WORKING DOCUMENT TOWARDS THE PRELIMINARY DRAFT NEW REPORT ITU-R M.[IMT.CRS] COGNITIVE RADIO SYSTEMS SPECIFIC FOR IMT SYSTEMS	WG Technology Aspects	1、ロ、e
411	MEETING REPORT OF SWG FREQUENCY ARRANGEMENTS	Chairman, SWG Frequency Arrangements	1、ル、c
412 Rev.1	DRAFT CIRCULAR LETTER 5/LCCE/2 ADDENDUM 4	WG Technology Aspects	1、チ、a
413 Rev.1	DRAFT LIAISON STATEMENT ON IMT-ADVANCED DEVELOPMENT	WG Technology Aspects	1、ホ、a
414	MEETING REPORT OF DRAFTING GROUP COORDINATION	Chairman, Drafting Group Coordination	1、ル、c
415	DRAFT LIAISON STATEMENT TO ITU-D SG 2 AND ITU-T Q.13/13 RAPPORTEUR GROUP (COPY TO WP 5A AND WP 4C) PROGRESS UPDATE - DEVELOPMENT OF HANDBOOK ON GLOBAL TRENDS IN IMT	WG General Aspects	2、ホ、a
416 Rev.1	DRAFT LIAISON STATEMENT TO ITU-D SG 2 (COPY TO WP 5A) REVISION TO SUPPLEMENT 1 HANDBOOK – DEPLOYMENT OF IMT-2000 SYSTEMS – MIGRATION TO IMT-SYSTEMS	WG General Aspects	2、ホ、a
417 Rev.1	DETAILED WORK PLAN ON GLOBAL TRENDS IN IMT [IMT.HANDBOOK]	AH – Workplan	1、ヌ、e
418	WORKING DOCUMENT TOWARDS A HANDBOOK ON GLOBAL TRENDS IN IMT - IMT.[HANDBOOK]	WG General Aspects	1、ヘ、e
419 Rev.1	DRAFT REVISION TO SUPPLEMENT 1 HANDBOOK – DEPLOYMENT OF IMT-2000 SYSTEMS – MIGRATION TO IMT SYSTEMS	WG General Aspects	2、ヘ、b

Doc. 5D/TEMP/	Title	Source	Status
420	WORKPLAN FOR THE UPDATE TO RECOMMENDATION ITU-R M.1579	AH – Workplan	1、又、e
421	WORKPLAN FOR COGNITIVE RADIO SYSTEMS (CRS) ISSUES RELATED TO IMT	AH – Workplan	1、又、e
422 Rev.1	MEETING REPORT OF SWG RADIO ASPECTS	Chairman, SWG Radio Aspects	1、ル、c
423 Rev.1	DRAFT LIAISON STATEMENT TO EXTERNAL ORGANISATIONS REVISION OF RECOMMENDATION ITU-R M.1224	AH – Vocabulary	2、ホ、a
424	PRELIMINARY DRAFT REVISION OF RECOMMENDATION ITU-R M.1224	AH – Vocabulary	1、イ、e
425	WORK PLAN FOR TERMS AND DEFINITIONS RELATED TO IMT	AH – Workplan	1、又、e
426 Rev.1	MEETING REPORT OF AD HOC VOCABULARY	AH – Vocabulary	1、ル、a
427	PROCEDURE FOR THE DEVELOPMENT OF DRAFT REVISIONS OF RECOMMENDATION ITU-R M.[IMT.RSPEC]	WG Technology Aspects	1、ヲ、e
428	WORKING DOCUMENT TOWARDS A PRELIMINARY DRAFT NEW RECOMMENDATION ITU-R M.[IMT.RSPEC] DETAILED SPECIFICATIONS OF THE TERRESTRIAL RADIO INTERFACES OF IMT-ADVANCED	WG Technology Aspects	1、イ、e
429	DETAILED WORKPLAN ON DETAILED SPECIFICATIONS FOR IMT-ADVANCED, [IMT.RSPEC]	AH – Workplan	1、又、e
430	WORKING DOCUMENT TOWARDS A DRAFT NEW REPORT ON THE COEXISTENCE STUDIES IN RELATION TO RESOLUTION 224 AND QUESTION 229 IN THE BANDS 790-862 AND 698-806 MHZ	WG Spectrum Aspects	1、ロ、e
431	DRAFT LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 1A PROTECTION OF RADIOCOMMUNICATION SERVICES USING DIGITAL MODULATION AGAINST INTERFERENCE CAUSED BY RADIATION FROM INDUSTRIAL, SCIENTIFIC AND MEDICAL (ISM) EQUIPMENT	WG Spectrum Aspects	1、ホ、a
432	DRAFT LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTIES 3J, 3M AND 3K (COPIED TO WP5B FOR INFORMATION) PROPAGATION METHODS TO BE USED FOR COEXISTENCE STUDIES BETWEEN MOBILE SERVICES AND OTHER SERVICES IN THE UHF BAND	WG Spectrum Aspects	2、ホ、a
433	DRAFT LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 5A COEXISTENCE STUDIES IN RELATION TO RESOLUTION 224 AND QUESTION 229	WG Spectrum Aspects	2、ホ、a
434	DRAFT LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 5B COEXISTENCE STUDIES IN RELATION TO RESOLUTION 224 AND QUESTION 229	WG Spectrum Aspects	2、ホ、a
435	DRAFT LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 5C COEXISTENCE STUDIES IN RELATION TO RESOLUTION 224 AND QUESTION ITU-R 229/5	WG Spectrum Aspects	2、ホ、a
436	DRAFT LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 6A COEXISTENCE STUDIES IN RELATION TO RESOLUTION 224 AND QUESTION ITU-R 229/5	WG Spectrum Aspects	2、ホ、a
437	DRAFT LIAISON STATEMENT TO EXTERNAL ORGANIZATIONS COEXISTENCE STUDIES IN RELATION TO RESOLUTION 224 AND QUESTION ITU-R 229/5	WG Spectrum Aspects	2、ホ、a
438	PRELIMINARY DRAFT NEW REPORT ON ISOLATION FOR ANTENNAS OF BASE STATIONS IN THE LAND MOBILE SERVICE INCLUDING IMT	WG Spectrum Aspects	1、ロ、e

Doc. 5D/TEMP/	Title	Source	Status
439	LIAISON STATEMENT TO ITU-R WORKING PARTIES 1A AND 5A (COPY FOR INFORMATION TO ITU-T STUDY GROUP 5) ISOLATION BETWEEN CO-LOCATED ANTENNAS OF SYSTEMS IN THE LAND MOBILE SERVICE INCLUDING IMT	WG Spectrum Aspects	2、ホ、a
440	MEETING REPORT OF SWG COORDINATION	SWG Coordination	1、ル、c
441 Rev.1	WORKSHOP TOWARDS IMT.UPDATE	WG General Aspects	2、ヲ、a
442	MEETING REPORT OF TECHNOLOGY SWG IMT SPECIFICATIONS	Chairman, SWG IMT Specifications	1、ル、c
443	OUTLINE FOR A LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 1A PROTECTION OF RADIOCOMMUNICATION SERVICES USING DIGITAL MODULATION AGAINST INTERFERENCE CAUSED BY RADIATION FROM INDUSTRIAL, SCIENTIFIC AND MEDICAL (ISM) EQUIPMENT	WG Spectrum Aspects	1、ホ、e
444	DRAFT LIAISON STATEMENT TO ITU-R WORKING PARTY 5A WORK ON ELECTRO MAGNETIC COMPATIBILITY (EMC) DISTURBANCES WITHIN A SINGLE DEVICE	WG Spectrum Aspects	1、ホ、a
445	PRELIMINARY DRAFT NEW RECOMMENDATION ITU-R M.[IMT.MITIGATION] TECHNIQUES DESIGNED TO INCREASE THE POTENTIAL FOR SHARING BETWEEN IMT SYSTEMS AND FSS NETWORKS IN THE 3.4 - 3.6 GHZ BAND	WG Spectrum Aspects	1、イ、e
446	DRAFT LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 5A STUDIES ON COMPATIBILITY OF BROADBAND WIRELESS ACCESS (BWA) SYSTEMS AND FIXED-SATELLITE SERVICE (FSS) NETWORKS IN THE 3 400-4 200 MHZ BAND	WG Spectrum Aspects	1、ホ、a
447 Rev.1	DRAFT LIAISON STATEMENT TO WORKING PARTY 4A TECHNIQUES DESIGNED TO INCREASE THE POTENTIAL FOR SHARING BETWEEN IMT SYSTEMS AND FSS NETWORKS IN THE 3.4-3.6 GHZ BAND	WG Spectrum Aspects	1、ホ、a
448	DRAFT REVISION OF REPORT ITU-R M.2039-1 CHARACTERISTICS OF TERRESTRIAL IMT-2000 SYSTEMS FOR FREQUENCY SHARING/INTERFERENCE ANALYSES	WG Spectrum Aspects	2、ロ、b
449	UPDATE TO THE DETAILED WORK PLANS OF SWG SHARING STUDIES DETAILED WORK PLAN FOR THE REVISION OF REPORT ITU-R M.2039	AH – Workplan	1、ヌ、e
450	DETAILED WORK PLAN ON PRELIMINARY DRAFT NEW REPORT ON ANALYSIS AND ASSESSMENT OF GLOBAL BROADBAND WIRELESS SERVICES AND MARKETPLACE FOR IMT	AH – Workplan	1、ヌ、e
451 Rev.1	DRAFT REVISION OF RECOMMENDATION ITU-R M.1580-3 GENERIC UNWANTED EMISSION CHARACTERISTICS OF BASE STATIONS USING THE TERRESTRIAL RADIO INTERFACES OF IMT-2000	WG Technology Aspects	1、イ、d
452 Rev.1	DRAFT REVISION OF RECOMMENDATION ITU-R M.1581-3 GENERIC UNWANTED EMISSION CHARACTERISTICS OF MOBILE STATIONS USING THE TERRESTRIAL RADIO INTERFACES OF IMT-2000	WG Technology Aspects	1、イ、d
453	MEETING REPORT OF SWG M.1580/81	Chairman, SWG M.1580/81	1、ル、c
454	MEETING REPORT OF SWG IMT UPDATE	Chairman, SWG IMT UPDATE	1、ル、c

Doc. 5D/TEMP/	Title	Source	Status
455 Rev.1	WORKING DOCUMENT FOR THE DRAFT NEW REPORT ITU-R [IMT.UPDATE] ANALYSIS AND ASSESSMENT OF GLOBAL BROADBAND WIRELESS SERVICES AND MARKETPLACE FOR IMT	WG General Aspects	1、ロ、e
456	MEETING REPORT OF AD HOC WORKPLAN	AH – Workplan	1、ル、a
457	CHAPTER 2 ITU-R WORKING PARTY 5D STRUCTURE AND WORKPLAN	AH – Workplan	1、又、e
458	MEETING REPORT OF SWG SHARING STUDIES	Chairman, SWG Sharing Studies	1、ル、c
459 Rev.1	REPLY TO LIAISON STATEMENT FROM WORKING PARTY 5A ON “MOBILE WIRELESS ACCESS SYSTEMS PROVIDING TELECOMMUNICATIONS FOR A LARGE NUMBER OF UBIQUITOUS SENSORS AND/OR ACTUATORS SCATTERED OVER WIDE AREAS IN THE LAND MOBILE SERVICE”	WG Technology Aspects	1、ホ、a
460	MEETING REPORT OF SWG IMT HANDBOOK	Chairman, SWG IMT HANDBOOK	1、ル、c
461	MEETING REPORT OF WORKING GROUP TECHNOLOGY ASPECTS	WG Technology Aspects	2、ル、a
462	MEETING REPORT OF WG SPECTRUM ASPECTS	WG Spectrum Aspects	1、ル、a
463	MEETING REPORT OF WORKING GROUP GENERAL ASPECTS	WG General Aspects	1、ル、a

* 分類

1	修正無し
2	修正有り

イ	勧告案
ロ	レポート案
ハ	決議(Resolution)案
ニ	Question 案
ホ	Liaison statement
ヘ	Hand book text
ト	CPM Report text
チ	Circular letter text
リ	Text for web page or ADV document
又	Work plan
ル	Meeting report
ヲ	その他(未定を含む)

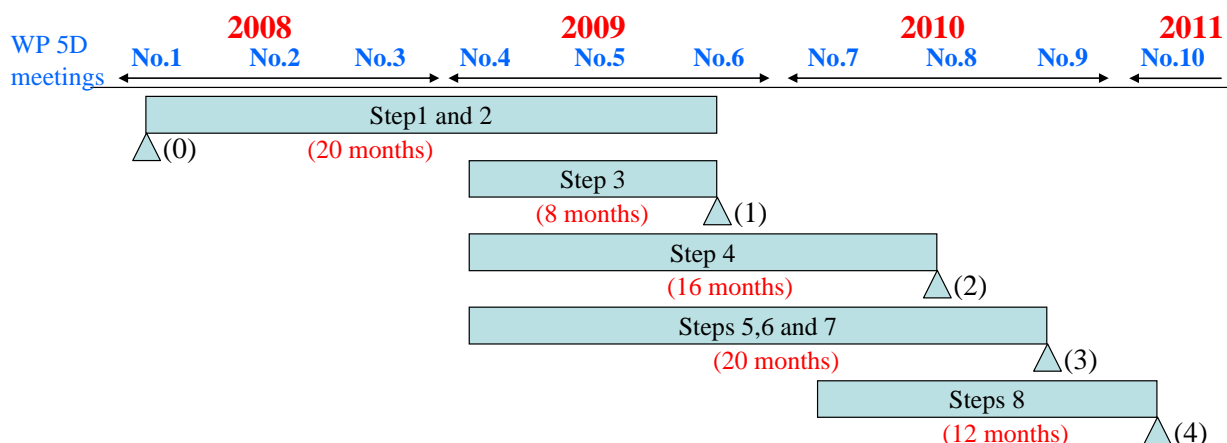
a	WP5D として承認
b	WP5D として合意(SG 会合提出)
c	WP5D PL 審議対象外
d	WP5D として否決(削除、差し戻し)
e	WP5D として継続(キャリアオーバー)

付属資料6 各WGの当面のスケジュール

WG 区分	2008												2009												2010																							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12												
全体	☆ WP5D 1st Geneva	☆ SG5				☆ WP5D 2nd U.A.E				☆ WP5D 3rd Korea			☆ WP5D 4th Geneva					☆ WP5D 5th Geneva				☆ WP5D 6th Germany			☆ WP5D 7th Italy				☆ WP5D 8th Vietnam					☆ WP5D 9th China	☆ SG5													
AH Circular Letter	○ サークュラレター 一部完成												○ サークュラレター 完成																																			
WG GEN																									● 新報告草 IMT.UPDATE 検討																							
WG TECH	☆ M.1457-7 RSPC 改訂勧告案 5.X.2 章情報 Certification を ITU へ提出 2008.1.31 ○ ◎ RSPC 改訂勧告案 M.1457-8 承認 (5.X.1 章等) RSPC 改訂勧告案 M.1457-8 承認 (5.X.1 章等) ● IMT.TECH 作業文書作成 ● IMT.EVAL 作業文書作成 ● M.1580/M.1581 改訂 勧告草案検討	● RSPC 改訂勧告草案 M.1457-9 検討 ○ IMT.TECH 承認 ● IMT.EVAL 作業文書作成 ● M.1580/M.1581 改訂 勧告草案検討											● RSPC 改訂勧告草案 M.1457-9 検討 ☆ M.1457-8 RSPC 改訂勧告案 5.X.2 章情報 Certification を ITU へ提出 2008.10.31 ○ Technology Description Template 承認 ○ IMT.EVAL 承認	○ RSPC 改訂勧告草案 M.1457-9 承認 (5.X.1 章等) ◎ RSPC 改訂勧告案 M.1457-9 採択 ● RSPC 改訂勧告草案 M.1457-10 検討 ● IMTRADIO 検討 ● M.1580/M.1581 改訂 勧告草案検討											◎ RSPC 改訂勧告案 M.1457-9 採択 ● RSPC 改訂勧告草案 M.1457-10 検討 ○ RSPC 改訂勧告草案 M.1457-10 承認 ● IMTRADIO 検討 ● M.1580/M.1581 改訂 勧告草案検討	◎ RSPC 改訂勧告案 M.1457-10 M.[IMTRADIO] 承認 ☆ M.1457-10 RSPC 改訂勧告草案 5.X.2 章情報 Certification を ITU へ提出 ○ IMTRADIO Report として承認 ● M.1580/M.1581 改訂 勧告草案検討																						
WG-SPEC	▲ M.2113 改訂検討 ● MBWA 共用 作業文書作成 ▲ IMT.Sharing 2300 検討 ▲ M1036-3 改訂検討	● M.2113 改訂検討 ● M.2039 改訂検討 ● MBWA2.5GHz 作業文書 ▲ IMT.SHARING 2300 検討 ● M1036-3 改訂作業文書作成											○ ◎ M.2113 改訂案承認 ● M.2039 改訂検討 ● MBWA2.5GHz 作業文書 ▲ IMT.SHARING 2300 検討 ● M1036-3 改訂作業文書作成	○ M.2039 改訂 報告案承認 ○ MBWA2.5GHz 新報告案承認 ▲ IMT.SHARING 2300 検討 ● M1036-3 改訂作業文書作成											▲ M.2039 改定 作業計画作成 ▲ IMT.SHARING 2300 検討中止 ● M1036-3 改訂作業文書作成	● M.2039 改定 作業文書作成 ● ANT ISO 作業文書作成 ▲ IMT Mitigation 作業計画作成 ▲ IMT.SHARING.U HF 作業計画作成 ● M1036-3 改訂作業文書作成											● M.2039 改定 作業文書作成 ● ANT ISO 作業文書作成 ● IMT Mitigation 作業文書作成 ● IMT.SHARING.U HF 作業文書作成 ● M1036-3 改訂 作業文書作成											○ M.2039 改定 改訂案承認 ● ANT ISO 作業文書作成 ● IMT Mitigation 作業文書作成 ● IMT.SHARING.U HF 作業文書作成 ● M1036-3 改訂 作業文書作成
AH VOC																									● M1224-1 改訂案作成																							

注 1) ● : 作業文書の作成 ▲ : 準備等 ○ : 勧告草案の承認 (WP5D) ◎ : 勧告案の採択又は報告案の承認 (SG5) ⊙ : 勧告として成立

参考資料1 IMT-Advanced無線インタフェース勧告の開発スケジュール



Steps in radio interface development process:

- | | |
|---|--|
| Step 1: Issuance of the circular letter | Step 5: Review and coordination of outside evaluation activities |
| Step 2: Development of candidate RITs and SRITs | Step 6: Review to assess compliance with minimum requirements |
| Step 3: Submission/Reception of the RIT and SRIT proposals and acknowledgement of receipt | Step 7: Consideration of evaluation results, consensus building and decision |
| Step 4: Evaluation of candidate RITs and SRITs by evaluation groups | Step 8: Development of radio interface Recommendation(s) |

Critical milestones in radio interface development process:

- | | | | |
|--|--------------|---|---------------|
| (0): Issue an invitation to propose RITs | March 2008 | (2): Cut off for evaluation report to ITU | June 2010 |
| (1): ITU proposed cut off for submission of candidate RIT and SRIT proposals | October 2009 | (3): WP 5D decides framework and key characteristics of IMT-Advanced RITs and SRITs | October 2010 |
| | | (4): WP 5D completes development of radio interface specification Recommendations | February 2011 |

IMT-Advanced A2-01

IMT-ADV/2-E Revision.1